

業 通 交 及	
第廿四項 金融及保險業	第一九八目 有價證券買賣ノ媒介 第一九九目 其他ノ賣買ノ媒介 第二〇〇目 雇人周旋業 第二〇二目 其他ノ人事周旋業 第二〇三目 其他ノ周旋業 第二〇四目 銀行 第二〇五目 質屋 第二〇六目 其他ノ金融業 第二〇七目 保險業 第二〇八目 倉庫業其他ノ物品預り業 第二〇九目 旅人宿、下宿屋及木賃宿 第二一〇目 席貸業 第二一一目 料理店及其他ノ飲食店 第二一二目 遊藝場及興行場ノ營業 第二一三目 其他ノ商業 第二一四目 郵便、電信及電話業 第二一五目 鐵道業 第二一六目 電氣鐵道業 第二一七目 人力車輓業 第二一八目 車馬運輸業 第二一九目 船舶運輸業 第二二〇目 運輸取扱業 第二二二目 其他ノ交通業 第二二三目 軍人及軍屬 第二二四目 官吏員 第二二五目 祭祀及宗教ニ關スル業 第二二六目 醫藥、調劑其他保健ニ關スル業 第二二七目 辯護士、執達吏及公證人 第二二八目 著作編輯其他文筆ニ關スル業 第二二九目 技藝及娛樂ニ關スル業
第廿五項 物品實業及倉庫業 其他ノ物品預り業	
第廿六項 宿屋、飲食店、遊藝場及興行場ノ營業	
第廿七項 其他ノ商業	
第廿八項 交通業	
第廿九項 軍人及軍屬	
第三十項 官吏員	
第卅一項 自由業	
第四款 公務及自由業	

第五款 其他ノ有職業者	第卅二項 其他ノ有職業者	第二三〇目 其他ノ自由業
第六款 無職業者及職業ヲ申告セサル者	第卅三項 財産及恩給等ニ依ル者	第二三一目 日傭稼
	第卅四項 其他ノ無職業者	第二三二目 所屬不詳ノ家ト使用人
	第卅五項 職業ヲ申告セサル者	第二三三目 其他ノ有職業者
		第二三四目 財産及恩給等ニ依ル者
		第二三五目 救助ヲ受クル者
		第二三六目 囚人
		第二三七目 其他ノ無職業者
		第二三八目 職業ヲ申告セサル者

●結婚離婚報告書ニ通差出方

明治三十三年十一月十三日(各區役所)市訓令甲第六十二號  
 今般東京府訓令第四十三號ヲ以テ東京府報告例改正相成候ニ付テハ自今結婚離婚及出産月報半年報及年報ニ係ルモノハ該報告例ノ様式ニ基キ一通ヲ調製シ定期日迄ニ當廳ニ差出スヘシ

●府報告例中兵事ニ關スル諸表ニ通差出方

明治四十二年二月十三日(各區長宛)助役通牒一發第五千四十號  
 東京府報告例ニ依リ差出スヘキ兵事ニ關スル諸表(徵發物件)ノ員數ニ付テハ明治三十四年二月八日總發第一六二號通牒ノ次第モ有之候處右ハ本市統計年表編纂ノ資料ニ供度候條自今ニ通宛御差出相成度此段及通牒候也



追テ本文諸表ハ東京府報告例汎則第四條ニ依リ必ス當廳經由ノ義ト御承知相成度爲念申添候也

### 府報告例中徴兵表差出方

明治三十四年六月十八日(各區役所)  
市訓令甲第三十五號

明治三十四年三月三十一日東京府報告例中徴兵表ニ追加セラレタル年報(様式第六十三ノ三)ハ該報告例ノ様式ニ基キ調製シ毎年定期日ノ五日前ニ當廳ニ差出スヘシ

### 府報告例中徴發物件表差出方

方

明治四十二年八月十三日(各區役所)  
市訓令甲第二十七號

今般東京府訓令第二十一號ヲ以テ東京府報告例中徴發物件表報告者改正相成候ニ付テハ該報告例ノ様式ニ準シ調製シ明治四十二年度ヨリ起算シ毎三年目ノ二月十五日マテニ當廳ニ差出スヘシ

### 統計材料蒐集事項合議方

明治四十五年四月十九日(各部)  
市訓令甲第二十號

自今統計書又ハ統計圖表ヲ印刷スルトキ及一定ノ様式等ヲ以テ諸種ノ統計材料ヲ蒐集スルトキハ豫メ統計課ヘ合議スヘシ  
明治三十三年十二月市訓令甲第六十八號ハ之ヲ廢止ス

### 統計年表出版發賣方

明治三十九年七月十七日  
市會議決第百二十九號

本市統計年表ハ隨意契約ヲ以テ之ヲ出版發賣セシムルコトヲ得

### 區役所理事事件數其他ノ報告書様式

書様式

明治二十七年十二月七日(各區役所)  
市訓令第百三十五號

毎年其役所取扱ニ係ル理事事件數其他ノ件別紙様式ニ據リ取調整年一月六日限リ報告スヘシ

(別紙)

明治何年中理事事件數

(別紙中△印ハ朱書)

- 一 收受文書數 何件
- 一 發送文書數 何件
- 計 何件
- 前年ニ比シ増減△
- 庶務掛理事事件數 何件
- 一 戶籍掛同 同
- 一 收稅掛同 同
- 一 出納掛同 同
- 計 何件
- 前年ニ比シ増減△
- 編纂簿冊數 何冊

明治何年十二月三十一日附屬員以下現員調

種類	給料	人員
附屬員	何圓	何人
同	何錢	何人
小使	何圓	何人
同	何錢	何人
給仕	何圓	何人

同	何	錢	何
計	何	何	人

明治何年十二月三十一日備品現在調

品目	個數	前年調ノ個數	差引増減△	増減ノ理由
卓子				
椅子				
机				
何				
計				

### 火災實況即時報告方

明治三十一年十二月一日(各區役所)  
市訓令甲第八號

其區内ニ火災有之節ハ可成詳細ノ實況ヲ具シ即時當廳ヘ報告スヘシ



### 區吏員異動報告様式

明治三十三年二月二十三日  
市訓令甲第十二號(各區役所)

其區書記以下吏員ノ異動ハ別紙雜形ニ依リ其都度報告スヘシ  
(別紙) 吏員異動報告

年 月 日	異 動	職 別	姓 名
何年何月何日	何掛長ヲ命ス(何掛長兼務ヲ命ス) 何掛ヲ命ス(何掛兼務ヲ命ス) 何掛ニ轉ス	書 記	何 之 誰
何年何月何日	拜命月給何圓(日給何拾錢) 增給月給何圓(日給何拾錢)	雇(臨時雇)	何 之 誰
	何掛ヲ命ス(何掛兼務ヲ命ス) 何掛ニ轉ス		
	依願解雇ス(解雇ス)		
	死亡		

右及報告候也  
年 月 日  
市 長 宛

區 長

### 第六節 雜件

#### 市吏員席次規程

明治四十二年二月二十日(市役所、各區役所、市訓令第一號) 市訓令第一號(所屬公署)  
市長助役收ノ席次ハ左ノ順序ニ依ル

- 第一條 本市有給吏員入役ヲ除ク
  - 一 年俸ヲ受クル者
  - 二 月俸ヲ受クル者
  - 三 雇及之ニ準スル者
- 第二條 前條各號内ニ於ケル席次ハ俸給多キ者俸給相同シキトキハ辭令ノ日早キ者ヲ上席トシ若シ辭令ノ日同シキトキハ前席次ニ依リ之ヲ定ム但減給セラレタル者ハ其首席トス
- 第三條 前項前席次ニ依リ難キトキハ年齡長シタル者ヲ上席トス
- 第四條 第一條各號内ニ於ケル轉職ノ場合ニ其俸給相同シキトキハ從前ノ席次ヲ變更セズ

#### 市役所内電話交換室宿直設置並賄支給方

大正元年十一月七日  
市長判決一發第八千五百四十三號  
執行時間外ノ電話交換ニ便セン爲メ交換室ニ宿直ヲ置ク(中)一夜  
金拾六錢(二賄八錢)ヲ支給ス(略)

#### 廳中取締ニ關スル規程

明治四十年五月二十九日(各課)  
市訓令甲第十六號

- 廳中取締ニ關スル規程左ノ通定ム
- 一 各課吏員ハ退廳時限後輪次各室一名宛室内取締ヲ爲スヘシ但冬期間(自十一月一日)ハ警火ノ爲メ特ニ火氣ノ消滅ニ注意スヘシ
  - 二 前項ノ吏員ハ其室内ノ吏員退出シ火氣消滅シタル時ハ帳簿ニ其時刻ヲ記シ廳中巡視員ニ交付シ立會ノ上之ヲ引渡スヘシ
  - 三 吏員其他ノ者出勤シタル時又ハ臨時開扉ヲ要スルトキハ廳中巡視員ニ通告シ開扉ヲ求ムヘシ
  - 四 廳中巡視員ハ第二項ノ通告ヲ受ケタルトキハ直ニ使丁ヲ督シ室内ノ掃除ヲ爲サシメタル上戸扉ヲ閉鎖スヘシ
  - 五 廳中巡視ハ帳簿ヲ備置キ開閉ニ關スル要項ヲ記シ翌日調度課長ノ檢閱ニ供スヘシ

#### 非常線通行證保管方

明治四十五年四月二十二日(各部長宛)  
助役通牒一發第一萬二千四百五十六號  
先般警視廳ヨリ下附ヲ受ケ貴部内一部ノ吏員ニ交付シタル非常線通行證ハ本市備品トシテ左記各項ニヨリ御處理相成度此段申進候



也

(左記)

- 一 轉任退職及死亡ノ時ハ物品取扱主任ニ返付セシムルコト
- 一 毀損紛失等ノ場合ニハ速ニ届書ヲ差出サシムルコト
- 一 交付ヲ受ケタル者ノ氏名ヲ明瞭ニ爲シ置クコト

### ● 區役所ニ充用スル土地建物ノ圖面備置方

明治三十四年五月四日  
市訓令第一號(各區役所)

- 其役所ニ充用スル土地建物ノ圖面左ノ條項ニ據リ二通ヲ調製シ一  
ヲ本年七月十五日マテニ當廳へ差出シ一ヲ原簿トシテ其役所ニ備  
置キ増減ノ時時之ヲ加除シ且其旨届出ツヘシ
- 一 製圖ハ曲尺六分ヲ以テ一間トシ用紙ハ美濃紙二枚續トス
  - 二 土地ノ概形ヲ記シ其内ニ建物ヲ圖スヘシ
  - 三 土地ノ坪數及ヒ其ノ所在町名番地ヲ記シ其假用ニ係ルモノハ所有者ノ氏名ヲ記スヘシ
  - 四 市ノ經濟ニ屬スル建物ハ墨線假用ニ係ルモノハ朱線ヲ以テ圖シ其ノ假用ノモノハ所有者ノ氏名ヲ記スヘシ
  - 五 室内ノ區劃ヲ圖シ其坪數及何係何部屋等ヲ記スヘシ
  - 六 板間ハ黄、敷物アル部分ハ赤、疊ハ白、土間ハ淡墨ヲ以テ

色別スヘシ

七 門竝ニ周圍ノ塀等ヲ圖シ且其間數ヲ記スヘシ

### ● 區役所建物使用認可申請方

明治三十三年四月十四日  
市訓令甲第十七號(各區役所)

直接市、區ノ公共事務ニ關セサルモノヲシテ往其區役所建物ノ一部又ハ全部ヲ使用セシムル向モ有之趣果シテ然ラハ施政上不都合不尠候ニ付直接市、區ノ公共事務ニ關スルモノヲ除ク外他ニ使用セシムルトキハ豫メ當廳ノ認可ヲ受クヘシ

### ● 犯罪ノ告發ヲ爲スヘキ場合

#### 二 事實具申方

明治三十四年一月十四日  
市訓令甲第一號(各區役所)

刑事訴訟法第五十二條ニ依リ告發ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ事實ヲ詳記シ豫メ(本市參事會)へ具申スヘシ

### ● 區役所訴訟費請求書記載事

### 項

明治二十八年五月二日  
市訓令第六十六號(各區役所)

訴訟費請求書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 訴訟費概算額及内譯
- 二 債權額
- 三 債務者ノ住所氏名
- 四 訴訟代理人氏名
- 五 仕拂命令又ハ假差押ヲ請求スル見込ナリヤ否
- 六 執達吏立替金ヲ要スル見込ナルヤ否
- 七 報酬ニ付テハ出廷度數及關係年月

### ● 願届書等作製請求ニ關スル規定

明治三十六年十二月五日  
市告示第百十號

- 第一條 本市役所又ハ區役所ヲ經テ他ノ行政廳ニ願届書等ヲ提出セントスル者ハ其區役所ニ書類ノ作製ヲ請求スルコトヲ得
- 第二條 願届書等ノ作製ヲ請求セントスル者ハ區役所ニ出頭シ要領ヲ吏員ニ申立テ其書類ニ捺印スヘシ
- 第三條 左ニ掲クルモノハ書類ノ作製ヲ拒絕スルコトアルヘシ

第一篇 通規 第五類 職制及處務 第六節 雜件

- 一 願届書ニ添付スヘキ土地建物等ノ圖面及ヒ其他ノ書類
  - 一 法律上疑義ニ屬スル事項
  - 一 事務ノ都合ニ依リ區長ニ於テ作製ニ應ジ難シト認メタルモ
- 第四條 戶籍役場ニ提出スヘキ書類ハ本規定ニ準據シ其作製ヲ請求スルコトヲ得
- 第五條 本規定ハ明治三十六年十二月二十一日ヨリ之ヲ施行ス

### ● 幣帛供進使服保管及供用方

四年六月二十三日助役(各區長宛)「赤坂區」  
通牒一發第五千二百三號(ヲ除ク)

本年四月二十九日勅令第三百三十號ヲ以テ公布セラレタル官國幣社以下幣帛供進使服制ニ依リ供進使服調製致候ニ付左記要項ニ依リ共用相成度此段及通牒候也

幣帛供進使服保管及共用ニ關スル要項

- 一 幣帛供進使服ハ三組ヲ十四區ニ於テ共用スルコト其保管區及共用區ハ左ノ通トス
- (一) 壹組 保管區(芝)
- 共用區 日本橋、京橋、芝、麻布
- (二) 壹組 保管區(小石川)
- 共用區 麴町、神田、四谷、牛込、本郷、小石川
- (三) 壹組 保管區(淺草)



第六類服

務

第一篇 通規 第五類 職制及處務 第六節 雜件

共用區 下谷、淺草、本所、深川

二 供進使服ヲ供用セントスルトキハ之ヲ保管區ヨリ借り受ケ  
使用ノ後ハ直ニ返還スルコト

三 共用區内ニ於テ供進日重複シ使用ニ支障アルトキハ他ノ保  
管區ニ就キ前項ノ例ニ依ルコト

四 幣帛供進使服壹組ノ區別(奏任官服制ニ依ル)

冠 (垂纓掛緒) 貳頭 (大中)

冬袍 壹領

夏袍 壹領

單 壹領

袴 壹領

笏 壹握

檜扇 壹握

帖紙 壹握

履 壹足

白衣 壹枚

以上



## 第六類 服務

### ●市吏員服務規程

明治三十三年十一月十六日  
市訓令甲第六十四號  
(各課、各區役所、養育院、駒込病院、消毒所)

- 第一條 市吏員ハ本市ニ對シ忠實勤勉ヲ主トシテ秩序ヲ守リ各其ノ職務ヲ盡スヘシ
- 第二條 市吏員ハ廉耻ヲ重シ貪汚ノ所爲アルヘカラス
- 第三條 市吏員ハ公務ニ關スル機密ヲ漏洩スルコトヲ得ス  
裁判所ノ召喚ニ依リ證人又ハ鑑定人ト爲リ職務上ノ祕密ニ就キ訊問ヲ受ケタルトキハ市長又ハ(市參事會)ノ許可ヲ得タル件ニ限り供述スルコトヲ得
- 第四條 市吏員ハ職務上未發ノ文書ヲ他人ニ漏示スルコトヲ得ス
- 第五條 市吏員ハ(市參事會)ノ許可ヲ得ルニアラサレハ職務ヲ離レ及職務上居住ノ地ヲ離ルルコトヲ得ス
- 第六條 市吏員ハ(市參事會)ノ許可ヲ得ルニアラサレハ他ノ有給職務ヲ兼テ及營利會社ノ役員トナリ若クハ報酬ヲ得テ囑託業務ニ從事シ又ハ商業ヲ營ムコトヲ得ス
- 第七條 市吏員ハ(市參事會)ノ許可ヲ得ルニアラサレハ其公務ニ關シ何等ノ名義ヲ以テスルモ總テ他人ノ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス
- 第八條 本規程ハ凡テ市ノ俸給ヲ得テ公務ニ從事スルモノニ適用ス

ス

### ●市吏員身元保證規程

大正二年三月五日  
市告示第十八號

- 第一條 市收入役市副收入役又ハ區收入役ニ就職シタル者ハ就職後直ニ左ノ身元保證金ヲ市長ニ提供スヘシ
- 市收入役 千 圓  
市副收入役 八百圓  
區收入役 五百圓
- 第二條 前條ノ身元保證金ハ國債券又ハ勸業債券ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得此場合ニ於テハ其額面ヲ十分ノ八トシテ計算ス
- 第三條 區收入役ニ就職シタル者ハ市長ノ許可ヲ受ケ保證人二人以上ヲ立テ第一條ノ身元保證金ニ代フルコトヲ得
- 第四條 前條ノ保證人ハ本市公民ニシテ市内ニ土地ヲ所有シ且直接國稅年額拾圓以上ヲ納ムル者タルコトヲ要ス  
保證人中前項ノ資格要件ヲ缺クトキハ更ニ保證人ヲ立テ市長ノ許可ヲ受クヘシ
- 第五條 身元保證金又ハ代供シタル有價證券ハ本人退職スルモ其關係シタル收支ニ付市會ノ決算認定後ニ非サレハ之ヲ還付セス但市長ニ於テ在職中ノ出納検査ヲ爲シ其正當ナルコトヲ認ムル



トキハ決算認定前之ヲ還付スルコトアルヘシ  
第三條ノ保證債務ノ消滅ニ付テハ前項ニ準ス  
第六條 第一條ニ定ムルモノノ外特ニ身元保證ヲ徵スルノ必要アル吏員ニ關シテハ市參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

### 區役所吏員服務心得方

明治三十年八月六日 (各區長)  
市訓令甲第十四號

吏員ノ公務ニ從事スルヤ敏活丁寧深切ヲ以テ威信ヲ保タサルヘカラス然ルニ近來輒モスレハ之ニ反スルノ舉動之レアル哉ニ相聞ケリ例之ハ出頭時限ヲ遲緩シ或ハ人民ニ接スルノ言語穩和ナラス或ハ執務スル所深切ナラス或ハ區役所出入ノ際袴ヲ著用セサルカ如キモ亦戒飭ヲ加ヘサルヘカラス就テハ自今一層其ノ風紀ヲ肅ニシ節制ヲ嚴ニスルノ必要アルヲ認メリ直接監督ノ任ニ膺ル各位ニ於テ厚ク此旨趣ヲ豫メ周到ナル注意ヲ加ヘ置キ萬一不都合ノ者之レアルニ於テハ毫モ假借スルコトナク其ノ情狀ヲ具シ内申セラ

追テ區役所構内等ニアル代書人ニ於テ顧問屆書ヲ代書スルニ方リ種々ノ弊害ヲ生シ公衆ヲシテ迷惑ヲ感セシムルモノ有之哉ニ相聞候條是亦相當ノ取締ヲ爲サルヘシ

### 市吏員服務ニ關スル注意

明治四十二年六月  
十六日市訓 (各局課、各區役所、養育院、病  
院、消毒所、衛生試驗所、圖書館)  
令第六號

社會ノ進歩ト國運ノ興隆トニ伴ヒ本市ノ行政ハ益繁多ニシテ複雜ナリ直接局ニ當リ事務ヲ執ル者ハ勉メテ時勢ニ後レズ其職務ヲ勵マサルヘカラス本市曩キニ吏員ノ分限規程ヲ設ケテ其進退ヲ保障シ常ニ進級ノ途ヲ開キ有能ノ材ヲ擢用シ又退職死亡等ノ給與ヲ厚クシ退隱料條例ヲ改メテ年限ヲ縮メ其享受ヲ多カラシムルカ如キ皆吏員ノ職務ニ忠實精勵ナランコトヲ望ムニ外ナラス殊ニ市吏員ハ法令ニ基キ公務ヲ處辨スル者ナリ其服務ニ關スル規程ヲ遵奉シ紀律ヲ遵守シ品位體面ヲ保タルヘカラス然ルニ近時動モスレハ職務ヲ怠リ又ハ吏員トシテ忍フヘカラサル惡聲ヲ受クル者アルハ痛心ニ堪ヘス本市ハ吏員ヲ待ツニ厚カラシムルモ其賞罰黜陟ハ之ヲ嚴ニセサルヘカラス故ニ職ヲ本市ニ奉スル者ハ能ク此ノ趣旨ヲ體シ互ニ砥礪戒飭シテ紀律ヲ正シ職務ヲ勵ミ協力以テ帝都行政ノ實績ヲ擧グルヲ勗ムヘシ

### 市吏員風紀振肅ニ關スル注意

明治四十二年十二月七日  
市訓令第五號

(各部、局、院、各區役所、圖書館、消毒所、衛生試驗所)

市吏員ノ紀律振肅ニ付テハ曩キニ偏ネク訓諭スル所アリシモ近時吏員ノ職務ニ關シ刑事被告人トシテ其筋ノ檢舉ヲ受ケシモノ十數名アリ洵ニ痛恨ニ堪ヘス吏員ハ職責上特ニ品位體面ヲ重シ忠實ヲ旨トセサル可ラス職ヲ奉スル者ハ深ク自ラ戒飭シテ益々操守ヲ堅實ニス可ク苟クモ職務上ノ利害關係人ヨリ贈遺若クハ饗應ヲ受クルカ如キハ獨リ一身ヲ愆ルノミナラス延テ市吏員全體ノ面目ニ關係ス依テ篤ト此意ヲ體シ充分注意ヲ加フヘシ

明治四十三年九月三日 (所屬公署)  
市訓令甲第三十五號  
本市吏員ニシテ他ノ囑託ヲ受ケ居ル者囑託用務ニ關シ市外ニ出張セントスルトキハ豫メ市長ノ承認ヲ經ヘシ

### 區書記旅行願許可申報方

明治二十三年六月十四日 (各區役所)  
市訓令第五號

今般區長書記服務條規相定候處書記ノ養病歸省墓參等ノ旅行願ハ區長ニ於テ之ヲ許可シ其都度當廳ヘ申報スヘシ但書記ハ追願ト否トニ拘ハラヌ十五日以上ニ追フトキハ(市參事會)ノ許可ヲ受ケル儀ト心得ヘシ(明治三十二年二月六日市訓令第二號ヲ以テ「及附屬員」ノ四字削除)

### 市吏員除服出仕規程

明治三十四年三月二十九日  
市訓令甲(各課、各區役所、養育院、消毒所、病院、衛生試驗所)  
第十六號

第一條 市吏員親族ノ喪ニ遭遇シタルトキ左ノ日限ヲ經過セハ令達ヲ俟タス出仕スヘシ(明治四十五年四月十五日市訓令甲第十八號ヲ以テ本條中改正)  
一 實養父母、配偶者ハ十五日間  
二 繼父母、祖父母、曾祖父母、兄弟姊妹、子、伯叔父母ハ七日間

### 被囑託吏員囑託用務ノ爲市外出張ノ場合措置方

市吏員他ノ囑託ヲ受ケ寄附金勸誘其他之ニ類似スル事務ヲ執ル場合ハ(市參事會)ノ許可ヲ受ケヘキ義ト御承知相成度右(市參事會)ノ決議ニ依リ特ニ申進候也

### 市吏員他ノ囑託ヲ受ケ寄附金勸誘其他之ニ類似スル事務ニ從事スル場合許可申請方

明治四十二年五月  
十七日助役通牒 (各區、部、局、課長、院宛)  
內發第八十六號 (長、所長、圖書館、消毒所宛)



第一篇 通規 第六類 服務

- 三 高祖父母、孫ハ 三日間
- 四 曾孫、玄孫、甥姪、從兄弟姉妹 一日間
- 第二條 前條第二及第三ニ該當スルモノニシテ七歳未満ノ小兒ナルトキハ子ニ付テハ三日間其他ハ一日間トス
- 第三條 第一條第二條ノ日限内ト雖モ事務ノ都合ニ依リ出仕ヲ命スルコトアルヘシ

●父母以外ノ親族病氣危篤ノ場合看護缺勤トシテ取扱方

明治四十四年三月二十五日  
判決一發第二千八百四十三號

市吏員看護願(届)ニ關シテハ從來父母ニ限ルノ慣例ナリシモ其他ノ親族ニシテ病氣危篤ノ場合ハ當事者ノ故障トシテ事故缺勤ト見做セシモ斯クテハ穩當ヲ缺クノ嫌ナシトセス依テ將來ハ父母以外ト雖モ一家族ニシテ病氣危篤ニ迫リ看護ヲ要スル場合ニ於テ事情不得已ト認メ相當手續ヲ經タル上ハ看護缺勤トシテ取扱フモノトス

●使丁職工定工夫等忌引區別

明治四十二年十月九日 (各區、其他) 市訓令甲第三十號

- 本市使丁、職工、定工夫、定傭人夫、其他之ニ準スヘキ者其親族ノ喪ニ遭遇シタルトキハ左ノ區別ニ依リ忌引セシムヘシ但日限内ト雖業務ノ都合ニ依リ出勤ヲ命スルコトヲ得
- 一 死亡者 實養父母、妻ナルトキ 五日間
  - 二 同 繼父母、祖父母、曾祖父母、兄弟姉妹子、伯叔父母ナルトキ 三日間  
但子ヲ除クノ外七歳未満ノ小兒ナルトキハ一日間トス
  - 三 同 高祖父母、孫、曾孫、玄孫、甥姪、從兄弟姉妹ナルトキ 一日間

●市役所及所屬公廳執務時限

明治三十一年十月七日  
市告示第五十號

- 九月十一日ヨリ 午前八時ヨリ午後四時ニ至ル
- 十月三十一日マテ 午前八時ヨリ午後四時ニ至ル
- 十一月一日ヨリ 午前九時ヨリ午後四時ニ至ル
- 翌年二月末日マテ 午前八時ヨリ午後四時ニ至ル
- 三月一日ヨリ 午前八時ヨリ午後四時ニ至ル
- 七月十日マテ 午前八時ヨリ正午十二時ニ至ル
- 七月十一日ヨリ 午前八時ヨリ正午十二時ニ至ル
- 九月十日マテ 但土曜日ハ總テ正午十二時迄トス

●市役所及所屬公廳休暇日

明治三十一年十月七日  
市告示第五十一號

- 毎日曜日 秋季皇靈祭 秋分日
- 一月一日 市役所開廳日十月一日
- 一月二日 神嘗祭 十月十七日
- 元始祭 一月三日 新嘗祭 十一月二十三日
- 新年宴會 一月五日 十二月二十九日
- 紀元節 二月十一日 十二月三十日
- 春季皇靈祭 春分日 十二月三十一日
- 神武天皇祭 四月三日
- 明治天皇祭 七月三十日 (大正元年九月九日市告示第十一號) ナリテ明治天皇祭及天長節改正
- 天長節 八月三十一日

●一般休暇日ニ休暇スルコト能ハサル職務ニアル者休暇差許方

明治三十六年七月二十九日 (各區役所) 市訓令甲第二十六號

市吏員中本市ノ定メタル一般休暇日ニ休暇スルコト能ハサル職務ニ在ル者ハ一箇年内ニ於テ事務差支ナキ限り特ニ二週間以内ノ休

暇差許候條此旨心得ヘシ但雇員以下ハ一週間ヲ超ユルコトヲ得ス

●執務時間外及休日勤務ニ關スル心得

明治三十八年四月五日 (各課) 市訓令甲第十五號

課員處務規程第三十一條ニ依リ執務時間外又ハ休日ニ於テ執務スルトキハ其二時間以上ニ渉ル場合ハ別紙雛形ノ帳簿ニ其事由ヲ記載シ課長ノ檢印ヲ受クヘシ

〔別紙〕 執務時間外勤務簿

月日	時間	事由	由	課長檢印	宿直員認印	勤務者印
何何	午後何					
何何	時何分					

●休暇中印鑑證明等事務取扱方



明治二十九年十二月二十七日(各區長宛)  
市 內 訓 無 號

印鑑證明等ニ關スル事務ハ公衆ノ便宜ヲ計リ自今十二月三十一日  
マテ取扱フヘシ

### ● 遲參早退ノ際課員届出帳簿 雛形

明治三十八年四月十一日(各課長宛)  
内記課長申進内發第五十六號

課員疾病事故ノ爲メ遲參又ハ早退ノ節ハ其理由ヲ記シ内記課ニ届  
出ツヘキ筈ノ處性任其手續ヲ怠ル者有之整理上差支候ニ付充分御  
注意相成候様致度尙又其届出ニ付テハ便宜別紙書式ニ依リ帳簿ヲ  
以テセラルヘク市長ノ命ニ依リ特ニ此段申進候也

〔別紙〕

吏員遲參早退簿

月	日	時刻	理由	課長印	氏名印
	何月何日	何時出 何時入			

### ● 區役所定工夫服務時間

明治三十九年三月一日(各區長宛)  
助役通牒庶發第二百八十七號

區役所定工夫服務時間ハ左記ノ通ト御承知可有之(尙從前支給濟  
ニ係ル時間外勤務給料ニ關シテハ總テ返納追給等ノ手續ニ及ハ  
ス)候條此段及通牒候也

區役所定工夫服務時間

三月乃至十月

自午前七時至午後五時

十時間

十一月乃至二月

自午前八時至午後四時

八時間

## 第七類 任免及試驗



## 第七類 任免及試験

### ●市吏員任用規程

明治三十六年十二月四日  
市告示第百七號

- 第一條 此規程ニ於テ市吏員ト稱スルハ市制〔第五十九條〕及ヒ〔第六十條第三項〕ニ依リ任用スルモノヲ謂フ但別ニ任用規程アルモノ又ハ雇員及ヒ之ニ準スル者ハ此限ニ在ラス
- 第二條 市吏員ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス
- 一 市吏員試験ヲ經テ合格證書ヲ有スル者
  - 二 文官試験、判檢事登用試験、辯護士試験 裁判所書記試験ノ一ヲ經テ其合格證書ヲ有スル者
  - 三 徴兵令第十三條第一項ニ掲クル學校又ハ專門學校令ニ依ル學校其他〔市參事會〕ニ於テ之ト同等以上ト認メタル學校ノ卒業證書ヲ有スル者
  - 四 帝國大學選科ノ修業證書ヲ有スル者（明治四十四年五月十六號ヲ以テ）
- 第三條 滿二年以上本市吏員又ハ文官ノ職ニアリタル者ニシテ免職若クハ免官後滿三年ヲ經過セサル者ハ市吏員試験委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ市吏員ニ任用スルコトヲ得但年齡滿五十歳ヲ超ヘタル者ハ此限リニ在ラス
- 陸軍准士官下士トシテ文官適任伎倆證明書ヲ得之ヲ所持スル者

第一篇 通規 第七類 任免及試験

ハ前項ノ規定ニ依リ市吏員ニ任用スルコトヲ得（明治三十九年示第六十號ヲ以テ本項追加）

第一項三年ノ年限ハ免職若クハ免官後文官又ハ本市吏員ニ任用セラレタルコトニ依リテ中斷ス（明治四十三年十二月二十八日市告示第七十六號ヲ以テ本項追加）

第四條 技術其他特種ノ技能ヲ要スル市吏員ハ前二條ノ資格ヲ有セサルモ市吏員試験委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用スルコトヲ得前項ニ依リ任用セラレタル者ハ市吏員試験ヲ經ルニ非サレハ當初任用外ノ市吏員ニ任用スルコトヲ得ス

第五條 第一條但書ノ者ニシテ滿三年以上勤續シタル者ハ市吏員試験委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ市吏員ニ任用スルコトヲ得

第六條 局長、技師長、課長、院長、技師ノ任用ニ付テハ此規程ヲ適用セス（明治三十九年十月九日市告示第六十號ヲ以テ本條改正）

### ●市吏員採用履歷書末尾へ保

#### 薦人署名方

明治二十六年一月十二日各區區長宛  
市內訓 第一號（養育院長宛）  
書記以下（養育院ハ幹事）  
尾へ保薦人ニ署名セシムヘシ



### 市吏員採用ノ際履歷書末文記載例

明治三十三年六月十三日(各區長宛)  
助役通牒内發第百十七號

市吏員採用方上申ノ際添付有之候本人履歷書自書ヲ要スル儀ニ付爾來ハ其自書タルヲ表明スル爲メ履歷書末尾ニ左記ノ通記載セシメラレ度此段及通牒候也

左記

右之通ニ有之尙本書ハ自書セシモノニ相違無之候也

### 市吏員任用内申ノ時添付スヘキ書類及署名ノ保薦人ニ付注意

明治三十六年十二月八日(各課長宛)  
助役通牒内發第九十八號(各區長宛)

市吏員任用規程ニ依ル市吏員ノ任用方内申ノ場合ハ市吏員試験手續第二條ニ該當スル履歷書ト身分ニ關スル市區町村長ノ證明書トヲ添付セラルヘク又保薦人ノ儀ハ從來往其名義ノミニ止マルモノ有之ヤノ趣右ハ穩當ナラサル儀ニ付總テ其事實上ノ保薦人ナシテ署名セシメラルヘク此段及通達候也

### 市吏員任用内申書ニ添付スル身分證明書ニ掲載スヘキ事項

明治三十六年十二月十一日(各課長宛)  
内記課長通知内發第百號(各區長宛)

本月八日內發第九十八號ヲ以テ助役ヨリ通達相成候吏員任用内申書ニ添付スヘキ身分證明書ハ本人ヲシテ提出セシメラルヘク又左ノ事項ハ其證明書中ニ掲記スルヲ要スル儀ニ候條爲念此段申進候也

- 一 年齢
- 二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレシコトノ有無
- 三 破産若クハ家資分産ノ宣告ヲ受ケタルコトノ有無及ヒ復權セシヤ否

### 有給吏員罹病辭職ノ際事實取調上申方

明治二十八年八月十三日 各課長  
市内訓 第十三號 養育院委員長宛  
水道事務所掛長

本市有給吏員(雇員其他雜給ヲ以テ)ニシテ傷痍疾病ノ故ヲ以テ辭表ヲ差出スモノハ自今其病症病況及豫後ノ經過ヲ詳悉シタル醫師ノ診斷書ヲ添付セシメ且事實職務ニ堪ヘサル傷痍疾病ナルヤ否ヤ意見ヲ附シ申セラルヘシ

### 區吏員採用並退職等内申ノ場合注意方

明治三十三年三月十五日  
市内訓 甲 第四號

區吏員ハ其區内ノ事情ニ精通シ其事務ニ練熟シタルモノヲ要スルカ故頻繁ニ交迭ヲ行フハ獨リ吏員ナシテ其堵ニ安セシメサルノミナラス其事務上滯滞ヲ生スルノ懸念有之候條自今吏員採用方内申ノ場合ハ撰擇ニ充分注意ヲ加ヘ從テ論旨退職等ノ場合ニ於テモ詳細其事情ヲ具セラルヘシ(明治三十九年十二月二十八日市告示第一七十八號ヲ以テ市吏員分限規程設定ノ結果本文申諭旨トアルハ自然消滅ニ歸シタルモノト見ルヘシ)

### 水道検査員並區役所雇員ノ進退專行方

明治三十九年六月十六日(各區役所)  
市訓 令 甲 第十八號

第一篇 通規 第七類 任免及試験

### 市吏員試験規程

明治三十六年十二月四日  
市告示 第百八號

其區水道検査員並雇員以下ノ進退ハ其區役所ニ於テ之ヲ行ヒ氏名給料額等ヲ報告スヘシ但月給參拾圓ヲ超ユル者ハ豫メ認可ヲ受クヘシ(明治四十三年二月十七日市訓令甲第四號ヲ以テ月給「拾八圓」トアリシヲ「貳拾圓」ト改メ同四十四年四月二十四日市訓令甲第二十一號ヲ以テ月給「貳拾圓」トアリシヲ「參拾圓」ニ改ム)

- 第一條 市吏員試験ハ其須要ニ應シ市吏員試験委員之ヲ行フ
- 第二條 市吏員試験ヲ行フヘキ科目日期及ヒ場所ハ少クモ試験ヲ行フヘキ期日二十日前ニ之ヲ公告ス
- 第三條 市吏員試験ハ之ヲ分チテ筆記試験及ヒ口述試験トシ筆記試験ニ合格シタル者ニ非サレハ口述試験ヲ受クルコトヲ得ス
- 第四條 滿十八歳已上ノ男子ニシテ左ノ各號ノ一二該當セサルモノハ市吏員試験ヲ受クルコトヲ得
  - 一 一定役ニ服スヘキ刑ニ處セラレタル者
  - 二 破産若クハ家資分産ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者
  - 三 傳染性疾患ヲ有スル者
- 第五條 市吏員試験ニ合格シタル者ニハ合格證書ヲ附與ス
- 第六條 不正ノ方法ニ因リ試験ヲ受ケント企テタル者及ヒ試験ニ關スル規程ニ違背シタル者ハ其期ノ試験ヲ受クルコトヲ得ス



試験ニ合格シタル後前項ノ事實表現シタルトキハ其合格ハ之ヲ無効トス

第七條 市吏員試験手續ハ別ニ之ヲ定ム

### 市吏員試験手續

明治三十六年十二月四日  
市告示 第九號

- 第一條 市吏員試験ヲ受ケント欲スル者ハ試験期日前十日迄ニ書式ニ從ヒ試験願書ヲ差出スヘシ
- 第二條 前條ノ履歷書及ヒ身分證明書ヲ添付スヘシ
- 第三條 受驗人多クシテ同日ニ試験ヲ施行スルコト能ハサルトキハ試験委員ニ於テ試験期日ヲ異ニスルコトアルヘシ
- 第四條 試験各科目、點數ハ百ヲ以テ滿點トシ平均點數六十、一科目ノ點數五十二達セサルモノハ不合格トス
- 第五條 試験合格者ノ氏名ハ之ヲ公告ス
- 第六條 受驗人ハ試験定時前三十分迄ニ試験場ニ參集スヘシ
- 第七條 受驗人ハ書類其他受驗ノ材料トナルヘキモノヲ携帶シテ試験場ニ入ルコトヲ得ス但試験委員ノ許可ヲ得タル者ハ此限ニ

在ラス

- 第八條 受驗人ハ試験問題ニ付質問スルコトヲ得ス
- 第九條 受驗人ハ試験ニ關スル規定及ヒ試験委員ノ命令ヲ遵守スヘシ之ニ違フトキハ試験場ヨリ退出ヲ命スルコトアルヘシ
- 第十條 試験ニ關シ此手續以外ニ於テ必要ナル事項ハ試験委員之ヲ定ム其豫メ受驗人ニ告知ヲ要スルモノニ在リテハ之ヲ公告ス書式(用紙美濃)

試驗願

現住所

氏名

私儀市吏員試験規程ニ依リ試験相受度別履歷書及ヒ身分ニ關スル證明書相添ヘ此段相願候也

年 月 日

氏名印

〔東京市參事會〕  
東京市長何某殿

### 市吏員試験委員會規程

明治三十年十二月四日市訓令各課、各區役所、駒込病院、甲第三十四號(養育院、消毒所、衛生試驗所)

第一條 市吏員試験委員會ハ市吏員ノ任用試験及ヒ詮衡ニ關スル

- 事務ヲ管掌ス
- 第二條 市吏員試験委員會ハ委員長一名委員四名ヲ以テ組織シ市長之ヲ選任ス但必要ニ應シ臨時委員ヲ加フルコトアルヘシ(明治四十一年四月十八日市訓令甲第二十六號ヲ以テ本條中委員三名トアリシヲ四名ト改ム)
- 第三條 委員長ハ會務ヲ統理ス
- 第四條 市吏員試験臨時委員ハ試験ニ關スル事務ニ限リ參與ス
- 第五條 市吏員試験委員會ニ書記若干名ヲ置キ市長之ヲ命ス書記ハ委員長及ヒ委員ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ從事ス

### 市吏員分限規程

明治三十九年十二月二十八日  
市告示 第七十八號

- 第一條 市吏員ハ別段ノ規定又ハ規約アルモノヲ除クノ外此規程ニ依ルニ非サレハ其職ヲ免セララルコトナシ但雇員及之ニ準スル者ハ此限ニ在ラス
- 第二條 市吏員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其職ヲ免スルコトアルヘシ
  - 一 身體又ハ精神ノ故障ニ因リ職務ヲ執ルニ堪ヘサルトキ
  - 二 免職ヲ願出タルトキ
  - 三 年齡滿六十年以上ニ至リタルトキ
  - 四 疾病ヲ除クノ外私事ノ故障ニ因リ引續キ六十日以上上職務セ

第一篇 通規 第七類 任免及試験

サルトキ

- 五 兵役ニ服シ又ハ官職ニ就キタルトキ
  - 六 職務ノ内外ヲ問ハス市吏員ノ體面ヲ汚カシ又ハ信用ヲ失フヘキ行爲アリタルトキ
  - 七 職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ
  - 八 「公權剝奪若クハ停止ヲ附加スヘキ重罪輕罪トシテ」豫審又ハ公判ニ付セラルタルトキ
- 臨時事務ニ從フ吏員ニシテ其事務ノ全部又ハ一部完了シ過員ヲ生シタルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス其職ヲ免スルコトアルヘシ(明治四十年六月六日市告示第四十二號ヲ以テ本號追加)
- 第三條 市吏員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ休職ヲ命スルコトアルヘシ
    - 一 職制又ハ定員ノ改正ニ因リ過員ヲ生シタルトキ
    - 二 疾病ノ爲メ引續キ九十日以上上職務セサルトキ
    - 三 事務ノ都合ニ依リ必要ナルトキ
    - 四 懲戒處分ヲ受ケタルトキ
    - 五 刑事事件ニ關シ告訴若クハ告發セラレタルトキ
  - 第四條 休職ノ期間ハ滿一年トシ滿期ニ至リタルトキハ退職者トス滿三年以上引續キ區長、課長、院長、技師ノ職ニ在リタル者ハ前項ノ期間ヲ滿二年トス
  - 第四條 前條ニ依リ休職ヲ命シタル者ニハ其休職中俸給ノ三分ノ一ヲ給ス



第一篇 通規 第七類 任免及試験

第五條 休職ノ市吏員ハ實務ニ從事セサル外總テ現職者ト異ナル  
コトナシ

第六條 休職ノ市吏員ニハ事務ノ都合ニ依リ復職ヲ命スルコトアル  
ルヘシ

第八類 給與







講師 主事 事務員 技師 醫員 區書記 區書記 船業員 長

二月俸ヲ給スル者

別表 給料額表

月	年					種別	等級
	講	技	主	理	局		
俸	師學	師	補事	事	長	技師	一級
百圓	千六百	三千五百	二千圓	五千圓	壹萬圓	長	二級
九十圓	千四百	三千圓	千八百	四千圓	八千圓	百圓	三級
八十圓	千二百	二千七百	千六百	三千圓	六千圓	百圓	四級
七十圓	千圓	二千四百	千四百	二千五百	五千圓	百圓	五級
六十圓	九百圓	二千二百	千二百	二千圓	四千圓	百圓	六級
五十圓	八百圓	二千圓	千圓	一千九百圓	三千圓	百圓	七級
四十圓	七百圓	一千八百圓	八百圓	一千六百圓	二千圓	百圓	八級
三十圓	六百圓	一千六百圓	七百圓	一千四百圓	一千七百圓	百圓	九級
二十圓	五百圓	一千四百圓	六百圓	一千二百圓	一千五百圓	百圓	十級
十圓	四百圓	一千二百圓	五百圓	一千圓	一千三百圓	百圓	

運轉手 機關手 調藥員 看護婦長

第二條 前條ニ掲グル者ノ外ハ雇員又ハ之ニ準スル者トス

第三條 第一條ノ吏員ニハ別表ニ依リ給料ヲ支給シ其他ハ適宜ノ給料ヲ支給ス (明治四十四年四月二十三日市告示第二十九號及同年八月一日市告示第六十三號同年十二月二十日市告示第九十六號同四十五年三月八日市告示第十五號ヲ以テ別表及附屬書中改正)

第四條 法令中別段ノ規定アルモノニハ此規程ヲ適用セス

- 主事、視學、講師ニシテ一級俸ヲ受ケ在職五年以上ニ至リ功績アル者ニハ特ニ二百圓ヲ増給スルコトヲ得
- 臨時事務ニ從フ主事ニシテ特別ノ學識經驗アル者ヲ必要トスル場合ハ特ニ三千圓迄ヲ支給スルコトヲ得
- 技師ニシテ一級俸ヲ受ケ在職五年以上ニ至リ功績アル者ニハ特ニ五百圓ヲ増給スルコトヲ得
- 主事補ハ八級俸以下トス
- 月俸者ニシテ一級俸ヲ受ケ在職三年以上ニ至リ功績アル者ニハ特ニ二十圓迄ヲ増給スルコトヲ得
- 本表ノ外技師ハ最低額五百圓迄又月俸者ハ最低額二十圓迄ノ給料ヲ支給スルコトヲ得
- 區書記補ハ十八圓以上三十圓以下トス
- 電氣局ニ勤務スル主事、事務員及技手ハ一級俸額ニ其四分ノ一迄技師ハ一人ヲ限リ一級俸額ニ千五百圓迄ヲ特ニ増給スルコトヲ得
- 臨時事務ニ從フ局長ノ年俸ハ三千圓迄低下スルコトヲ得

區長給料額條例

明治四十四年四月二十三日 市條例第一號

區長給料額左ノ通定ム

第一篇 通規 第八類 給與

- 年俸
- 一級 二千二百圓
  - 二級 二千圓
  - 三級 千八百圓
  - 四級 千六百圓
  - 五級 千四百圓
  - 六級 千二百圓
  - 七級 千圓
  - 八級 九百圓
  - 九級 八百圓
- 一級俸ヲ受ケ在職五年以上ニ至リ功績アル者ニハ特ニ二百圓ヲ増給スルコトヲ得

市吏員增俸年限

明治三十一年十月七日 市告示第四十九號

本市會ノ議決ヲ經市吏員增俸ノ件ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一月額貳拾五圓以上ノ給料ヲ受ケル市吏員ハ每級在職滿一箇年ヲ踰ユルニアラサレハ增俸スルコトヲ得ス但一箇年以内ト雖モ拔擢增俸ハ查數ノ上之ヲ爲スコトヲ得 (明治三十四年市告示第六號ヲ以テ但書追加)



●市吏員増俸内申時期

明治三十五年十月十八日(各課長、各區長宛)  
市内訓 甲第一號(院) 市長  
其課(區)院吏員増俸内申之儀ハ自今六月若クハ十二月ニ於テ  
セラルヘシ但特別ノ事情アリテ本文ニ依ルコトヲ得サル者ハ此限  
ニ在ラス

●區書記増俸内申ノ場合調書  
添付方

明治三十四年十一月二十九日(各區長宛)  
助役通牒内秘第六百二十二號  
區書記増俸方御内申ノ場合ハ充分御調査相成候事ト存候得共是迄  
御申添ノ理由ニ於テ往々其者ノ技能勤怠及ヒ特種ノ事情等ヲ審ニ  
セサル向モ有之詮議上支障不尠次第ニ候依テ將來ハ右各項ノ外本  
人擔任ノ事項並ニ事務取扱振リ其他參考スヘキ點ニ付詳細ノ調書  
ヲ付セラレ度此段及通牒候也

●俸給支給規程

明治四十年三月十三日  
市告示第十四號

事務引繼又ハ殘務整理ノ爲メ特ニ命ヲ受ケ翌月以降ニ涉リ執務  
スルトキハ其間日割ヲ以テ尙從前ノ俸給ヲ支給ス但既ニ支給ヲ  
受ケタル月ノ分ハ此限ニ在ラス

第七條 休職者復職ヲ命セラレタルトキ又ハ他廳ニ任用セラレタ  
ルトキハ第二條乃至第四條ノ規定ヲ準用ス

第八條 私事ノ故障ニ因リ執務セサルコト三十日ヲ踰エ又ハ疾病  
ノ爲メ執務セサルコト九十日ヲ踰ユル者ハ其後俸給ノ半額ヲ減  
ス但公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルモノハ此限ニ  
在ラス

前項ニ該當セスト雖モ私事ノ故障及疾病連續シ執務セサルコト  
九十日ヲ踰ユル者ハ其後俸給ノ半額ヲ減ス

第九條 前條ニ依リ減俸ノ者休職廢職又ハ死亡シタルトキハ其減  
給ニ係ル當月分ノ全額ヲ支給ス

第十條 死亡者ノ俸給ハ之ヲ其死亡ノ際死亡者ノ同戶籍内ニ在ル  
左ノ者ニ支給ス

- 一 配偶者(明治四十五年三月十八日  
市告示第十九號ヲ以テ改正)
  - 二 子
  - 三 孫
  - 四 父母
  - 五 祖父母
  - 六 兄弟姊妹
- 前項ニ於テ支給ノ順位ハ各號ノ順序ニ依リ同順位ニ於ケル子孫

第一條 俸給ノ支給ハ左ノ區分ニ依ル

- 一 年俸ハ十二分シ毎月二十一日ニ於テ之ヲ支給ス
- 二 月俸ハ毎月二十一日ニ於テ之ヲ支給ス
- 三 日給ハ前月十六日ヨリ其月十五日迄ノ分ヲ二十一日ニ於テ  
支給ス但毎年三月十六日ヨリ三月三十一日迄ノ分ハ此限ニ  
在ラス(明治四十五年三月十八日市告示  
第十九號ヲ以テ本號中改正)
- 四 前各號ニ於テ休日ニ相當スルトキハ之ヲ順延トス

日給ハ公休日ヲ算入シ病氣又ハ私事ノ故障ニ因リ執務セサルト  
キハ其間之ヲ支給セス

第二條 俸給ハ新任ノトキハ就職ノ日ヨリ増俸減俸ノトキハ發令  
ノ翌日ヨリ之ヲ計算ス

轉任者ノ俸給ハ其發令ノ當日迄前任廳ニ於テ支給シ翌日以降ノ  
分ハ後任廳ニ於テ支給ス

第三條 他廳へ轉任シタル者ノ俸給ハ第一條ノ支給定日ニ拘ラス  
其際發令當日迄ノ分ヲ支給ス俸給支給定日後轉任シタルトキハ  
後任廳ニ於テ其際其月ノ日數ニ對スル俸給ヲ支給ス

第四條 他廳へ轉任シタル者ノ俸給ニ過渡アルトキハ前任廳ニ於  
テ其際之ヲ返納セシム

第五條 休職廢職退職又ハ死亡ノトキハ其際當月分ノ俸給全額ヲ  
支給ス但懲戒處分又ハ市吏員分限規程第二條第六號乃至第八號  
ニ依リ免職ノ者ハ發令當日迄ノ分ヲ日割ヲ以テ支給ス

第六條 休職廢職又ハ退職者ニシテ年俸若クハ月俸ヲ受ケタル者  
ノ間ニ在リテハ實子孫ヲ先ニシ養子孫之ニ次キ男ハ女ヨリ先ニ  
シ年數ノ多キ者ハ少ナキ者ヨリ先ニス

第十一條 前條ニ依リ受給者ナキトキハ死亡者トノ關係ヲ酌量シ  
テ其他ノ者ニ支給スルコトアルヘシ

第十二條 俸給ヲ支給スルニ當リ計算上厘位ノ端數ヲ生スルトキ  
ハ之ヲ切捨ツルモノトス

第十三條 日割計算ノ法ハ其月ノ現日數ニ依ル

給仕小使其他之ニ準スヘキ者ノ給料支給ハ此規程ヲ準  
用ス

●公務ノ爲メ傷疾缺勤ノ際日

給雇給料支給方

明治三十三年一月十  
七日助役通牒會發第  
二十(各區長、駒込病院宛)  
七號(消 毒 所宛)

日給雇ノ者公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル場合ニ於ケ  
ル給料ノ支給方左之通決定相成候條爲心得此段及通牒候也  
日給雇ノ者ニシテ公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ執務ス  
ル能ハサルトキハ其間給料ヲ支給スルモノトス(明治四十一年五  
月十八日助役通牒  
牒庶乙第二千二百五十一號ノニテ)  
以テ本文ノ趣旨養育院長宛通牒



### ●日給雇員忌引中俸給支給方

明治四十年九月五日(各局、課、所、院、宛)  
助役通牒會發第七十六號  
雇員中日給支給者ニシテ明治三十四年三月市訓令甲第十六號市吏員除服出仕規程第一條各號ニ依リ忌引中ハ公休日ニ準シ俸給支給スヘキコトニ(市參事會)ニ於テ決定相成候條此段及通牒候也

### ●軍籍ニ在ル吏員演習召集中俸給支給方

明治三十三年九月七日(京橋區長伺)  
指令會發第千二百二十四號  
本年八月十七日附庶第一三一八號上陸海軍豫備後備ノ軍籍ニ在ル區書記及雇員ニシテ就職中演習ノ爲メ召集セラレタルトキ俸給支給方ノ件ハ本市俸給支給規則第八條ニ據リ支給スヘシ

### ●應召市吏員特別給與規程

明治三十七年四月三日  
市告示第二十六號  
第一條 陸海軍軍籍ニ在ル本市吏員ニシテ戰事若クハ事變ニ際シ召集セラレ軍衛ヨリ俸給ヲ受ルトキハ其翌月ヨリ本職俸給ノ支

給ヲ停止ス但軍衛ヨリ受クル俸給額本職俸給額ヨリ寡ナルトキハ其不足額ヲ補給ス

第二條 陸海軍ノ軍籍ニ在ル本市雇員又ハ之ニ準スル者ニシテ六箇月以上勤務シタル者戰時若クハ事變ニ際シ召集セラレ解職シタルトキハ特ニ俸給又ハ日給月額三箇月以内ノ手當ヲ支給スルコトヲ得

### ●應召市吏員特別給與金請求方

明治三十七年四月五日(各區長宛)  
助役通知內發第十七號  
應召市吏員特別給與規程本月三日第二十六號ヲ以テ告示相成候處右ニ該當スル給與金ハ別途支出ノコトニ決定相成居候條隨時御請求相成度又其第一條ニ該ルモノハ軍隊ヨリ受クル俸給ノ證明書ヲ徴サレ度此段申進候也

### ●市吏員退隱料及遺族扶助料條例

大正二年三月十三日  
市條例第六號

第一條 有給吏員在職十年以上ニシテ退職シタルトキハ退隱料ヲ給ス但左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ此限ニ在ラス

- 一 年齢六十年未満ニシテ自己ノ便宜ニ依リ退職シタルトキ
- 二 懲戒ニ依リ解職セラレタルトキ
- 三 職務ノ内外ヲ問ハス市吏員ノ體面ヲ汚シ又ハ信用ヲ失フヘキ行爲アリタル爲免職セラレタルトキ
- 四 職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタル爲免職セラレタルトキ
- 五 禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル爲失職シ又ハ禁錮以上ノ刑ニ當ルヘキ罪トシテ豫審又ハ公判ニ付セラレタル爲免職セラレタルトキ但審理ノ後免訴若クハ無罪ト爲リ又ハ有罪ト爲ルモ禁錮以上ノ刑ニ處セラレサル場合ハ失職又ハ免職ノ時ニ遡リ退隱料ヲ給ス

第二條 職務ノ爲傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ一肢以上ノ用ヲ失ヒ又ハ之ニ準スヘキモノト爲リ其職ニ堪ヘサルニ因リ退職シタルトキハ前條ノ年限ニ拘ラス退隱料ヲ給ス

第三條 在職十年ニシテ退職シタル者ニ給スヘキ退隱料年額ハ退職當時ノ俸給年額四分ノ一トシ以上四十年ニ至ル迄在職一年ヲ増ス毎ニ退職當時ノ俸給年額百二十分ノ一ヲ加フ又十年未満ノ

者ニ給スヘキ退隱料ハ十年ノ額トス

前條ノ事由ニ該當スル者ニハ其傷疾疾病ノ輕重及在職年數ヲ斟酌シ前項ノ外尙十年ノ額ノ十分ノ七以内ノ増加退隱料ヲ給スルコトアルヘシ

退隱料ヲ受クル者前ニ退職給與金ヲ受ケタルトキハ最初ノ五年間其退職給與金ノ五分ノ一ニ相當スル金額ヲ退隱料年額ヨリ控除ス

第四條 退隱料ヲ受ケル者又ハ受ケヘキ者再ヒ就職シ在職一年以上ニシテ退職シタルトキハ前後ノ在職年數ヲ通算シ後職ヲ退キタル當時ノ俸給額ニ依リ前條第一項ノ規定ヲ適用シテ更ニ退隱料額ヲ定ム但第一條各號ノ一ニ該當スルトキハ此限ニ在ラス後職ヲ退キタル當時ノ俸給額ヲ退キタル當時ノ俸給額ニ比シ少ナキトキハ前職ノ退隱料額ニ後職退職當時ノ俸給年額ノ百二十分ノ一ニ後職年數ヲ乘シタル額ヲ増加ス後職ヲ退キタル當時ノ俸給前職ニ比シ少ナカラサルモ前ニ第二條ノ事由ニ該當シ第三條第二項ノ増加退隱料ヲ受ケタル者ニ對シテハ其増加退隱料額ト前項ニ依リテ算出シタル退隱料額トヲ比較シ其額多キトキ亦同シ

前二項ノ場合ニ於テ在職四十年以上ニ至リタルトキハ之ヲ四十年ノ額ニ止ム  
前職十年未満ニシテ退隱料ヲ受ケタル者ニ在リテハ前後ノ在職年數ヲ通算シ十年ニ達スル場合ニ限リ前三項ノ規定ヲ適用ス



第五條 退隱料ヲ受クル者又ハ受クヘキ者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ爾後退隱料ヲ給セス

- 一 國民タルノ分限ヲ失ヒタルトキ
- 二 六年ノ懲役若クハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 三 在職中ノ行爲ニ因リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

第六條 退隱料ヲ受クル者又ハ受クヘキ者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其間退隱料ノ支給ヲ停止ス

- 一 禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄
- 二 一年以上居所不明ナルトキ
- 三 本市ノ有給吏員ト爲リタルトキ

第七條 退隱料ヲ受クル者退職後一年内ニ死亡シタルトキハ既ニ受ケタル退隱料額ト退隱料年額トノ差額ヲ一時扶助金トシテ第十條及第十一條ノ順位ニ依リ其遺族ニ支給ス

第八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ遺族ニ遺族扶助料ヲ支給ス

- 一 有給吏員職務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ在職中死亡シタルトキ
- 二 有給吏員職務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ退職シタル後二年以内ニ其傷痍疾病ニ起因シ死亡シタルトキ
- 三 有給吏員在職十年以上ニシテ在職中死亡シタルトキ
- 四 退隱料ヲ受ケ又ハ受クヘクシテ死亡シタルトキ

第九條 遺族扶助料ノ年額ハ左ノ標準ニ依リ算定ス

- 一 前條第一號及第二號ノ場合ニ在リテハ第三條第一項第二項及第四條ノ規定ニ準シ査定シタル金額ノ二分ノ一
- 二 前條第三號ノ場合ニ在リテハ第三條第一項及第四條ノ規定ニ準シ査定シタル金額ノ三分ノ一
- 三 前條第四號ノ場合ニ在リテハ退隱料年額ノ三分ノ一

第十條 遺族扶助料ハ之ヲ寡婦ニ支給ス寡婦ナキトキ又ハ寡婦死亡シ若クハ之ヲ受クヘカラサルトキハ子ニ支給ス

養子ハ家督相續人タル者ニ限り扶助料ヲ支給ス

第十一條 遺族扶助料ヲ受クヘキ寡婦及子ナク又ハ扶助料ヲ受ケタル寡婦及子死亡シ若クハ受クヘカラサルトキハ直系尊屬ニ支給ス

ラサルトキハ母ニ給ス母ヨリ祖父ニ祖父ヨリ祖母ニ順次此例ニ依リ轉給ス

第十二條 前二條ノ規定ニ依リ遺族扶助料ヲ受クヘキ者ナクシテ死亡シタルトキ死亡者ノ兄弟姉妹年齢二十歳未満ナルトキ又ハ痲疾不具ニシテ自活スルコト能ハサルトキハ扶助料ニ相當スル金額ノ五分分以内人員ニ拘ラス一時限リ其兄弟姉妹ニ給スルコトヲ得但他ニ扶養者アルトキハ此限ニ在ラス

第十三條 遺族扶助料ヲ受クル者國民タルノ分限ヲ失ヒ又ハ六年ノ懲役若クハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ其家ヲ去リタルトキハ爾後其扶助料ヲ支給セス子年齢二十年ニ達シ若クハ女婚姻シタルトキ亦同シ

第十四條 子年齢二十年ニ達スルモ痲疾又ハ不具ニシテ自活スルコト能ハス且他ニ遺族扶助料ヲ受クル者ナキトキハ其事由ノ存續スル間ニ扶助料ノ三分ノ一ヲ給スルコトヲ得但扶養者アルトキハ此限ニ在ラス

第十五條 第六條第一項第一號及第二號ノ規定ハ遺族扶助料ノ給與ニ之ヲ適用ス

第十六條 本條例ニ於テ遺族ト稱スルハ死亡者死亡ノ當時ヨリ引續キ其家ニ在ル者ヲ謂フ但父死亡後出生シタル嫡出子ハ死亡ノ當時其家ニ在リタルモノト看做ス

第十七條 在職年數ノ算定ハ就職ノ月ヨリ起算シ退職又ハ死亡ノ月ヲ以テ終トス但明治二十二年七月以前就職シタル者ハ同年同月ヨリ起算ス

第十八條 退職滿期ニ因リ退職シタル者及退職中退職若クハ死亡シタル者ノ退隱料又ハ遺族扶助料ハ現職最終ノ俸給ニ依リ之ヲ算定ス

第十九條 退隱料及遺族扶助料年額圓位未滿ノ數ハ之ヲ圓位ニ滿タシム

第二十條 退隱料及遺族扶助料ノ支給及停止並廢止ハ其事由ノ生シタル月ノ翌月ヨリス

第二十一條 退隱料及遺族扶助料ハ讓渡シ又ハ質權ノ目的ト爲スコトヲ得ス

第二十二條 退隱料及遺族扶助料ハ其受クヘキ事由ノ生シタル後三年以内ニ請求スルニ非サレハ之ヲ給セス

第二十三條 本條例施行前退職シタル者ニシテ舊退隱料條例ニ依ルモ退隱料ヲ受クヘカラサル者ノ在職年數ハ本條例ノ在職年數ニ算入セス但明治三十九年十二月以前再ヒ就職シ引續キ現ニ其職ニ在ル者ハ此限ニ在ラス

第二十四條 舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ本條例ヲ適用スヘキ場合ハ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルモノト看做ス



舊刑法ノ禁錮以上ノ刑ハ本條例ヲ適用スヘキ場合ニ禁錮以上ノ刑ト看做ス

第二十五條 本條例施行ニ關シ必要ナル規定ハ市參事會ノ議決ヲ經之ヲ定ム

### 市吏員退隱料及遺族扶助料

#### 條例施行細則

大正二年七月二十九日  
市告示第九十八號

第一條 市吏員退隱料及遺族扶助料條例(以下單ニ條)ニ依リ退隱料又ハ遺族扶助料ヲ受クヘキ者ハ請求書ヲ差出スヘシ

第二條 退隱料ノ請求書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ  
一 在職中ノ履歷書  
二 戶籍謄本

第三條 條例第二條ニ依リ退隱料ヲ請求スル者ハ前條ニ掲ケル書類ノ外左ノ書類ヲ以テ其事實ヲ證明スヘシ  
一 傷痕又ハ疾病ノ職務ニ基因シタルコトヲ認ムヘキ證據書類  
二 醫師ノ診斷書

第四條 遺族扶助料ノ請求書ニハ其遺族ノ戶籍謄本及左ノ區別ニ依ル書類ヲ添附スヘシ  
一 條例第八條第一號及第二號ノ場合ハ其事實ヲ認ムヘキ證據書類及醫師ノ診斷書並死者在職中ノ履歷書

二 條例第八條第三號ノ場合及退隱料ヲ受クヘクシテ死亡シタ

ル場合ハ死者在職中ノ履歷書

三 條例第十條第三項但書ノ適用ヲ受クヘキ者又ハ先順位者カ同但書以外ノ事由ニ基キ家督相續人若ハ遺產相續人タルコトヲ得ス又ハ家督相續若ハ遺產相續ヲ廢除セラレタルニ因リ遺族扶助料ヲ受クヘキ者ハ其事實ヲ證明スル確定判決ノ謄本又ハ市町村長若ハ之ニ準スヘキ者ノ證明書

四 遺族扶助料ヲ受クル者又ハ受クヘキ者禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルニ因リ遺族扶助料ノ轉給ヲ請求スル者ハ其事實ニ關スル判決謄本

五 遺族扶助料ヲ受クル者又ハ受クヘキ者一年以上居所不明ナルニ因リ遺族扶助料ノ轉給ヲ請求スル者ハ其事實ニ關スル市町村長又ハ之ニ準スヘキ者ノ證明書

六 條例第十二條及第十四條ニ依リ遺族扶助料ヲ請求スル者ハ他ニ扶養者ナク且自活スルコト能ハサル事實ニ付テハ市町村長又ハ之ニ準スヘキ者ノ證明書癱疾不具ニ付テハ醫師ノ診斷書

第五條 退隱料又ハ遺族扶助料ヲ受クル者又ハ受クヘキ者條例第六條第一項第一號第二號及同第十五條第一項ニ依リ停止事由ノ止ミタルトキハ其事實ヲ證明スヘキ書類ヲ添ヘ請求スヘシ

第六條 退隱料及遺族扶助料ヲ給スヘキ者ニハ證書ヲ交付ス但條例第七條及第十二條ノ適用ヲ受クヘキ者ニハ辭令書ヲ用ユ

第七條 退隱料又ハ遺族扶助料ハ毎年四月、十月ニ於テ其前月迄

ノ分ヲ給ス但死亡又ハ權利ノ喪失若ハ停止ノトキ及一時ノ支給金ハ期月ニ拘ラス之ヲ給ス

第八條 退隱料又ハ遺族扶助料ヲ受領セムトスルトキハ退隱料證書又ハ遺族扶助料證書及戶籍ノ謄本又ハ抄本ヲ以テ受領權アルコトヲ證明スヘシ

第九條 條例第七條ニ依リ一時扶助金ヲ受領セムトスルトキハ戶籍謄本ヲ添ヘ請求書ヲ差出スヘシ

第十條 條例第三條第二項ニ掲ケル增加退隱料ノ等差左ノ如シ但一人ニテ數號ニ該當スルトキハ其重キニ從ヒ之ヲ給ス  
一 兩眼ヲ盲シ又ハ二肢以上ヲ亡ヒ若ハ之ノ同等ナル傷痕疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ七

二 前號ニ準スヘキ傷痕ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ六

三 一肢ヲ亡ヒ又ハ二肢ノ用ヲ失ヒ若ハ之ノ同等ナル傷痕疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ五

四 前號ニ準スヘキ傷痕ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ四

五 一眼ヲ盲シ又ハ一肢ノ用ヲ失ヒ若ハ之ノ同等ナル傷痕疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ三

六 前號ニ準スヘキ傷痕ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ二

前項第二號乃至第六號ノ一ニ該當スル者在職三年以上ノ場合ハ

退隱料十年ノ額ノ十分ノ一ヲ、在職六年以上ノ場合ハ同十分ノ二ヲ加算ス但加算ノ爲條例第三條第二項ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

第十一條 退隱料又ハ遺族扶助料ヲ受クル者死亡シ又ハ權利消滅シ若ハ支給ヲ停止セラルヘキ事實ノ生シタルトキハ本人、遺族、家族若ハ親族ヨリ届出テ證書ヲ返納スヘシ

第十二條 退隱料證書又ハ遺族扶助料證書ヲ亡失シタルトキハ其事由ヲ具シ届出ヘシ前項ノ届書ヲ受ケタルトキハ其事實ヲ調査シ更ニ退隱料證書又ハ遺族扶助料ヲ交付ス此場合ニ於テ亡失シタル證書ハ無効トス

第十三條 退隱料又ハ遺族扶助料ヲ受クル者ハ自己ノ印鑑ニ市區町村長又ハ之ニ準スヘキ者ノ證明ヲ受ケ届出ヘシ爾後改印シタルトキ亦同シ

第十四條 退隱料又ハ遺族扶助料ヲ受クル者轉籍又ハ改氏名ヲ爲シタルトキハ之ヲ證明スルニ足ルヘキ書類ヲ添附シ届出ヘシ其改氏名ノ場合ニ於テハ證書ノ裏面ニ其ノ事實ノ記入ヲ受クヘシ



●市吏員傷痍疾病等差例

明治二十八年八月九日  
市告示第三十九號

- 第一條 「市吏員退隱料條例施行規則第七條第一項」ノ各號ニ該當スヘキ傷痍疾病ノ等差ハ左ノ規定ニ從フ (明治三十九年十二月二十號ヲ以テ本條中第十條ノ各項トアリシヲ第七條第一項ト改正)
- 第二條 偏眼ヲ盲スル者全鼻ヲ失スル者ハ共ニ第五號トシ之ニ偏耳ノ官能ヲ併セ廢スル者ハ第四號トス (明治三十九年十二月二十號ヲ以テ第二條以下各條中「第何項」トアリシヲ「第何號」ト改正)
- 第三條 兩耳ノ官能ヲ廢スル者ハ第四號トス
- 第四條 偏眼兩耳ノ官能ヲ併セ廢スル者ハ輕重ヲ酌量シテ第二號若クハ第三號トス
- 第五條 一眼ヲ失ヒ他ノ一眼暗昧シ僅ニ自己ノ用ヲ辨シ得ル者ハ第二號トス
- 第六條 咀嚼言語ノ兩機能ヲ併セ廢スル者ハ輕重ヲ酌量シテ第一號若クハ第二號トス

- 第二十條 一手ニ於テ四指以上ヲ失スル者ハ第四號トシ五指著著若クハ強硬等ノ爲メニ把握採摘ノ用ヲ廢スル者ハ第五號トス
- 第二十一條 一手ニ於テ四指或ハ五指ノ各一部ヲ失スルモ尙把握ノ用ヲ爲シ得ル者ハ第六號トス
- 第二十二條 一手ニ於テ拇指示指ヲ併セ失スル者或ハ拇指示指ヲ除キ他ノ三指ヲ失スル者ハ第六號トス
- 第二十三條 一下肢ヲ失スル者股關節ヨリ踝關節ニ至ル間ハ其部位ニ依リ輕重ヲ酌量シテ第二號若クハ第三號トス
- 第二十四條 股關節ヨリ踝關節ニ至ル間ノ作用ニ障礙ヲ遺ス者ハ輕重ヲ酌量シテ第五號若クハ第六號トス
- 第二十五條 跗骨ヨリ蹠骨ニ至ルノ部ヲ失スル者ハ何レノ部位ヲ論セス第四號トス
- 第二十六條 一足ニ於テ五趾ヲ失スル者ハ第五號トス第一趾ヲ併セ三趾ヲ失スル者ハ第六號トス
- 第二十七條 不治病ノ爲メニ常ニ看護ヲ要スル者ハ輕重ヲ酌量シテ第一號若クハ第二號トス
- 第二十八條 不治病前條ヨリ輕キモ歩行スル能ハサル者ハ第三號トス (明治三十九年十二月二十八日市告示第八十號ヲ以テ第二十八條乃至第三十一條中「前項」トアリシヲ「前條」ト改正)
- 第二十九條 不治病前條ヨリ輕キモ自己ノ用辨ニ妨碍アル者ハ第四號トス
- 第三十條 不治病前條ヨリ輕キモ營業ヲ爲シ難キ者ハ第五號トス
- 第三十一條 不治病前條ヨリ輕キモ營業ニ妨ケアル者ハ第六號トス

- 第七條 咀嚼ノ用ヲ廢スル者ハ輕重ヲ酌量シテ第二號若クハ第三號トシ幾分ノ障礙ヲ遺ス者ハ第五號其輕キ者ハ第六號トス
- 第八條 精神亡失或ハ錯亂シテ常ニ看護ヲ要スル者ハ第一號トス
- 第九條 癡呆若クハ健忘症ヲ遺シ常ニ看護ヲ要セサル者ハ輕重ヲ酌量シテ第三號若クハ第五號トス
- 第十條 神經痛ヲ遺シ常ニ看護ヲ要セサル者ハ輕重ヲ酌量シテ第三號若クハ第六號トス
- 第十一條 言語ノ機能ヲ廢スル者ハ第三號トシ言語ノ機能ニ障礙ヲ遺ス者ハ輕重ヲ酌量シテ第五號若クハ第六號トス
- 第十二條 胃腸膀胱等ニ癩管ヲ遺ス者ハ輕重ヲ酌量シテ第二號若クハ第三號トス
- 第十三條 腸歇爾尼亞ヲ遺ス者ハ輕重ヲ酌量シテ第五號若クハ第六號トス
- 第十四條 陰莖或ハ睪丸ヲ全失スル者ハ第三號トス
- 第十五條 陰莖ヲ半失スル者偏睪丸ヲ失スル者共ニ第六號トス
- 第十六條 頸項背腰諸筋ノ作用ニ障礙ヲ遺ス者ハ輕重ヲ酌量シテ第五號若クハ第六號トス
- 第十七條 一肢ヲ失ヒ且他肢ノ作用ヲ全廢スル者ハ第一號トス
- 第十八條 一上肢ヲ失フ者ハ肩關節ヨリ腕關節ニ至ル間何レノ部位ヲ論セス第三號トス
- 第十九條 肩關節ヨリ腕關節ニ至ル間ノ關節作用ヲ廢スルモ全肢ノ作用ヲ廢スルニ至ラサル者ハ第六號トス

●市退隱料金ノ交付市町村長ニ囑託方

明治四十三年十一月六日  
市長判決一發第一萬千五百二十七號

本市退隱料受給者年々増加スルト共ニ各地方ニ移住スル者多ク有之候處此等受給者ニ對スル退隱料金支拂ニ關シテハ將來當該市町村長ニ交付方ヲ囑託スル方尤モ安全ト認ムルニヨリ今後地方ヨリノ請求者ニ對シテハ左案ノ囑託書ヲ發シ交付方ヲ依頼セントス

左記ノ者ニ對シ頭書ノ本市退隱料金交付致度候ニ付テハ乍御手數本人へ御交付ノ上正當領收證御回送煩度此段及御依頼候也

年 月 日 東京市役所

市町村長宛  
郡市町村番地  
元東京市(職名) 何 某渡

●市吏員退職死亡給與金條例



大正二年三月十三日  
市條例第七號

第一條 有給吏員在職一年以上ニシテ退職シタルトキハ左ノ區別ニ依リ退職給與金ヲ給ス

一 在職三年未滿ノ者ニハ退職當時ノ俸給月額ニ在職年數ヲ乗シタル額

二 在職三年以上ノ者ニハ退職當時ノ俸給月額ニ其十分ノ一ヲ加ヘ之ニ在職年數ヲ乗シタル額

三 在職六年以上ノ者ニハ退職當時ノ俸給月額ニ其十分ノ二ヲ加ヘ之ニ在職年數ヲ乗シタル額

第二條 退職料ヲ受クヘキ者ニハ退職給與金ヲ支給セス

第三條 有給吏員在職中死亡シタルトキハ左ノ區別ニ依リ其遺族ニ死亡給與金ヲ給ス

一 在職三年未滿ノ者ニハ死亡當時ノ俸給月額ニ三ヲ乗シタル額

二 在職三年以上ノ者ニハ第一條第二號及第三號ニ準シテ算出シタル額

三 遺族ニシテ遺族扶助料ヲ受クヘキ場合ハ死亡當時ノ俸給月額ニ二ヲ乗シタル額

第四條 再就職シタル者ノ在職年數ニハ前職ノ月數ヲ算入セス

第五條 死亡給與金ヲ受クヘキ遺族ノ順位ニ付テハ退職料及遺族扶助料條例第十條第十一條及第十六條ノ規定ヲ準用ス但寡婦トアルハ之ヲ配偶者トス

前項ノ規定ニ依リ受給者ナキトキハ死亡者トノ關係ヲ斟酌シテ親族其他ノ者ニ支給スルコトアルヘシ

第六條 本條例ニ依ル給額ヲ算定スヘキ年俸者ノ俸給月額ハ俸給年額ノ十二分ノ一トス

第七條 退職料及遺族扶助料條例第一條但書第十七條乃至第十九條第二十一條及第二十二條ノ規定ハ本條例ノ給與ニ之ヲ準用ス

### 市吏員傷病死者特別給與規程

明治四十一年十月二十九日  
市告示第八十號

第一條 本市有給吏員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ此規程ニ依リ手當金ヲ給與ス

一 職務ノ爲死亡シタルトキ

二 職務ノ爲傷病ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ又ハ傷痍疾病ニ起因シ癱疾篤疾ト爲リタルトキ

三 職務執行中天災又ハ事變ニ因リ傷病ヲ受ケ若クハ死亡シタルトキ

第二條 手當金ハ左ノ三種トス

一 療治料

二 救助料

### 六箇月分トス

第七條 前條ノ給與ヲ受クヘキ者ハ死亡當時ノ配偶者トス

第八條 此規程ニ依ル俸給月額ハ年俸ノ者ハ其十二分ノ一、日給ノ者ハ三十日トシテ計算ス

第九條 此規程ニ依ル手當金ハ退職料其他ノ給與ヲ受クヘキ場合ニ於テモ之ヲ支給ス

### 附則

第十條 明治三十年市告第三十九號市吏員傳染病感染者死亡者手當金支給規則ハ此規程施行ノ日ヨリ廢止ス

### 雇員特別給與金規程

大正二年三月十三日  
市告示第二十六號

第一條 雇員及之ニ準スヘキ者退職又ハ死亡シ若クハ職務上傷病ヲ受ケ疾病ニ罹リタルトキハ本規程ノ定ムル所ニ依リ特別給與金ヲ給ス

第二條 市吏員退職料及遺族扶助料條例第二條ノ事由ニ該當スル者ニハ其輕重ニ依リ退職當時ノ給料月額二年分以内ニ相當スル金額ヲ給ス

第三條 市吏員傷病死者特別給與規程第一條ノ事由ニ該當スル者

三 弔慰料(大正二年三月十三日市告)  
示第二十五號ヲ以テ改正

第三條 療治料ハ傷痍疾病者ニ對シ左ノ區別ニ依リ之ヲ給ス但市ニ於テ治療シ又ハ傷痍疾病ノ程度ニ依リ實費ヲ給スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ本條ノ療治料ヲ給セス

一 俸給月額六十圓以上ノ者ニハ一日 金 三圓

二 同 六十圓未滿ノ者ニハ一日 金 二圓五十錢

三 同 三十圓未滿ノ者及日給ノ者ニハ一日 金 二圓

第四條 救助料ハ傳染病ニ感染シタルトキ又ハ傷痍疾病ノ重キモノ若クハ之カ爲癱疾篤疾ト爲リタルトキ之ヲ給ス

救助料額ハ俸給月額三箇月分以下トシ尙傷痍疾病ニ起因シ一肢以上ノ用ヲ失ヒ又ハ之ニ準スヘキ者ト爲リタル者ニハ「市吏員退職料條例施行規則第七條」ニ準シ俸給月額七箇月分迄ヲ増加ス(大正二年三月十三日市告示第)

第五條 第一條第三號ノ傷痍者ニシテ前條ニ該當スルトキノ救助料及第二條ノ療治料ハ各其半額トス

第六條 弔慰料ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ其遺族ニ給ス(大正二年三月十三日市告示第二十五號ヲ以テ本條中改正)

一 第一條第一號ニ該當スルモノハ死亡者ノ受クヘキ俸給月額十二箇月分トス但死因ベスト病ナルトキ又ハ特ニ危險ヲ冒シタル状態アリト認ムルトキハ俸給月額二十四箇月分迄ヲ給スルコトヲ得

二 第一條第三號ニ該當スル死亡者ハ其者ノ受クヘキ俸給月額



- ニハ同規程各條ノ規程ニ準シ手當金ヲ給ス
- 第四條 在職十年以上ニシテ退職シタル者ニハ退職當時ノ給料月額五分ニ相當スル金額ヲ給ス但不都合ノ行爲アリテ退職セシメタル者ハ此限ニ在ラス
- 第五條 勤続三年以上ニシテ在職中死亡シタルトキハ死亡當時ノ給料三分ニ相當スル金額ヲ其遺族又ハ其他ノ者ニ給ス
- 第六條 市吏員傷病死者特別給與規程第七條及第八條ノ規定ハ本規程ノ給與ニ之ヲ準用ス

### ●使丁職工定工夫特別給與金

#### 規程

明治四十一年九月十一日  
市告示第七十號

- 第一條 本市使丁職工、定工夫左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ此規程ニ依リ手當金ヲ給ス
  - 一 職務ノ爲死亡シタルトキ
  - 二 職務ノ爲傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ又ハ其傷疾疾病ニ起因シ癱疾篤疾ト爲リ若クハ退職シタルトキ
  - 三 在職滿十年以上ニシテ退職シタルトキ
  - 四 在職滿十年以上ニシテ死亡シタルトキ
- 第二條 手當金ハ左ノ四種トス
  - 一 療治料

- 二 救助料
- 三 退職給與金
- 四 遺族扶助料
- 第三條 療治料ハ第一條第二號ノ傷疾疾病者ニ對シ實費ヲ給ス但市ニ於テ治療スル者ニハ之ヲ給セス
- 前項ノ療治料ハ診察料、藥料、手術料、入院料等ニシテ全治退職、死亡又ハ癱疾篤疾ト爲リタル日迄ニ要シタルモノトス
- 第四條 救助料ハ第一條第二號ノ傷疾疾病者ニ對シ左ノ區別ニ依リ之ヲ給ス
  - 一 治療ノ爲實際職務ヲ執ルコト能ハスト認メ休養ヲ與ヘタル者ニ對シテハ休養日數ニ應シ其日給ニ相當スル金額ヲ支給ス
  - 二 傷疾疾病三箇月ニ涉リ尙全治セサル者又ハ癱疾篤疾ト爲リ其職ニ堪ヘサル者ニシテ退職セシメタルトキハ其輕重ニ依リ日給九十日分迄ノ金額ヲ支給シ尙一肢以上ノ用ヲ失ヒ又ハ之ニ準スヘキモノトナリタル者ニハ「市吏員退職料條例施行規則第七條」ニ準シ日給七十日分迄ヲ加給スルコトアルヘシ
  - 三 癱疾篤疾者ニシテ退職セサル場合ハ其輕重ニ依リ日給五十日分迄ヲ支給ス
- 第五條 退職給與金ハ第一條第三號ニ該當スル者ニ支給シ其金額ハ日給九十日分トス

不都合ノ行爲アリテ退職セシメタル者ニハ前項ノ退職給與金ヲ支給セス

明治四十三年八月三日  
市會議決第三百三十六號

- 第六條 遺族扶助料ハ死亡者ノ遺族ニ對シ左ノ區別ニ依リ之ヲ給ス
  - 一 第一條第一號ニ該當スルトキハ日給二百四十日分ノ金額トス
  - 二 第一條第四號ニ該當スルトキハ日給九十日分ノ金額トス
- 第七條 前條ノ受給者ハ俸給支給規程第十條及第十一條ノ規定ニ依リ之ヲ定ム
- 第八條 此規程ニ依リ日給額ハ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ又ハ退職若クハ死亡シタル當時ノ給額トス
- 第九條 此規程ニ依ル手當給與額單位未滿ノ端數ハ之ヲ單位ニ滿タシム
- 第十條 此規程ニ依リ手當金ヲ受ケル傷疾疾病者ニ對シ本市ハ治療ヲ受ケヘキ醫師若クハ病院ヲ指定スルコトアルヘシ
- 前項ノ指定ニ從ハサルトキハ手當金ヲ支給セス
- 第十一條 此規程ハ定備人夫其他ニ準スヘキ者ニモ亦之ヲ適用ス

### ●旅費規程

明治四十年十二月二十七日  
市告示第九十三號

- 第一條 旅費ハ本市吏員及名譽職員等公務ニ因リ旅行スルトキ之ヲ支給ス
- 第二條 旅費ハ分テ五等トシ別表定ムル所ニ從ヒ順路ニ依リ之ヲ支給ス(明治四十二年四月九日市告示第十九號ヲ以テ本條中改正)
- 在官者ニ事務ヲ囑託シタル場合ニ於テハ勅任官ニ在リテハ一等、奏任官ニ在リテハ二等、判任官ニ在リテハ三等ノ旅費ヲ支給ス
- 前項以外ノ者ニ事務ヲ囑託シタル場合ニ於テハ別表ノ範圍内ニ於テ相當ノ旅費ヲ支給ス
- 第三條 汽車旅行ハ哩數ニ應シ汽車賃ヲ海路旅行ハ海里數ニ應シ船賃ヲ陸路旅行ハ里數ニ應シ車馬賃ヲ支給ス

### ●雇員以下死亡給與金ニ關スル規定ノ年限ニ達セサル者死亡シタル場合手當支給力



宿泊料ハ夜數ニ應シ日當ハ日數ニ應シテ之ヲ支給ス但海路旅行ニハ宿泊料ヲ支給セス

第四條 本市用ノ舟車馬ニテ旅行スルトキ及旅行先ニ於ケル同一市町村内ノ巡回ニハ前條ノ汽車賃、船賃、車馬賃ヲ支給セス

第五條 旅行ノ任務又ハ情況ニ因リ定額ノ汽車賃、船賃、車馬賃ヲ以テ支辨シ難キ場合ハ實費ヲ以テ支給スルコトヲ得

強雨、積雪又ハ道路險惡ノ爲メ定額ノ車馬賃ニテ支辨シ難キ場合ハ定額二倍以内ノ車馬賃ヲ支給スルコトヲ得

第六條 汽車賃、船賃、車馬賃ハ各其經過路程ノ總數ヲ合算シテ之ヲ支給ス但一位未滿端數ノ路程ハ切捨トス

第七條 汽車旅行若クハ海路旅行中兩年度ニ跨リ其區分判明セサルトキハ最近ノ到達地ニ著シタル日ヲ以テ其路程ヲ區別シ計算

旅費額表(明治四十二年四月九日市告示十九號及大正二年二月四日市告示第五號ヲ以テ本表中改正)

等	級	汽車賃	船賃	車馬賃	宿泊料	日當
一等	市長、市參事、助役、收入役、名譽職員、局長、技師長、理事	六錢	六錢	參拾錢	參圓	貳圓
二等	區長、主事、主事補、技師、視學、講師	五錢	五錢	貳拾錢	貳圓	壹圓五拾錢
三等	月俸ヲ給スル吏員	四錢	四錢	拾五錢	壹圓五拾錢	八拾錢
四等	雇員其他之ニ準スル者	參錢	參錢	拾貳錢	壹圓	五拾錢
五等	番人、給仕、小使、工夫等ノ類	貳錢	貳錢	七錢	五拾錢	參拾錢

### 旅費規程第八條第二項ニ依リ日當ヲ給セサル場合割増支給方

明治四十二年四月十四日(各局課、所) 市訓令 甲第十號 (院、各圖書館)

明治四十年十二月市告示第九十三號旅費規程第八條第二項ニ依リ日當ヲ支給セサル場合ニハ汽車賃、船賃ニ在リテハ定額ノ十割、車馬賃ニ在リテハ五割ヲ増額支給ス此場合ニ於テ増額單位ニ厘位ヲ生シタルトキハ之ヲ切捨シ

### 測量及土木工事巡廻旅費支給方

明治四十一年一月十五日(臨時市勢調査局、臨時市區改正局) 市訓令 甲第三號 各課

旅費規程第九條ニ該當スルモノニ在テハ當分ノ内左ノ割合ノ金額ヲ支給ス宿泊セサルモノ及滞在三十日以上ニ渉ルモノハ定額ノ日當ノミナ支給シ滞在中用務ノ爲メ一時歸廳スルモノ滞在ヲ繼續スルモノト見做ス但現場迄ノ往復ハ定額ノ船車馬賃ヲ支給シ數町村ニ渉ル現場間ノ往復ニハ之ヲ支給セス

技師俸給年額八百圓以上ノ事務員其他ノ吏員

第一篇 通規 第八類 給與

第八條 陸路六里未滿汽車十哩未滿海路十海里未滿ノ旅行ニハ特ニ宿泊ヲ許シタル場合ノ外日當ヲ支給セス(明治四十二年四月九日市告示第十九號ヲ以テ)

第九條 測量及土木工事等ニ從事スル有給吏員ノ旅費ハ別表ノ範圍内ニ於テ特ニ其額ヲ定メ支給スルコトヲ得

第十條 市内廳衙ト市外廳衙ト勤務ヲ轉シタルトキハ舊勤務地ヨリ新勤務地迄汽車賃、船賃及車馬賃ニ限リ定額ノ二倍ヲ支給ス

第十一條 新ニ任用スル爲メ召喚スルトキハ新任資格ニ相當ノ旅費ヲ支給ス

一日金壹圓八拾錢

一 俸給金額八百圓未滿ノ事務員、書記

一 技手、技手補、其他ノ吏員

一 雇員其他之ニ準スヘキモノ

一 番人小使等

### 市内出張用人力車供給方

明治三十五年十一月一日(各課) 市訓令 甲第三十八號

市内出張ハ自今人力車ヲ供給スルノ外何等ノ事由アルモ一切車馬賃ヲ支給セス

### 市内出張用電氣鐵道乘車切符供給方

明治三十七年二月二十九日(各課) 市訓令 甲第四號 (所屬公廳)

市吏員市内出張ノ爲メ乘車ヲ要スルモノハ特ニ人力車等ニ依ルヘキ事由アル場合ノ外電氣鐵道ニ乘車スヘシ電氣鐵道乘車切符ハ豫メ舟車馬賃ヲ以テ之ヲ購買シ其出納ハ市物品出納規程中消耗品ノ取扱ニ準シ整理スヘシ



出張スヘキ吏員ハ別紙様式ノ出張命令簿ニ依リ電氣鐵道乗車切符ノ交付ヲ受クヘシ受領後不用ニ屬シタル乗車切符アルトキハ直ニ之ヲ返納スヘシ

〔別紙〕

出張命令簿様式 用紙美濃紙

明治	年	月	日	判決	課	(又ハ之ニ準スルモノ)主任
出張ニ要スル乗車切符枚數	出	出	出	出	出	出
裁決	張	張	張	張	張	張
切符種類	切符	切符	切符	切符	切符	切符
他	他	他	他	他	他	他
印	印	印	印	印	印	印
交	交	交	交	交	交	交
符	符	符	符	符	符	符
其	其	其	其	其	其	其
付	付	付	付	付	付	付
符	符	符	符	符	符	符
出	出	出	出	出	出	出
張	張	張	張	張	張	張
理	理	理	理	理	理	理
由	由	由	由	由	由	由
出	出	出	出	出	出	出
張	張	張	張	張	張	張
職	職	職	職	職	職	職
氏	氏	氏	氏	氏	氏	氏
名	名	名	名	名	名	名

### 宿直賄支給規程

明治四十四年三月十一日 市訓令甲第十三號 (各區役所)

宿直賄支給規程左ノ通り相定メ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

宿直賄支給規程

本市吏員以下宿直ヲ爲シタルトキハ左ノ區分ニ依リ賄料ヲ支給ス

- 一 吏員 一日 貳拾錢以内(二賄分)
- 一 看護婦 一日 八錢以内(一賄分)
- 一 使丁其他之ニ準スル者 一日 拾六錢以内(二賄分)

常務トシテ徹夜勤務ヲ爲シタル者ニハ一賄分ヲ増給スルコトヲ得

明治三十三年四月市訓令甲第十九號及同二十號ハ之ヲ廢止ス

### 特別手当支給規程

明治四十四年五月一日 (各部) 市訓令甲第二十二號

明治四十年三月市訓令甲第三號特別手当支給規程左ノ通改正來ル

四月十六日ヨリ實施シ尙別段ノ支給額ニ要スル從前ノ(市參事會)決議ハ本規程實施ト同時ニ總テ之ヲ廢止ス

特別手当支給規程

第一條 市役所吏員ニシテ其勤務事項左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ本規程ニ依リ特別手当ヲ支給ス

- 一 市内出張又ハ時間外勤務ヲ常務ト爲ストキ
- 二 出張ヲ常務ト爲ササルモ常務ト關係ヲ等フスト認ムヘキ用務ニテ出張シタルトキ
- 三 實地踏査又ハ出納檢査等ノ爲メ名譽職員ト共ニ出張シタルトキ

第一篇 通規 第八類 給與

四 事務ノ調査又ハ視察ノ爲メ三日以上引續キ同一場所ニ出張シ若ハ三日ニ達セサルモ之ト同時期ニ於テ同一事務ノ爲出張シ午前ヨリ午後或ハ夜間ニ涉リタルトキ (明治四十四年五月二十七日)

第二條 手當ノ支給額ハ一日金拾五錢トス但シ前條第三號又ハ第四號ニ當ルトキハ其倍額トス

第三條 事務ノ繁閑輕重其他ノ事由ニ依リ前條支給額ノ範圍内ニテ別段ノ支給額ヲ定ムルコトヲ得

第四條 本規程ニ依リ支給スル手當ハ一箇月ヲ通シテ金五圓ヲ超ユルコトヲ得ス

第五條 本規程ニ依リ支給スル手當ハ翌月ニ於テ之ヲ交付ス但數箇月分ヲ取纏メ交付スルコトアルヘシ

第六條 本規程ニ依リ手當ヲ給スル場合ハ舟車馬賃等ヲ支給セス

第七條 特別ノ事由アリテ本規程ノ支給額ニ依リ雖キモノハ別ニ之ヲ定ム

第八條 本規程ハ之ヲ掃除監視吏員ニ適用セス

### 區吏員市内出張ノ場合特別手当支給額

明治四十四年六月七日 (各區長宛) 助役通牒一發第五千六百五十七號



臨時事務ノ爲區吏員市内出張ノ場合ニ支給シ得ヘキ特別手當ノ金額ニ關シテハ明治四十二年六月一發第四二七號ヲ以テ通牒ノ次第モ有之候處右ハ書記雇員共一日金參拾錢ノ範圍内ニ於テ支給スル儀ト御了知相成度此段及通牒候也

被服給與規程

明治三十九年五月十二日  
市訓令甲第十三號  
(各課、各區役所、病院、養育院、消毒所、衛生試驗所)

- 第一條 被服ハ別表ニ依リ之ヲ給ス其服制ハ別ニ之ヲ定ム
- 第二條 被服ノ使用期間ハ其滿了ニ際シ使用ノ事實ヲ斟酌シテ之ヲ伸長スルコトヲ得
- 第三條 月數ノ計算ハ曆ニ從フ但一箇月ニ滿タサル端日數ハ之ヲ半月トス
- 第四條 被服ハ就職ノ際又ハ使用滿期毎ニ現品ヲ以テ之ヲ給ス使用期間内ノ被服ヲ亡失シ又ハ毀損ニ因リ代品ト交換ヲ要スヘキモノト認メタルトキ亦同シ

(別紙様式)

被服給與表

(明治三十九年五月二十八日市訓令甲第十六號ヲ以テ本表中度量衡檢査吏員ノ前「掃除監督」ノ四字追加同四十年四月二十九日市訓令甲第九號ヲ以テ「掃除監督乃至水衛」ニ給スヘキ品目員數等ノ欄「但」ノ下「夏服」ヲ「冬」ニ改メ「組」トシ「迄」ノ二十九日追加同五月八日市訓令甲第十一號ヲ以テ同欄但書及「電話工夫」「水道工夫」ニ給スヘキ品目員數等ノ欄「金五圓」ヲ「金六圓」ト改メ同年七月十八日市訓令甲第十九號ヲ以テ「掃除監督乃至水衛」ニ給スヘキ品目員數等ノ欄但書中「區役所衛生掛」ノ下「二」及「區役所」ト豫防吏員ノ「十三」字追加同四十一年五月六日

- ニ應シ之ヲ給ス
- 第五條 給與品ノ修補等ハ總テ被給者ノ自辨トス
- 第六條 給與品ハ之ヲ他人ニ貸與スルコトヲ得ス
- 第七條 被給者轉職、休職、退職又ハ死亡シタルトキハ其給與品ハ直ニ之ヲ返納セシム使用殘期ニ相當スル靴料ニ付亦同シ  
(明治四十年七月十八日市訓令甲第十九號ヲ以テ轉職ノ下「二」休職ノ「二」字追加)
- 前項ノ返納品ハ其使用殘期ヲ逐ヒ之ヲ給與品トス
- 第八條 帽前章及制服釦ハ其被服使用滿期ノ際之ヲ返納スヘシ
- 第九條 故意、懈怠ニ因リ使用期間内ノ被服ヲ毀損修補スル能ハサラシメタルトキ又ハ亡失シタルトキハ其原價ニ基キ使用殘期ニ相當スル金額ヲ賠償セシム
- 第十條 被服交付簿ハ別紙様式ニ依ル
- 第十一條 此規程ハ明治三十九年度分ヨリ之ヲ施行ス
- 第十二條 明治三十一年七月市訓令甲第六號、明治三十三年五月市訓令甲第二十五號、明治三十四年五月市訓令甲第三十一號、明治三十六年五月市訓令甲第二十號及此規程ニ抵觸スル從前ノ規定ハ之ヲ廢止ス

給消	水守日	施圖市淺水水區區撤度消自掃消掃	療書役及林道ハ衛所水勸	病芝事務公所檢豫及掃除臨牙	院館所園派防除監檢技	巡巡視所查務吏督吏	巡巡視吏	視視視員員員員員員	手手手手手手手	仕手	被給者		品目		員數	使用期間	使用季節	
											除毒	監督	夏服	冬服				
帽	冬服	夏服	靴	手袋	外	冬服	夏服	靴	手袋	帽	靴	手袋	靴	手袋	靴	手袋	靴	手袋
一	一	二	一	一	一	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
個	組	組	個	著	組	組	組	個	著	個	著	個	著	個	著	個	著	個
十二箇月	八箇月	四箇月	十二箇月	二十四箇月	八箇月	四箇月	四箇月	十二箇月	二十四箇月	十二箇月	二十四箇月	十二箇月	二十四箇月	十二箇月	二十四箇月	十二箇月	二十四箇月	十二箇月
	自至翌年五月三十一日	自至六月三十日	自至四月三十一日	自至五月三十一日	自至六月三十日	自至九月三十日	自至六月三十日	自至四月三十一日	自至五月三十一日	自至六月三十日	自至九月三十日	自至六月三十日	自至五月三十一日	自至六月三十日	自至九月三十日	自至六月三十日	自至五月三十一日	自至六月三十日







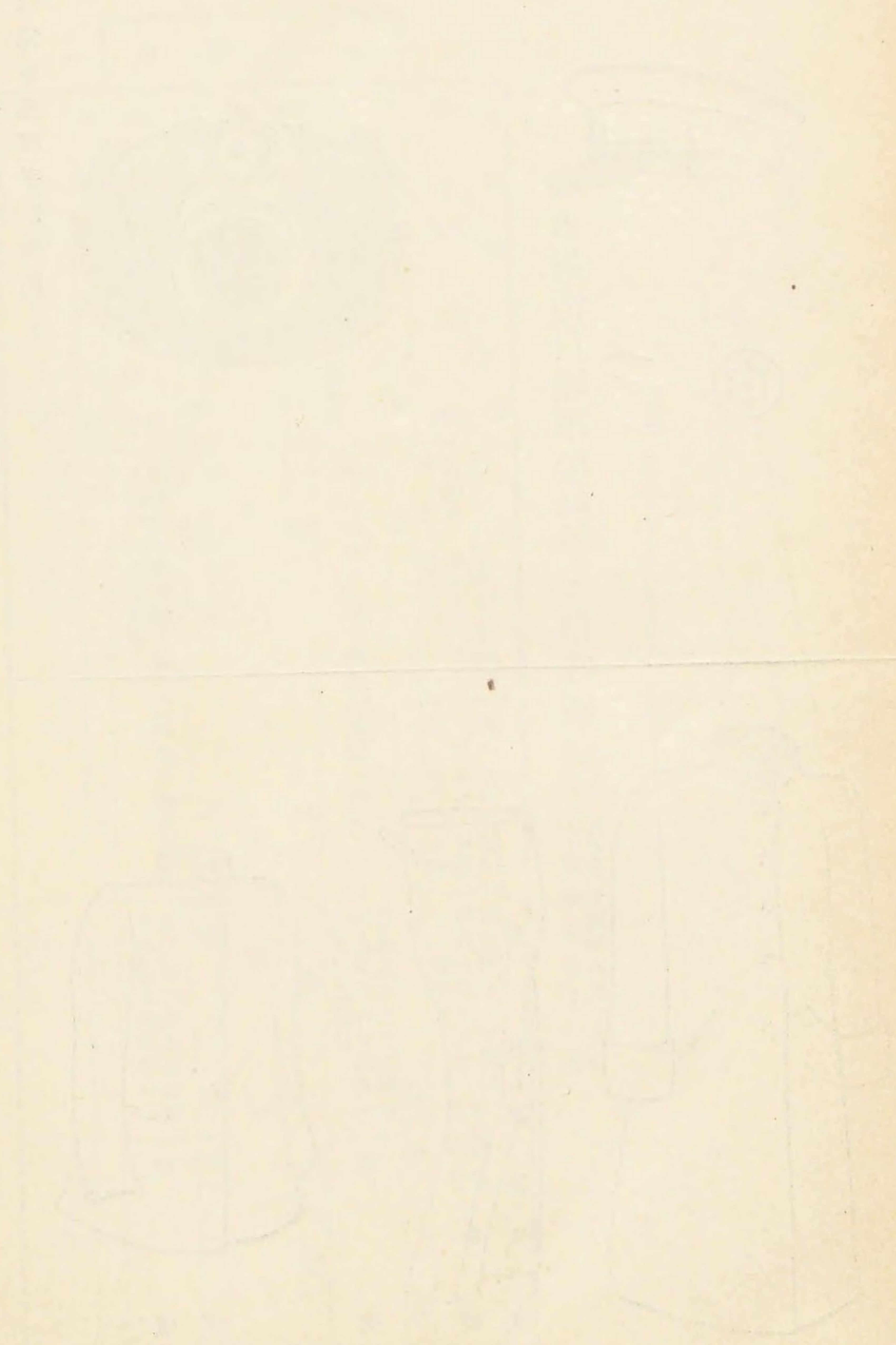








第二篇  
類  
規





第一類學事



## 第二篇 類規

### 第一類 學事

#### 第一節 學校設置及經費 附授業料

##### ●市立小學校舍新築増築等竣

##### 工ノ際點檢申請方

明治三十五年十二月十五日(各區長宛)  
市長通達總甲第三百四十三號

市立小學校舍ノ新築増築等竣工ノ場合ニハ府廳吏員ヲシテ實地ニ就キ點檢セシムヘク旨東京府知事ヨリ通達有之候條校舍落成ノ際豫メ日時ヲ定メ點檢方申請セラルヘク此段及通達候也  
追テ落成式等舉行セントスルトキハ其舉行前ニ於テ點檢申請スヘキ儀了知セラルヘシ

##### ●市立高等小學校廢置

明治四十年十二月二十七日(各區役所)  
市訓令 第八號

一 市立尋常小學校ニ併置シタル高等小學校ハ明治四十一年三月限り之ヲ廢止ス

第二篇 類規 第一類 學事 第一節 學校設置及經費附授業料

- 一 明治四十一年四月ヨリ市立高等小學校ハ各區ニ一校又ハ二校ヲ設置スルモノトス但當分ノ內尋常小學校ノ校地校舍等ヲ假用スルコトヲ得
- 一 高等小學校ノ設立維持ニ關スル費用ハ當該區ノ負擔トス
- 一 高等小學校ノ修業年限ハ二箇年トス
- 一 高等小學校ニハ補習科ヲ置クコトヲ得其修業年限ハ一箇年又ハ二箇年トス
- 一 尋常小學校ニハ補習科ヲ置カサルモノトス

##### ●市立商業學校學則

明治四十二年五月三十日  
市告示第三十三號

「本校ハ明治三十九年五月十八日東京府知事ノ認可ヲ得テ設立シ元市立商業補習夜學校ト稱シリタシモ同四十二年五月二十六日文部大臣ノ認可ヲ得テ乙種商業學校程度トナシ市立商業夜學校ト改稱シ同四十五年四月六日市告示第三十一號ヲ以テ更ニ市立商業學校ト改稱セリ」  
第一章 總 則 (明治四十四年三月十七日市告示第十二號及同四十五年市告示第三十一號ヲ以テ學則中改正)

第一條 本校ハ文部省令商業學校規程ニ基キ乙種程度ニ依リ簡易適切ヲ旨トシ商業ノ實務ニ堪フル人物ヲ養成スル所トス

第二條 本校ニ本科及別科ヲ置ク



第二篇 類規 第一類 學事 第一節 學校設置及經費附設料

- 第三條 修業年限ハ本科ヲ二箇年トシ別科ヲ一箇年トス
- 第四條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル
- 第五條 本科ノ學年ヲ分チテ二學期トス
  - 第一學期 四月一日ヨリ九月三十日ニ至ル
  - 第二學期 十一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル
- 第六條 休業定日左ノ如シ但休業中實踐ヲ課スルコトアルヘシ
  - 一 日曜日、毎月末日、一月十五日、十六日及七月十五日、十六日
  - 二 祝日、大祭日及靖國神社春秋例祭日
  - 三 東京市役所開廳記念日 十月一日

- 四 春季休業 三月二十五日ヨリ四月七日ニ至ル
- 五 夏季休業 八月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル
- 六 冬季休業 十二月十七日ヨリ一月十日ニ至ル
- 第七條 授業時間ハ毎日午後六時乃至十時ノ間ニ於テ三時間トス但時宜ニ依リ伸縮スルコトアルヘシ
  - 第二章 學科課程
- 第八條 本科ノ學科目ハ修身、讀書、習字、作文、算術、英語、商事要項、簿記、商品及地理、經濟及法規トス
  - 前項ノ外商業ニ關スル他ノ科目ヲ隨意科目トシテ加フルコトアルヘシ

學科	第一學年		第二學年	
	前期	後期	前期	後期
算術	四則、諸等、分數、小數、比例、珠算	同上	商業算術、珠算	同上
作文	記事文、日用文	同上	同上、商業書信	同上
習字	楷書、行書、細字	同上	楷、行、草書、細字	同上
讀書	講讀	同上	同上	同上
修身	道德ノ要旨、商人ニ必要ナル德義	同上	同上	同上
英語	譯解、作文、書取、習字	同上	解釋、作文、會話	同上
簿記	論	同上	倉庫、運送、銀行、保險、簿記、銀行、會計	同上
商品及地理	單式記帳及計算	同上	內外重要商品、內外商業地理	同上
經濟及法規	同上	同上	經濟大要、商事法規	同上
合計	一八	一八	一八	一八

備考 商業ニ關スル他ノ科目ヲ加ヘタルトキハ便宜商事要項以下四科目ノ時數ヲ減シ若クハ本表時數ヲ増シテ之ニ充テシ

學科	第一學年	第二學年
英語	五	五
簿記	二	二
商品及地理	一	三
經濟及法規	一	二
合計	一八	一八

第九條 別科ノ學科目ハ修身、國語(讀書、習字、作文ニ分ツ)、算術(算算、珠算ニ分ツ)、英語トス  
別科ノ課程並ニ每週授業時數左ノ如シ

學科	第一學年		第二學年	
	前期	後期	前期	後期
算術	四則、諸等、分數、小數、比例、暗算	同上	加減乘除ノ速算	同上
作文	普通文ノ商用文	同上	同上	同上
習字	楷書、行書、細字	同上	同上	同上
國語	六 商工ニ關スル文字、文章ノ講讀、書取	同上	同上	同上
修身	一 道德ノ要旨、商人ニ必要ナル道德	同上	同上	同上
合計	一八	一八	一八	一八

第二篇 類規 第一類 學事 第一節 學校設置及經費附設料



英語	四
譯讀、作文、書取、習字	
合計	一八

備考 算術又ハ英語ノ一科目ヲ修ムル者ノ爲メニ各九時マテニ増スコトヲ得、又授業上ノ都合ニ依リ本表ノ時數ヲ彼此増減スルコトヲ得

第十條 學校長ハ特別ノ事情アル者ニ本科又ハ別科ノ學科目申修身ヲ除クノ外一科目又ハ數科目ヲ選ミ修メシムルコトヲ得  
前項ノ生徒ハ之ヲ本科選科生、又ハ別科選科生トス

第三章 入學、在學、退學

第十一條 入學ノ時期ハ每學期ノ始トス但シ缺員アルトキハ臨時入學ヲ許スコトアルヘシ

第十二條 本科第一學年前期ニ入學シ得ヘキ者ハ左ノ資格ヲ備フルヲ要ス但入學志願者ノ數、入學ヲ許スヘキ人員ヲ超過スルトキハ選抜試驗ヲ行フ此場合ニ於テ入學試驗ヲ要スル者ノ入學ハ許サ、ルコトアルヘシ

- 一 品行方正、身體健全ナル者
  - 二 年齡滿十四年以上ノ者
  - 三 高等小學校卒業ノ者(改正規定ノ程度ニ依ル)
- 國語、算術ノ二科目ニ就キ行ヒタル入學試驗ニ合格シタル者ハ前項第三號ニ準スルコトヲ得但シ別科修業ノ者ニハ其修了シタル科目ノ試験ヲ要セス

實業補修學校其他ニ於テ國語算術ノ二科目(高等小學校ノ程度ニ依ル)ヲ修了シタル者ニ對シテハ試驗ヲ行ハスシテ前項ニ準スルコトヲ得

第十三條 本科第一學年後期及第二學年ニ入學シ得ヘキ者ハ前條ノ資格ヲ有シ且學校長ニ於テ相當學力アリト認メタル者ニ限ル

第十四條 別科ニ入學シ得ヘキ者ハ左ノ資格ヲ備フルヲ要ス

- 一 品行方正、身體健全ノ者
- 二 年齡滿十四年以上ノ者
- 三 尋常小學校卒業ノ者(改正規定ノ程度ニ依ル)

第十五條 入學志願者ハ保證人ヲ立テ學校ニ於テ定メタル書式ニ依リ入學願書及履歷書ヲ差出スヘシ

第十六條 保證人ハ同居ノ父兄若ハ之ニ準スヘキ者又ハ雇主ニシテ學校長ノ適當ト認メタルモノトス

第十七條 本人又ハ保證人改氏名若クハ居住ヲ轉スル等ノコトアルコトヲ得

ルトキハ其旨遲滞ナク學校ニ届出ツヘシ

第十八條 生徒ハ半途ニシテ退學スルコトヲ得ス、但特別ノ事情アルトキハ其事由ヲ具シ保證人連署ヲ以テ學校長ニ願出ツヘシ

第十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シ學校長ハ退學ヲ命スルコトアルヘシ

- 一 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者
  - 二 正當ノ事由ナクシテ一箇月以上引續キ缺席シタル者若ハ出席常ナラサル者
- 第十九條ノ二 學校長ハ特別ノ事情アル者ニ對シ六箇月以内休學ヲ許可スルコトヲ得、但シ休學期間ハ當該學年ヲ超エサルモノトス

第四章 試驗、卒業、修業

第二十條 課程ノ修了ヲ認ムルニハ出席日數ヲ參照シ平素ノ成績ヲ考查シテ之レヲ定ム但試驗ヲ行フコトアルヘシ

第二十一條 學校長ハ修業年限ノ終ニ於テ全課程ヲ修了セリト認メタル者ニ卒業證書ヲ授與スヘシ其成績優等ナル者ニハ優等卒業證書ヲ授與スヘシ

第二十二條 學校長ハ本科第一學年ノ課程ヲ修了セリト認メタル者ニハ修業證書ヲ授與スルコトヲ得

第二十三條 學校長ハ選科生又ハ全課程ヲ修了セサル者ニ成績ニ依リ一科目又ハ數科目ノ修業證書ヲ授與スルコトヲ得

第二十四條 卒業證書等ノ様式ヲ定ムルコト左ノ如シ

(優等) 卒業證書

族籍

校印 本科(別科生) 氏名

生年月日

右ハ(優等)ノ成績ヲ以テ本校所定ノ學科ヲ卒業セリ仍テ之ヲ證ス

年 月 日

東京市立商業學校長 氏名

印

修業證書

族籍

氏名

生年月日

右ハ本科第一學年ノ課程ヲ修業セシコトヲ證ス

年 月 日

東京市立商業學校

印校



修業證書

族籍 氏名 生年月日

「學科目ヲ記載ス」

右ハ本科「別科」ノ學科中頭書ノ科目ヲ修業セシコトヲ證ス

年月日

東京市立商業學校

校印

第五章 賞罰

- 第二十五條 品行端正學力優等ニシテ他生ノ模範トナスニ足ルヘキ者ニハ賞品又ハ賞狀ヲ授與ス
- 品行端正ニシテ勉勵超集ノ者ハ特待生トナスコトアルヘシ
- 第二十六條 一學年間一日モ缺席ナキ者ニハ精勤證書ヲ授與ス
- 第二十七條 優等證書又ハ精勤證書ヲ授クル者ニハ賞品ヲ併セ授クルコトアルヘシ
- 第二十八條 校規ヲ犯シ又ハ命令告諭ニ違背スル者ニ對シ學校長ハ其輕重ニ依リ左ノ懲戒ヲ加フ
- 一 戒飾
- 二 謹慎 (一箇月以内)

市立第一工業補習夜學校規

明治三十九年五月二十二日 (市參事會議決) 第四百七十七號

- 第一條 本校ハ實業補習學校規程ニ基キ工業ニ從事シ若クハ從事セントスルモノニ必須ナル智識技能ヲ授クルト同時ニ普通教育ノ補習ヲナスヲ以テ目的トス
- 第二條 本校ハ東京市立第一工業補習夜學校ト稱シ東京市芝區三田四國町二番地東京市芝區高等小學校内ニ置ク (明治四十年四月會議決) 第千五百八十二號ヲ以テ本校ハ「東京市立東京工業補習夜學校」トアリシヲ「東京市立第一工業補習夜學校」ト改稱シ同年同月三十日助役通牒教養第九十九號ニ依リ同年五月一日ヨリ實施尙ホ本條中「芝區高等小學校」トアルハ明治四十年十二月市訓令第八號ニ基キ單ニ「芝區常小學校」ノ儀ト知ルヘシ
- 第三條 本校ノ教科ヲ分チテ本科及專修科トス
- 第四條 本科ノ教科目ハ修身、國語、數學、理科、圖畫トシ專修科ノ教科目ハ機械、建築、電氣、化學、圖案及其他工業ニ關スル教科目トシ開講ノ都度之ヲ定ム
- 第五條 本科生ハ專修科ヲ兼修スルコトヲ得
- 第六條 本科生ハ學校長ノ許可ヲ得テ其一教科目若クハ數教科目ヲ缺クコトヲ得
- 第七條 修業期間ハ本科ハ一箇年トシ專修科ハ科目毎ニ一箇年以テ之

三 停學 (三箇月以内)

四 放校 第六章 授業料

第二十九條 授業料ハ左ノ定額ニ依リ毎月五日迄ニ之ヲ納ムルモノトス但一月及四月ニ限リ納期ヲ十五日マテトス

本科 金壹圓 別科 金五拾錢

選科生ノ授業料額ハ本科又ハ別科ニ同シ但シ一科目專修(修身ハ之ヲ加ヘス)ノ者ハ各半額トス

第三十條 在學中ハ左ノ場合ノ外授業料ヲ免除セス

一 八月 二 特待生タル期間

三 學校長ノ許可ヲ受ケ休學全月ニ及ヒタルトキ

第三十一條 授業料ヲ納期内ニ納メサル者ニ對シ學校長ハ一時其出席ヲ停止スルコトアルヘシ

前項ニ依リ出席停止ノ者翌月ノ納期ヲ過クルモ尙之ヲ納メサルトキハ學籍ヨリ除キ其未納ニカ、ル授業料ハ保證人ヨリ徵收スルモノトス

第七章 補則

第三十二條 學校長ハ生徒心得及其他細則ヲ定ムルコトヲ得此場合ニ於テハ市長ニ報告スヘシ

内ニ於テ開講ノ都度之ヲ定ム

第八條 各教科目ノ每週教授時數ハ左ノ如シ但終始ノ時刻ハ季節ニ依リ之ヲ定ム

本	科	專	修	科
國語	三	一週六時以内ニ於テ教科目ノ種類ニ應シ便宜之ヲ定ム		
數學	三			
理科	三			
圖畫	三			
計	一二			

第九條 學期及休業日ハ小學校ノ例ニ準ス

第十條 本校ニ入學シ得ヘキモノハ年齢十二歳以上ニシテ尋常小學校(修業年限)卒業ノ男子トス但尋常小學校ヲ卒業セサルモ就學ノ義務ナキ者ハ學校長ノ見込ニ依リ本文ノ學力ニ依ラスシテ入學ヲ許ス事アルヘシ (明治四十一年五月十六日(市參事會議決) 第千九百十六號ヲ以テ本條中改正)

第十一條 入學セントスル者ハ書面ヲ以テ保證人ヨリ願出ツヘシ但保證人ハ本人子弟ナルトキハ其父兄、雇人ナルトキハ其雇備主タルヘシ

第十二條 退學セントスルモノハ其事由ヲ具シ保證人ヨリ願出ツヘシ

第十三條 本科ノ課程ヲ修了セシ者ニハ卒業證書其一部分ノ教科



- ナ修了セシ者及專修科ノ課程ヲ修了セシ者ニハ修業證書ヲ授與ス
- 第十四條 操行學力共ニ優秀ニシテ修了セシモノニハ優等證書ヲ授與スヘシ
- 第十五條 修業期間中缺席ノ度數少キ者ニハ精勤證書ヲ授與スヘシ
- 第十六條 性行不良ニシテ改悛ノ見込ナキ者若クハ學業修了ノ見込ナキ者ハ退學ヲ命スルコトアルヘシ
- 第十七條 授業料ハ一箇月本科參拾錢專修科參拾錢兼修者ハ各別ニ之ヲ納メシム (明治四十年四月十二日(市參事會議決) 第千五百八十二號ヲ以テ本條中改正)
- 第十八條 本校ノ都合ニ依リ休業全月ニ亘ル時ハ授業料ヲ徵收セス
- 第十九條 本人ノ都合ニ依リ全月缺課スルモ授業料ハ免除セス但シ學校ノ許可ヲ得テ缺課シタルモノハ此限ニアラス (明治四十年四月十二日(市參事會議決) 第千五百八十二號ヲ以テ本條中改正)
- 第二十條 授業料ノ納付ヲ怠ル時ハ出席ヲ停止シ又ハ退學ヲ命スルコトアルヘシ

- 第一條 (東京市立第一工業補習夜校) (學校ノ分ト同様ニ付略ス)
- 第二條 本校ハ東京市立第二工業補習夜學校ト稱シ東京市本所區菊川町一丁目菊川尋常小學校内ニ置ク (明治四十五年三月三十日(市參事會議決) 第千七百二十九號)
- 第三條 (本條以下東京市立第一工業補習夜學校ノ分ト同様ニ付略ス)

●市立第二工業補習夜學校規

則 明治四十年四月十九日  
〔市參事會議決〕第千七百二十九號  
「明治四十年四月二十九日東京府知事認可」

●市立第一實科高等女學校設置及開校

明治四十五年三月三十一日  
市告示第二十五號  
東京市下各區谷中初音町ニ東京市立第一實科高等女學校ヲ設置シ  
明治四十五年四月ヨリ開校ノ件文部大臣ノ認可ヲ經タリ

●市立第一實科高等女學校學則

明治四十五年三月三十一日  
市告示第二十七號

- 第一條 本校ノ休業日左ノ如シ
- 一 祝日、大祭日
- 一 皇后陛下御誕辰日
- 一 日 曜 日
- 一 本校創立記念日
- 一 東京市役所開廳日
- 一 夏季休業 七月二十一日ヨリ八月三十一日ニ至ル
- 一 冬季休業 十二月二十五日ヨリ翌年一月七日ニ至ル

- 一 學年 末休業 三月二十五日ヨリ同月三十一日ニ至ル
- 第二條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ至ル
- 第三條 學年ヲ分テ左ノ三學期トス
- 第一學期 四月一日ニ始マリ八月三十一日ニ終ル
- 第二學期 九月一日ニ始マリ十二月三十一日ニ終ル
- 第三學期 翌年一月一日ニ始マリ三月三十一日ニ終ル
- 第四條 修業ノ年限ハ四箇年トス
- 第五條 學科目ハ修身、國語、歴史及地理、數學、理科及家事裁縫及手藝、圖畫、唱歌、體操トス
- 第六條 各學年ニ於ケル各學科目ノ課程及其每週教授時數左ノ如シ

學科目	學年別	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
修身	二	道徳ノ要領作法	法讀、習作	同上	同上
國語	五	講讀、作文、習字	同上	同上	同上
歷史	三	本本	同上	同上	同上
地理	三	本本	同上	同上	同上
算學	二	算日	同上	同上	同上
理科	二	理	同上	同上	同上
裁縫及手藝	一五	裁縫、三手藝	同上	同上	同上
圖畫	一	自在	同上	同上	同上







年 月 日 校 名 印  
第 號 校 名 印  
卒業證書 族 籍 氏 名  
生 年 月 日

校 印  
右ハ本校所定ノ課程ヲ卒業セリ仍テ茲ニ之ヲ證ス  
年 月 日  
東京市立第一實科高等女學校校長位勳學位爵 何 誰 印

第十八條 退學セントスル者ハ其事由ヲ詳記シ保證人連署ノ上學  
校長ニ願出ツヘシ  
第十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ退學ヲ命スルコトアル  
ヘシ

- 一 性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者
  - 一 學藝劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者
  - 一 出席常ナラサル者
  - 一 正當ノ事由ナクシテ引續キ一箇月以上缺席シタル者
- 第二十條 學校長ハ必要ニ應ジ生徒ニ左ノ懲戒ヲ加フ
- 一 戒 飭
  - 一 謹 慎
  - 一 停 學

科目	級 別		級 別	
	前 期	後 期	前 期	後 期
修 身	一	一	一	一
國 語	八	八	七	七
算 術	三	三	四	四
計	一一	一一	一一	一一

- 五 授業時間ハ毎夜凡ソ二時間トス
- 六 休業日ハ小學校ノ例ニ準ス
- 七 教科書ハ尋常小學校用ノモノニ依ル
- 八 本校ニ入學シ得ヘキ者ハ年齢凡ソ十歳以上十四歳以下ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノトス
  - 一 保護者貧窮ノタメ就學ヲ猶豫セラレ若クハ免除セラレタル者
  - 二 被雇備者
- 九 上級ノ課程ヲ終リタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス
- 一〇 卒業生ハ學校長ノ許可ヲ得テ上級ノ時間ニ出席シ復習スルコトヲ得
- 一一 授業料ハ之ヲ徵收セス
- 一二 學校用品ハ之ヲ貸與ス
- 一三 入學ハ各學期ノ始メニ於テ之ヲ許ス但シ隨時之ヲ許可スルコトアルヘシ

第二篇 類規 第一類 學事 第一節 學校設置及經費 附 授業料

- 第二十一條 授業料(八月分ハ)ハ一箇月金貳圓(選科ハ金壹圓五拾錢)トシ毎月十五日迄ニ其月分ヲ納付スヘシ但金月ニ涉リ出席セサル者ハ之ヲ免除ス
- 第二十二條 授業料ヲ滞納シタル時ハ出席ヲ停止スルコトアルヘシ
- 第二十三條 學校長ハ本則施行上必要ナル細則ヲ設クルコトヲ得
- 第二十四條 本則ハ明治四十五年四月一日ヨリ施行ス

### 市立特殊夜學校學則

- 明治三十九年四月二十七日(市參事會議決)  
第二千二號同年五月九日東京府知事認可
- 一 本校ハ未タ尋常小學校ノ教科ヲ卒ヘスシテ晝間修業スルコト能ハサル兒童ニ普通教科ヲ速成的ニ授ケルヲ以テ目的トス
  - 二 修業期間ヲ二箇年トシ一箇年ヲ前期後期ノ二期ニ分ツ
  - 三 本校ノ教科目ハ修身、國語、算術トシ科外トシテ手工及裁縫ヲ課スルコトアルヘシ
  - 四 各教科目ノ程度ハ尋常小學校ノ教科課程ニ準シ每週教授時數ハ凡ソ左ノ如シ

### 市直營尋常小學校經營種別

- 明治四十四年九月二十二日  
〔市參事會議決〕第五千二百號
- 一四 入學セントスルモノハ保護者又ハ雇備主ヨリ區役所ヲ經テ學校長ニ出願スヘシ
  - 一五 退學セントスル者ハ其理由ヲ具シ書面ヲ以テ保護者若クハ雇備主ヨリ願出ツヘシ
  - 一六 學校長ハ性行不良若シクハ卒業ノ見込ナシト認メタルモノニハ退學ヲ命スルコトヲ得
- 本市立特殊尋常小學校ハ別紙ノ種別ニ依リ經營スルモノトス
- 特殊小學校ニ關スル件
- 一 本市直轄ノ尋常小學校ヲ第一種第二種ノ種類ニ分ツ
  - 一 第一種尋常小學校ハ在來ノ所謂特殊尋常小學校經營法ニ據ルモノトシ第二種尋常小學校ハ授業料ヲ徵收セサル外一般尋常小學校經營法ニ準スルモノトス
  - 一 市直轄ノ尋常小學校ハ前項ノ經營法ニ依ラサレハ其兒童ヲ就學セシムルコト能ハサル保護者ノ居住地ニシテ一學校ヲ組織スルニ足ル兒童ヲ得ヘキ場合ニ之ヲ設置スルモノトス
  - 一 時宜ニ依リ第二種尋常小學校内ニ第一種尋常小學校ニ屬スヘキ兒童ヲ收容スルコトアルヘシ



第二種尋常小學校ハ明治四十二年七月二十九日市會議決ニ依ル特別學校ニ充當スルコトヲ得

### 市教育研究所規程

大正二年三月十七日 (教員講習所、各部局) 市訓令甲第十一號 (各區 役 所)

東京市教員講習所ヲ東京市教育研究所ト改稱シ其規程ヲ左ノ通定メ本年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

東京市教育研究所規程

- 第一條 本所ハ教育ニ關スル諸般ノ調査講究ヲ爲シ以テ本市教育上ノ改善ニ資スルヲ目的トス
- 第二條 本所事業ノ概目左ノ如シ
  - 一 教育實際問題ノ調査研究
  - 二 市立學校職員ニ必要ナル學術ノ講習及研究
- 第三條 本所ニ教育圖書館教育博物館教材園ヲ附設スルコトヲ得

### 市教育研究所處務規程

大正二年三月十七日 (教員講習所、各部局) 市訓令甲第十二號 (各區 役 所)

東京市教育研究所處務規程ヲ左ノ通定メ四月一日ヨリ之ヲ施行ス

- 第一條 本所ニ左ノ職員ヲ置ク
  - 一 所長 一名
  - 一 主事 一名
  - 一 講師 若干名
  - 一 事務員 若干名
  - 一 雇 若干名
- 第二條 所長ハ上司ノ命ヲ承ケ所務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス主事ハ所長ヲ輔佐シ所長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス講師ハ講習研究調査ニ從事ス事務員雇ハ所長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
- 第三條 所長ハ左ノ事項ヲ專行ス
  - 一 臨時講師ノ囑託但報酬額ハ一時間五圓以下トス
  - 二 使丁人夫ノ傭罷
  - 三 講師ノ郊外教授
  - 四 職員ノ市内出張
  - 五 需用品並實驗材料及教用品ノ購入、修繕但一廉拾圓ヲ限度トス
- 前項第一號第二號第三號ニ關シテハ其都度市長ニ報告スヘシ
- 第四條 所長ハ講習研究調査開始ノ場合ハ其都度方法及經費豫算ヲ具シ市長ノ許可ヲ受クヘシ變更ノ場合亦同シ
- 第五條 所長ハ講習研究調査終了シタルトキハ其都度遲滞ナク市

長ニ報告スヘシ

- 第六條 所長ハ講習終了者ニ對シ證明書ヲ授與スルコトヲ得
- 第七條 所長ハ毎年四月二十日限り前年度事業成績ヲ市長ニ報告スヘシ
- 第八條 所長ハ處務細則ヲ定ムルコトヲ得此場合ハ市長ニ開申スヘシ

### 市立小學校建設費補給規程

大正二年六月十七日 市告示第七十七號

- 第一條 本市ハ區ニ於ケル市立小學校ノ設置ニ關スル經費中新設増築改築ノ費用ヲ本規程及施行細則ノ定ムル所ニ依リ補給ス
- 第二條 新設學校建設費ニ對シ補給スヘキ概目並標準額左ノ如シ
  - 一 校 地 最近ノ市區改正及附近賣買價格ニ準シタル額
  - 二 校 舍 平家建 一坪六拾圓以内
  - 二階建 一坪百五圓以内
  - 三階建 一坪百六拾圓以内
  - 三 屋內體操場 一坪參拾六圓以内
  - 四 校 具 一學級百貳拾五圓以内
- 第三條 増築改築ノ場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス但校具ニ關

第二篇 類規

第一類 學事

第一節 學校設置及經費

附設資料

一四九

- シテハ此限ニ在ラス
- 第四條 本規程ノ適用ヲ受ケル學校ハ東京市火災共濟基金ノ積立ヲ爲シ若クハ火災保險ニ付スルヲ要ス
- 第五條 東京市火災共濟基金、填補金火災保險收得金又ハ校地ノ收得及校舍建築ニ關聯スル收得金ハ補給スヘキ建設費中ヨリ之ヲ控除ス
- 第六條 補給金ハ決算額ニ依リ之ヲ支給ス但一學校ノ建設次年度ニ亘ルトキハ各年度支出額ニ應シ分割支給スルコトヲ得前項ノ補給金ハ豫算額ニ依リ概算拂チナスコトヲ得此場合ニ於テハ土地購買費ハ全部其他ノ費用ハ十分ノ七以内トス
- 第七條 補給金ハ本市豫算ノ都合ニ依リ翌年度ニ於テ之ヲ支給スルコトアルヘシ
- 第八條 建設費豫算ハ市長ノ認可ヲ受クヘシ
- 第九條 建築工事ニ關シテハ區ハ左ノ手續ヲ爲スヘシ
  - 一 執行前設計書及仕様書ノ檢閲ヲ經ルコト
  - 一 工程ヲ報告スルコト
- 第十條 補給金ノ概算拂チ受ケタル學校ノ建設其年度内ニ完成セサルトキハ事由ヲ具シ承認ヲ受クヘシ
- 第十一條 本規程ノ適用ヲ受ケル學校ハ幼稚園ニ使用スルコトヲ得ス
- 第十二條 校地校舍ヲ廢止シタルトキハ其土地建物ハ無償ニテ本市ノ所有ニ歸屬ス一部ノ廢止ニ係ルトキ其部分ニ關シ亦同シ



第二篇 類規 第一類 學事 第一節 學校設置及經費

附設資料

第十三條 校地校舎ノ全部又ハ一部ヲ變更シタルトキハ其土地建物處分ニ依ル收得金ハ新ニ取得スル校地校舎ノ建設費ニ充當スヘシ

第十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ情狀ニ依リ補給金ヲ削減シ又ハ一時之ヲ返還セシム

一 第九條ノ手續ヲ懈リ又ハ檢閲ヲ經タル設計及仕様ニ違背シ工事ヲ執行シタルトキ

二 第十條ノ規定ニ違背シタルトキ  
前項第一號ノ工事ニ重要ナル瑕疵アルトキハ一時工事ヲ中止セシメ修補ヲ命スルコトアルヘシ

附則

第十五條 本規程ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但明治四十五年三月二十八日以後內議ヲ經タルモノニモ亦之ヲ適用ス

第十六條 從前ノ規程ニ依リ補給ヲ受ケタル校地校舎ノ全部又ハ一部廢止ノ場合ニ於テハ補給ヲ受ケタル割合ニ應シ收得金ヲ納

甲 規模標準

校種	地目	面積	其他ノ學級ノモノ
普通教室	十二學級ノモノ	千八百坪以內	其他ノ學級ノモノ
特別教室	同上	同上	一學級六十坪トシ學級數ニ應スル坪數以內
	同上	十八坪以內	學級數ニ應ス一乃至四

入セシム  
校地校舎ノ全部又ハ一部變更ノ場合ニ於テハ第十三條ノ規定ニ依ル全ク補給ヲ受ケサルモノニアリテモ亦同シ

第十七條 本規程施行ニ關スル細則ハ市參事會ノ議決ヲ經之ヲ定ム

● 市立小學校建設費補給規程  
施行細則  
(大正二年六月二十七日)  
(市告示第八十二號)

第一條 新設學校ハ土地ノ狀況ニ依リ已ムヲ得サル場合ノ外十二學級乃至十八學級ノ規模ノモノタルコトヲ要ス増築改築ノ場合ニ於テモ之ニ準ス

第二條 新設學校ニ對シテハ補給規程第二條ニ掲ケルモノノ外左ノ標準ニ依リテ補給ス

物置	面積	備註	備註
舍	職員室 圖書機械標本室 宿直室 救急手當室 昇降口	同上 同上 同上 同上 同上	一箇所乃 一箇所乃 一箇所乃 一箇所乃 一箇所乃
屋內體操場	六十坪以內	同上	同上
小使室及湯沸所	十坪以內	同上	同上
便所	女兒百人ニ付三男兒百人ニ付大便所一小便所三各長二尺	兒童數ニ比例ス	學級數ニ比例ス但百二十坪ヲ度トス
物置	七坪以內	同上	同上

乙 價格標準

一 校地 最近市區改正及附近賣買ノ例ニ依リ難キ場合ハ評價人ノ意見ヲ聞キ査定ス

二 校舎 二階建(屋內體操場ヲ階下ニ設クルモノ)  
一坪九拾圓以內

三 附屬建物 小使室及湯沸所並便所  
各一坪六拾圓以內  
物置渡廊下  
各一坪貳拾五圓以內  
一坪參圓以內

四 屋外體操場  
木柱貳百圓以內  
石柱鐵扉若クハ之ニ準  
スルモノ參百圓以內

五 門 表門  
各四拾五圓以內  
通用門、非常門

六 牆壁 煉瓦若クハ之ニ準スルモノ  
一間四拾圓以內  
木材又ハ亞鉛板材  
一間拾五圓以內

七 盛土  
敷砂利  
立坪六圓以內

八 溜樹  
排水土管  
立坪拾八圓以內  
一個拾八圓以內  
一間壹圓以內

第六條ノ煉瓦塀若クハ之ニ準スルモノニ對シテハ周圍ノ狀況ニ依リ防火上必要ト認ムルトキニ限リ補給ス

第三條 改築増築ノ場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス但附屬家牆壁等ノミニニ係ルトキハ補給セス

第二篇 類規 第一類 學事

第一節 學校設置及經費

附設資料



第四條 補給規程第十六條第一項ノ場合ニ於テ收得金ナキトキハ其土地建物ノ賣買價額ヲ評定シ補給ヲ受ケタル割合ニ應スル金額ヲ納入セシム

第五條 補給規程第十三條及第十六條第二項ノ場合ニ於テ收得金ナキトキハ其土地建物ノ賣買價額ヲ評定シ新ニ取得スル校地校舍ノ建設費中ヨリ控除ス

第六條 補給金額ハ圓位未満ノ數ヲ算入セス

第七條 補給規程第四條ニ依ル積立標準金額又ハ保險金額ハ建物價格十分ノ九以上タルコトヲ要ス

第八條 補給規程第九條第一號ノ檢閲ヲ受クルニハ左記ノ圖面ヲ添附スヘシ

- 一 校舍及附屬建物其他ノ配置圖 標準縮尺 百分ノ一
- 二 同上平面圖(地形及床伏梁伏小屋伏ヲ含ム) 同 上 百分ノ一
- 三 同上断面圖 同 上 二十分ノ一
- 四 同上主要ナル立面圖 同 上 百分ノ一
- 五 其他工事施行上必要ナル各部詳細圖 同 上 二十分ノ一

第九條 補給規程第九條第二號ニ依リ報告スヘキ工程左ノ如シ

- 一 土地ニ關スル權利登記ノ日
- 二 地上物件移轉開始及終了ノ日
- 三 建築請負契約ノ日及其方法請負人ノ住所氏名 落成期日

工事豫算額並請負金額

- 四 地均工事著手ノ日
  - 五 土留工事著手ノ日
  - 六 地形工事著手ノ日
  - 七 材料検査ノ日
  - 八 軸方工事著手ノ日
  - 九 小屋組著手ノ日
  - 十 上棟ノ日
  - 十一 造作取付著手ノ日
  - 十二 落成ノ日
- 前項第四號乃至第十二號ニ付キテハ五日以前ニ其他ノ各號ニ付キテハ三日以内ニ報告スルヲ要ス
- 第十條 補給規程第十條ニ依ル承認ハ翌年四月十日限りヲ受クヘシ
- 第十一條 第二條規定以外ノ工事ニ關シテハ必要ト認ムルモノニ限り所要金額以内ニ於テ其都度補給金ヲ定ム

●市立小學校建設費補給規程

實施手續 大正二年六月二十七日(各區役所) 市訓令甲第三十七號

第一條 市立小學校ノ建設ニ關シ區長ハ左記ノ事項ヲ具シ豫メ之

ヲ稟議スヘシ

- 一 學級數及之ヲ要スル理由
- 二 建設費内譯書及工事設計概要書(附録ノ様式ニ依ル)
- 三 圖面

イ 校地附近(約二丁以内)ノ狀況ヲ示セル圖面

標準縮尺 六百分ノ一

ロ 校地ノ形狀高低土質坪數及四隣ノ建物等ヲ示セル圖面 (井月、土窖、樹木等ハ特ニ記入ヲ要ス)

同 上 二百分ノ一

ハ 校舍及附屬建物各階ノ平面圖 同 上 二百分ノ一

ニ 門、牆壁、土留壁、下水溝、排水土管溜槽、水道、消火栓等ノ配置圖 同 上 二百分ノ一

四 校具明細書 改築増築ノ場合ハ之ヲ要セス

第二條 稟議ヲ經タル事項ヲ變更セントスルトキハ前條ニ準シ承認ヲ受クヘシ

第三條 補給金ハ校地選定又ハ校舍建築ニ關シ認可指令ヲ受ケタル後之ヲ支給ス

第四條 補給金ノ概算拂ヲ受クルニハ其請求書ニ左記ノ調書並區會ノ議決シタル豫算書ヲ添付スヘシ

何區内何小學校建設費豫算調書

第二篇 類規 第一類 學事 第一節 學校設置及經費

附設業

一五三

一金 何圓

内補給外

區豫算額

金 何圓

金 何圓

金 何圓

計 金 何圓

差引金 何圓

補給標準額

第五條 補給金ノ決算拂ヲ受クルハ其請求書ニ左記ノ調書並區會ノ認定シタル決算書ヲ添付スヘシ

(何年何月第何號稟議ニ依ル)

何區内何小學校建設費決算調書

一金 何圓

内補給外

區決算額

金 何圓

金 何圓

金 何圓

計 金 何圓

差引金 何圓

金 何圓

金 何圓

補給標準額

何年何月概算拂

補給殘額







百貳拾五圓借入金九拾萬圓總計參百八萬五千八百貳拾貳圓トス

- 二 前項繰替借及借入金ノ各年度所要額ハ豫算ノ定ムル所ニルモノトシ借入金ニ付テハ更ニ市會ノ議決ヲ經ルモノトス
- 三 本會計ニハ大正元年度ヨリ同九年度ニ至ル九年間毎年度金六拾參萬圓ノ限度ニ於テ豫算ノ定ムル所ニ依リ市經濟ヨリ受入ヲナスモノトス
- 四 元資金ニ對スル利子ハ年率百分ノ五トシ毎年二回ニ之ヲ支拂フモノトス
- 五 元資金ハ大正五年度ヨリ同九年度ニ至ル五年間ニ償還スルモノトス但本會計ノ都合ニ依リ年度前ニ償還スルコトヲ得
- 六 市立小學校建設費補給規程ニ依ル補給金、納入金、事務費ハ本會計ニ於テ收支スルモノトス
- 七 市直轄學校建設費ハ本會計ヨリ繰替支出スルコトヲ得
- 八 區ノ申出ニ依リ小學校建設ニ要スル費用ヲ交付スル場合ハ本會計ヨリ支出スルモノトス其金額及利子ニ相當スル金額ハ區ヲシテ納付セシムルモノトス
- 九 前項ノ交付金及納付金ハ本會計中ニ市立小學校完成資金ノ科目ヲ設ケ其收支ヲ整理スルモノトス
- 十 市立小學校完成資金ノ交付及納付ニ關スル規定ハ市長之ヲ定ムルモノトス

(參考表略ス)

### ●市立小學校完成資金交付及納付規程

明治四十一年一月十五日(庶務課、會計課)

市訓令 甲第一號(教育課、各區役所)

- 第一條 區ニ於テ市立小學校ノ新設、改築又ハ擴張ニ要スル費用ニ充ツル爲メ市立小學校完成資金ノ交付ヲ受ケントスルトキハ第二條ニ依リ本市ノ内議ヲ經タル上第三條ニ依リ申請スヘシ
- 第二條 内議ハ左ノ事項ニ付區會ニ附議スル前ニ於テ之ヲ爲スヘシ
  - 一 新設、改築又ハ擴張ニ要スル費用ノ豫算設計書ヲ添付スルコト
  - 二 交付ヲ受ケントスル金額
  - 三 納付金額及其年度割
  - 四 納付金ノ財源
  - 五 年度別税目毎ニ賦率及其金額ヲ掲ケルコト
  - 六 納付金ヲ納ムル能ハサルトキ市ニ換納スヘキ小學校ノ土地及建物圖面及明細書ヲ添付スルコト
- 第三條 申請ハ左ノ書式ニ依リ區會決議書ノ寫ヲ添ヘ之ヲ爲スヘシ
  - 一 市立小學校完成資金交付申請書
  - 二 市立小學校完成資金ノ交付ヲ申請ス

年月日

區長名印

(東京市參事會)市長宛

記

- 一 申請ノ目的  
何尋常(高等)小學校新設、改築又ハ擴張ノ費用ニ充ツ
- 二 交付ヲ受ケントスル金額  
金 何 程
- 三 納付金額及其年度割  
明治何年何月何日限り  
金 何 圓  
明治何年何月何日限り  
金 何 圓  
明治何年何月何日限り  
金 何 圓
- 四 納付金ノ財源  
(年度別税目毎ニ賦率及其金額ヲ掲ケルコト)  
右財源ハ他ノ區費ニ振向ケサルコト
- 五 納付金ヲ納ムル能ハサルトキ市ニ換納スヘキ小學校ノ土地及建物  
(圖面及明細書ヲ添付スルコト)

第二篇 類規

第一類 學事

第一節 學校設置及經費

附設資料

一五七

### ●市立小學校完成資金取扱方

明治四十一年一月十五日(各區役所)

市訓令 甲第二號

- 第一條 市立小學校完成資金取扱方左記ノ通定ム
  - 一 市立小學校完成資金交付及納付規程第二條ニ依リ内議ノ場合ニハ區長ニ於テ資金調達ノ準備ヲナシ其借入先、利息ノ定率等借入ニ必要ナル事項ヲ同時ニ具申スヘシ

右ノ土地及建物ハ次年度ノ始ニ於テ市ニ換納スヘキコト

- 第四條 納付金ヲ支出スヘキ年度ノ區經濟總計豫算表ハ區會ハ發案前(市參事會)ニ内議スヘシ追加豫算又ハ更正豫算ヲ發案セントスルトキ亦同シ
- 第五條 納付金額ハ交付セラレタル金額及其利子ニ相當スル金額トシ其利率ハ(市參事會)之ヲ定ム
- 第六條 納付金ノ財源ハ寄附金ヲ計上スルコトヲ得ス但シ既ニ領收シタルモノハ此限ニアラス
- 第七條 市カ交付金ニ充ツル爲メ借入金ヲ爲シタルトキ之ニ要シタル費用ハ區ノ負擔トス
- 第八條 納付金ヲ納ムル能ハサル爲メ區所有ノ土地建物ヲ市ニ換納シタルトキ既ニ領收シタル納付金ハ區ニ還付ス



- 二 市立小學校完成資金交付及納付規程第三條ノ申請ヲ市ニ於テ許可シタルトキハ區長ハ直ニ前項ノ借入ヲ締約シ其金額ヲ市立小學校建設資金經濟ニ受入レ即時區ヘ交付方取計フヘシ(明治四十三年三月二十二日市訓令甲第(十四號)ヲ以テ本項及第三、四項中改正)
- 三 區ノ納付金ハ市立小學校建設資金經濟ニ受入レ之ヲ借入金元金及其利子ニ充テ即時支拂方取計フヘシ
- 四 前二項ノ處分ヲナシタルトキハ金額其他必要ナル事項ヲ具シ即日(市參事會)及市收入役ヘ各別ニ報告スヘシ

●市立小學校建設ノ爲區ニ於テ負ヒタル從前ノ債務銷却ノ場合完成資金交付方取計

還方法

- 一 明治四十三年二月第八號市會議決ニ依ル市立小學校完成資金ハ區ニ於テ小學校建設ノ爲ニ負ヒタル從前ノ債務ヲ銷却スル場合ニ亦之ヲ交付スルコトヲ得
- 二 前項ノ交付金ニ充ツル爲明治四十三年度ニ於テ水道準備金ヨリ元資金貳拾萬圓ヲ限リ繰替借入スルコトヲ得
- 三 前項ノ借入金ハ一箇年百分ノ五ノ利子ヲ付シ明治四十八年度

- マテニ之ヲ償還スルモノトス
- 四 前項ノ償還金及利子ハ區納付金ヲ限度トシ豫算超過ノ支出ヲ爲スコトヲ得

●市立小學校完成資金交付及納付規程適用方

明治四十三年二月十日  
〔市參事會議決〕第四百六十六號  
本年第八號市會議決東京市立小學校建設資金收支整理方法第十項ニ依リ(市參事會)ニ於テ定ムヘキ交付及納付ニ關スル規程ハ明治四十一年一月市訓令甲第一號東京市立小學校完成資金交付及納付規程ヲ適用スルモノトス(大正二年五月十六日市會議決第五十八號)ヲ以テ建設資金收支整理方法改正ノ結果本文中「第十項」トアルハ「第十一」ニシテ「市參事會」トアルハ「市長」ニ改正セラレタルモノト見ルヘシ

●實業補習學校補助規程

- 一 明治三十九年四月九日(各區役所)市訓令甲第十號
- 第一條 本市ハ區ノ負擔ニ係ル市立實業補習學校ニ對シ補助金ヲ交付ス
- 第二條 補助金ハ毎週ノ授業延時數(各教員ノ授業時數ノ合計)十二時以上ノモノニ對シ之ヲ交付シ其月額ヲ拾五圓トス但毎週ノ

授業延時數十二時ヲ増ス毎ニ五圓ヲ加フルコトアルヘシ

補助金ハ一校ニ付月額參拾圓ヲ超エサルモノトス

第三條 補助ヲ受ケヘキ學校ハ豫算明細書並ニ各學級又ハ各科目ノ每週授業時間割表(始業、修業ノ時)ヲ具シ區長ヨリ申請スヘシ但本文ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ遲滞ナク市長ノ承認ヲ受クルヲ要ス

第四條 補助金ハ當該年度ノ九月三月ニ於テ各半年分ヲ交付ス但年度ノ半途ヨリ補助スヘキモノハ月割ヲ以テ計算ス

第五條 補助金ハ休業全月ニ涉ルトキハ其月分ヲ控除ス

第六條 私立實業補習學校ニシテ成績佳良ト認ムヘキモノニ對シテハ設立者ノ出願ニ依リ前各條ニ準シテ補助金ヲ交付スルコトアルヘシ

市立何何學校何月報告表

學級別	事項	授業日數	月末在籍數	入學者數	退學者數	最多出席日及其出席數	最寡出席日及其出席數	日々出席平均數
全	校							
八月中休業日								
				本月中授業始終時刻				

●市立直營高等女學校及實業學校每月報告表提出方

(明治四十五年五月三日市長判決)  
三發第九九(同市立直營高等女學校校長)同第一二號(同市立實業補習學校校長)百九十一號(同市立實業補習學校校長)  
本年四月ヨリ貴校職員及生徒ニ關スル報告書ヲ別紙様式ニ依リ調製シ翌月十日迄ニ提出相成度此段及通牒候也  
別紙様式



(一) 職員

勤務定日數	出勤日數	缺勤日數	受持學科別並 每週受持時數	出勤定日	職名	氏名	備	考
計								

右及報告候也  
年 月 日  
市長 宛

何 何 學校長 氏 名 (印)

一 平均數ハ小數點以下二位ヲ算出シ四捨五入ノ法ニヨリ一位迄ヲ表記スルコト

二 休業日欄ニハ日曜大祭祝日其他休業日ヲ記入スルコト

三 職員勤務定日數及出勤日數ハ事務處理ノ爲メノ出勤ヲモ記入スルコト

四 補缺ノ爲メ特ニ出勤シタル日數ハ前號ノ日數トハ區別シテ同欄ニ記入シメテ附スヘキコト

五 受持學科別並ニ每週受持時數ハ毎年度ノ始ニ一回報告シ翌月ヨリ變更ノ分ノミヲ記入スヘキコト

六 出勤定日ハ例ヘハ毎日又ハ月水金等ト記入スヘキコト

七 備考欄ニハ新任退職等勤務定日數ニ關係アル事項ヲ記入スヘキコト

八 職員中ニハ書記又ハ事務員ヲモ含ムヘキコト

● 學校醫ノ費用補助ニ關スル規程

明治三十九年十月十二日(各區役所) 市訓令甲第三十六號

學校醫ノ費用補助ニ關スル規程左ノ通り定メ本年十月ヨリ施行ス

第一條 本市ハ此規程ニ依リ置キタル專任學校醫ノ手當ニ充ツル費用ヲ補助スル爲メ手當金額ノ二分ノ一ヲ區ニ交付ス但シ其ノ補助額ハ一人一箇年五百圓以內トス

第二條 補助ヲ受ケントスルトキハ區會ノ議決シタル豫算額ヲ具シ區長ヨリ其旨申請スヘシ

第三條 前條ノ豫算額ヲ増減シタルトキハ遲滞ナク本市ニ報告スヘシ

第四條 補助金ハ毎年度實支出額ニ依リ之ヲ交付ス但シ豫算額ニ依リ五月十一月ノ二期ニ於テ各半年分ヲ假ニ交付スルコトアルヘシ

前項但書ノ場合ニ於テ前中期分ニ剩餘アルトキハ後中期分ノ交付額ヨリ之ヲ控除スルモノトス

第五條 假交付ヲ受ケタル場合ニ於テハ年度經過後一箇月以內ニ精算書ヲ本市ニ提出スヘシ其剩餘アリタルトキハ同時ニ之ヲ返還スヘシ

第六條 專任學校醫ハ左ノ定員ニ據ルヘシ但シ定員三名ヲ置ク區ノ外ハ本市ノ承認ヲ經テ一名増員スルコトヲ得(明治三十九年日市訓令甲第四十四號ヲ以テ但書追加)

淺草區ハ三名  
神田、日本橋、京橋、芝、牛込、本郷、下谷、本所、深川ノ九區ハ各二名

麴町、麻布、赤坂、四谷、小石川ノ五區ハ各一名

第七條 專任學校醫ハ其區ニ在ル市直營ノ學校(特殊尋常小學校ヲ除ク)及代用私立小學校ニ於ケル學校醫ノ事務ヲ執ルヘキモノトス(本條中「代用私立小學校」トアルハ明治四十年三月文部省令第六號發令ノ結果消滅)

● 特殊小學校舎一廉金五圓以內ノ小破修繕施行方

明治三十九年六月五日 (市參事會議決) 第二千六百九十七號

市立特殊小學校校舎並附屬建物等ノ硝子窓、戸締、屋根、日除其他小破損ヲ生シ至急修繕ヲ要スル場合ニ於テハ一廉金額五圓ヲ限度トシ隨時直營ヲ以テ修繕施行セントス而シテ之ニ要スル材料ハ便宜當業者ヨリ現品ヲ直ニ購入スルモノトス但右ニ要スル費用ハ特殊小學校費、營繕費、修繕費ヨリ支出スルモノトス

● 特殊小學校基本財産管理並収益使用方

第二篇 類規 第一類 學事 第一節 學校設置及經費 附設資料

● 市直營學校長ニ於テ一廉金參圓以內ノ物品講入方



明治四十四年五月十二日  
〔市參事會議決〕第二千三百四十九號

市直營ノ學校經費中左之費目ヲ以テ購入スル物品又ハ人足ノ雇上ニシテ事項ノ急ヲ要スルモノハ從來一廉金額參圓ヲ限度トシ當該學校長ニ於テ當廳ノ承認ヲ得タル後購入ノ手續ヲ爲サシメタルモ簡便迅速ヲ缺クノ嫌アルヲ以テ自今右ハ學校長ニ於テ購入ノ手續ヲ爲サシメタル後之ヲ承認ノ上支拂ヲナスモノトス

- 一 兒童費
- 一 需用費
- 一 雜費
- 一 人足賃
- 以上

### 市立小學校授業料區長ニ於テ徵收方

明治三十五年十二月二十六日(各區役所)  
市訓令甲第四十二號

市立小學校長ヲシテ授業料徵收ノ事務ヲ取扱ハシムル義ハ然ルヘカラサルニ依リ右等ノ事之アルニ於テハ自今之ヲ廢止シ區長ニ於テ適應ノ方法ヲ設ケ徵收方取計フヘシ

### 市立實業學校授業料徵收方

明治三十九年六月二十六日  
市會議決第百六號

本市立商業補習學校並工業補習學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スルモノトシ當該校長ヲシテ之ヲ領收シ市收入役ニ納付セシムルコトヲ得授業料額ハ〔市參事會〕ノ定ムル所ニ據ル〔本文中市立商業補習十二年五月二十六日文部大臣ノ認可ヲ得テ乙種商業學校程度ト爲シ市立商業夜學校ト改稱シ同四十五年四月六日市告第三十一號ヲ以テ更ニ商業學〕校ト改稱セリ

### 市立第一實科高等女學校授業料徵收方

明治四十四年三月三十日  
市會議決第六十四號

本市立第一實科高等女學校ノ授業料ハ當該學校長ニ於テ之ヲ領收シ市收入役ニ納付セシムルコトヲ得〔明治四十五年三月卅一日市告〕示第二十五號ニ依リ校名改正

### 市立實業補習學校授業料納付期限

明治四十四年五月八日  
助役通牒三發第千四百四十一號

〔市立商業夜學校校長  
同第二工業補習夜學校校長〕

本年度ヨリ貴職ニ於テ徵收シタル其校各月ノ授業料ハ翌月五日迄ニ市收入役ニ無相違納付有之度此段及通牒候也〔市立實業學校中一號ヲ以テ市立商業學校〕ト改稱セリ

### 市立實業學校授業料納付手續

明治四十四年七月三十一日(市直營實宛)  
助役通牒三發第二千八百五十號

其校授業料納付手續自今左記ノ通り御取扱相成度此段及通牒候也〔市立實業學校中〕市立商業夜學校ハ明治四十五年四月六日市告〔示第三十一號ヲ以テ市立商業學校〕市立第一女子技藝學校ハ同年三月三十一日市告示第二十五號ヲ以テ市立第一實科高等女學校ト改稱セリ

- 一 納入ノ際現金ハ直ニ市金庫ニ納メテ金券ニ替ヘ納付書ト共ニ受付ヘ提出スルコト
- 一 各學校ニ於テハ授業料送付簿ヲ備置キ納入ノ際金券並ニ納付書收受ノ印ヲ受ケ置クコト



## 第二節 教科及編制

### ●小學兒童ニ使用セシムヘキ教科用書取締方

明治四十三年一月十一日(各區長宛)  
助役通牒三甲第九十五號

小學校ニ於テ兒童ニ使用セシムヘキ教科用書ハ小學校令施行規則第五十三條ニ依リ國定ノモノノ外ハ凡テ知事ノ採定ヲ經ルヲ要スルヲ以テ民間ニ於テ編纂セシモノハ勿論文部省ニ於テ著作權ヲ有スルモノト雖未タ知事ノ採定ナキモノヲ小學校兒童ニ使用セシムルハ法規ニ違背シ不都合ニ付參考書又ハ其他何等ノ名義ヲ以テスルモ一切之ヲ兒童ニ使用セシメサル様貴區内公私立各小學校ヘ嚴シク御示達相成度其筋ヨリ通牒ノ次第モ有之此段及通牒候也

### ●市立小學校教科目加設

明治四十五年四月三十日  
市告示第四十七號

小學校令第十九條第二項第二十條第二項ニ依リ明治四十五年四月ヨリ本市市立小學校ニ次ノ教科目ヲ加フ

一 尋常小學校

手工

第二篇 類規 第一類 學事 第二節 教科及編制

一 高等小學校

手工、商業

### ●市立小學校體操科教科目ヲ受持教員ニ於テ擔任教授方

明治三十七年四月五日(各區長宛)  
市長通達教甲第二十四號

從來市立小學校體操科ハ本科教員又ハ專科正教員ニ於テ擔任候處自今該教科目ハ漸次各學級受持教員ヲシテ受持タシムルノ方針ヲ取ルヘキ様府知事ヨリ通牒ノ次第モ有之候條其旨各學校長ヘ傳達可相成此段及通達候也(同日同號ヲ以テ本文ノ趣旨特殊小學校長ヘモ通達)

### ●小學校ニ於ケル體操教授ニ關スル注意

明治三十九年七月五日(各區長宛)  
助役通牒教甲第六十四號

小學校ニ於テ體操科ヲ教授スルニ毎回ノ時間ヲ長クシ毎週ノ回数ヲ減少スルモノ有之又屋内體操場ノ設備ヲ缺クカ爲メニ體操ヲ課セスシテ聯絡ナキ談話ヲ爲スニ止マルモノ亦往往有之哉ノ趣ニ候



處右ハ何レモ體操教授ノ旨趣ニ反シ不都合ノ儀ニ候條尋常小學校ニ在リテハ少クモ毎日一回高等小學校ニアリテモ可成教授回数チ多カラシメ且屋内體操場チ缺ク場合ニ在リテハ教室又ハ廊下等ニ於テ相當ノ運動(例ヘハ胸及首、上下肢、肩及背等各部ノ運動)チ行ヒ教授チ缺クコト無之候貴區内公私立小學校ヘ御示達相成度其筋ヨリ通牒ノ次第モ有之候條此段申進候也  
四谷、下谷、本所、深川、淺草區長ヘハ左ノ追書ヲ要ス  
追テ特殊小學校長ヘモ御示達相成度申進候也

第二節 職員 附職制

●教育課處務細則

明治四十三年七月十五日  
市長判決一發第六千五百四十號

第一條 本課ニ左ノ係ヲ置キ事務ヲ分掌ス

視學係、庶務係、經理係、職員係  
視學係ハ視學ヲ以テ之レニ充ツ

專 屬

- 一 文書ノ收受發送ニ關スル事項
- 一 公印ノ保管ニ關スル事項
- 一 學務委員會及學務委員ニ關スル事項

視 學 係

- 一 小學校職員ニ關スル視察調査事項
- (イ) 小學校長、教員ノ勤惰、品行及身分ニ關スル件
- (ロ) 年功加俸ニ關スル件
- (ハ) 選奨ニ關スル件
- (ニ) 普通免許狀ニ關スル件
- (ホ) 無試験檢定ニ關スル件

- 一 教授訓練ニ關スル視察調査事項
- 一 學校ノ設備其他一般ノ狀況ニ關スル視察調査事項
- 一 市立小學校、小學校及幼稚園等ノ視察調査事項

第二篇 類規 第一類 學事 第三節 職員 附職制

校長會ニ關スル事項  
其他視學事務ニ關スル事項

庶 務 係

- 一 本課所管ノ豫算決算ニ關スル事項
- 一 市教育基金ノ管理及其收支ニ關スル事項
- 一 教員講習所ノ管理監督ニ關スル事項
- 一 教員講習所所屬收支ニ關スル事項
- 一 圖書館ノ設置廢止及設備ニ關スル事項
- 一 圖書館ノ管理監督ニ關スル事項
- 一 圖書館所屬收支ニ關スル事項
- 一 講演會ニ關スル事項
- 一 教育會ニ關スル事項
- 一 本課所屬物品取扱ニ關スル事項
- 一 本課所管ノ豫算出納簿整理ニ關スル事項 (明治四十五年四月十日判決ヲ以テ本項) 追加
- 一 事務報告ニ關スル事項
- 一 「夜勤賄(車馬賃)ニ關スル事項 (明治四十四年三月三十一日項中「夜勤賄」トアルハ消滅)
- 一 臨時膳寫淨書及印刷ニ關スル事項
- 一 他係ノ主管ニ屬セサル事項

經 理 係

小學校、特殊夜學校、實業學校、幼稚園等ニ關スル事項



- (イ) 設置、廢止及設備ニ關スル件
- (ロ) 教科及編制ニ關スル件
- (ハ) 兒童、幼兒及生徒ニ關スル件
- (ニ) 授業料及保育料ニ關スル件
- (ホ) 補助ニ關スル件
- (ヘ) 前各號ノ外管理監督ニ關スル件
- 一 學校衛生ニ關スル事項
- 一 學校醫費用補助ニ關スル事項
- 一 學校醫會ニ關スル事項
- 一 區經濟教育費ノ豫算決算及區會議決ニ關スル事項
- 一 區ノ教育上ノ財産ニ關スル事項
- 一 私立學校ニ關スル事項
- 一 官立學校ニ關スル事項
- 一 就學事務ニ關スル事項
- 一 小學校建設資金ニ關スル事項
- 一 市直營學校費ニ關スル事項
- 一 市直營學校收入ニ關スル事項
- 職員 係
- 一 學校、幼稚園職員ノ任免、進退、身分、服務等ニ關スル事項
- 一 師範學校卒業生配置ニ關スル事項
- 一 教員講習所講習員ニ關スル事項

- 一 講習會ニ關スル事項
- 一 年功加俸ニ關スル事項
- 一 選奨ニ關スル事項
- 一 普通免許狀ニ關スル事項
- 一 無試験檢定ニ關スル事項
- 一 學事年報ニ關スル事項
- 一 教員及兒童身體檢査統計表ニ關スル事項
- 一 學事諸調査ニ關スル事項
- 一 本課ニ關係アル法令例規類ノ輯録及保管ニ關スル事項
- 第二條 各係ニ係長ヲ置キ課長之ヲ命ス
- 一 係長ハ課長ノ命ヲ受ケテ係員ヲ指揮シ其所管事務ヲ掌理ス
- 一 係長ハ所管事務ニ就キ擔當主任ヲ定ムヘシ
- 第三條 收受文書ハ課長ノ閱覽ヲ經テ文書主任之レヲ係長ニ配付ス
- 第四條 配付ヲ受ケタル文書ハ其擔當主任ニ於テ速ニ調査スヘシ
- 一 若シ調査シ難キトキハ其事由ヲ係長ニ申出ツヘシ
- 第五條 回議ハ關係各係ノ合議ヲ經ヘシ
- 第六條 回議ノ訂正改竄等ヲナシタル箇所ハ係長之レニ捺印スヘシ
- 一 シ綴合ノ契印亦同シ
- 第七條 告示、訓令、規定、通達及例規トナルヘキ通牒ノ類ハ主管ノ係ニ於テ簽案シ各係長ノ合議ヲ經施行後各係ヘ回覽シ職員係ニ於テ例規輯録ニ分類登錄スヘシ

第八條 完結文書ハ速ニ文書主任ヲ經テ内記課ヘ引繼クヘシ若シ留置ヲ要スルトキハ留置簿ニ件名ヲ記シテ係長ノ承認ヲ受クヘシ

第九條 豫算決算及事務報告ハ左ノ期限内ニ各係ヨリ庶務係ニ回付スヘシ

- 一 翌年度豫算概計書及説明材料 八月三十日限
- 一 前年度決算書及説明材料 六月十日限
- 一 前年中事務報告書 一月十日限

第十條 豫算上ノ事業及事務ハ各係長ニ於テ其種目並著手竣成等ニ關スル豫定表及事務功程表ヲ調製シ左記ノ期限ニ從ヒ課長ニ報告スヘシ

- 一 豫定表 豫算決定後十日以内
- 一 功程表 豫算決定後四箇月毎ニ一回

第十一條 擔當事務ニ就キ當事者ニ面談ヲ要スルトキハ係長ノ指揮ヲ受クヘシ

第十二條 各解廳等ニ送付スヘキ上司ノ指令並辭令書ハ課長ノ閱覽ヲ經テ發送スヘシ

第十三條 市參事會、市學務委員會其他ノ委員會ニ於ケル説明ハ課長又ハ當該係長之レニ當ルモノトス

第十四條 課長ハ或事項ヲ限リ特ニ委員ヲ設ケ又ハ便宜他係ヲシテ之ヲ處理セシムルコトアルヘシ

第十五條 出張ハ各係長ニ於テ出張命令簿ニ記載シ課長ノ決裁ヲ經ヘシ

第十六條 出張者ハ歸廳後速ニ出張命令簿ニ其要領ヲ記載復命スヘシ但別ニ復命書ヲ要スルモノハ三日以内ニ之レヲ作成提出スヘシ

第十七條 視學ノ普通視察ハ豫メ係長ニ於テ毎月分ノ出張豫定表ヲ作成シ課長ノ決裁ヲ經ヘシ

第十八條 前條ノ復命書ハ翌月十日迄ニ其前月分ヲ作成シ之レヲ市長ニ提出スヘシ

第十九條 執務時限外又ハ休日ノ執務ハ各係長ニ於テ執務時限外勤務簿ニ記載シ課長ノ決裁ヲ經ヘシ

第二十條 本細則ニ規定ナキ事項ハ隨時課長ノ指示スル所ニ從フモノトス

### ● 視學職務規程

明治三十八年六月六日  
市長通達教發第百七十三號  
(各區長宛) 尙ホ本文ノ趣旨特殊  
小學校ヘモ通知ス

今般市ニ視學員ヲ置キ職務規程左ノ通り定メ候條了知セラルヘク尙ホ本文ノ趣旨市立小學校長及教員其他關係アル向ヘ了知セシメラルヘク此段及通達候也

- 第一條 視學員ハ市長ノ指揮ヲ承テ學事ノ視察ニ從事ス但必要ニ應シ命ヲ受ケ學事ニ關スル庶務ニ從事スルコトアルヘシ
- 第二條 視學員ノ主トシテ視察スヘキ事項ノ概目左ノ如シ



- 一 小學校長教員ノ勤惰品行
- 二 教授訓練ニ關スル事項
- 三 其他學校一般ノ狀況
- 市立學校 小學校及幼稚園ノ視察ニ關シテハ前項ヲ準用ス
- 第三條 視學員ハ特ニ命ヲ受ケテ區長ノ執行スル教育事務ニ關シ  
視察ス區ノ學務委員處務ノ狀況ヲ視察スルトキ亦同シ
- 第四條 視學員ハ視察ノ狀況並ニ意見ヲ具シテ復命スヘシ
- 第五條 視學員ハ視察ニ際シ左ノ事項ニ就キテハ其意見ヲ陳述シ  
若クハ關係者ニ注意スルコトヲ得
- 一 法令ノ明文及上司ノ訓示ニ牴觸スル事項
- 二 教授訓練ニ關スル事項

### ●學校衛生顧問職務要項

明治三十九年十月十二日  
〔市參事會議決〕第四千五百七十二號

- 學校衛生顧問職務要領左ノ通り定ムルモノトス
- 一 學校醫會ニ出席シ意見ヲ述フルコト
- 二 學校醫執務ノ狀況ヲ視察スルコト
- 三 其他本市學校衛生事項ニ關シ市長ノ諮問ニ應フルコト  
以上

- 十一 春秋二回教員ノ身體検査ヲ爲シ其狀況ヲ市長ニ報告スル  
コト
- 十二 教員候補者ノ身體検査ヲ爲シ検査書ヲ與フルコト
- 十三 學校職員會議ニ出席シ衛生上ノ意見ヲ述フルコト
- 十四 學校建築及校具ノ購入ニ關シ衛生上ノ意見ヲ述フルコト
- 十五 毎月一回以上開會ノ學校醫會ニ出席スルコト
- 十六 學校衛生事項ニ關シ市長及區長ノ諮詢ニ應シテ意見ヲ述  
ヘ又之ニ建議スルコト
- 十七 特ニ必要ニ應シ專門ノ學校醫ヲ置ク場合ニ於テハ其執務  
方ハ本規定ニ準シ市長ノ許可ヲ受ケテ區長之ヲ定ムルモ  
〔明治四十三年九月二十七日市長通達三〕  
ノトス〔發第二千八百三十二號ヲ以テ本項追加〕

### ●特殊夜學校醫執務心得方

明治四十年六月

二十日助役通牒三發〔各持特殊宛〕  
第二千七百九十八號〔小學校長〕

本市立特殊夜學校學校醫執務心得方別紙ノ通り相定メ候條此段及  
通牒候也

#### 特殊夜學校醫執務心得方

特殊夜學校醫ハ明治三十一年二月文部省令第六號學校醫職務規程  
ニ依リ執務スヘキ外特ニ執務上心得ヘキ事項左ノ如シ

- 一 春季一回職員ノ身體検査ヲ行フコト

第二篇 類規 第一類 學事 第三節 職員 附職制

### ●學校醫執務心得方

明治三十九年十月十二日  
市長通達發第三百八十三號〔各區長宛〕

補助ヲ受ケテ置キタル專任學校醫執務上心得方別紙ノ通相定候條  
此段及通達候也

〔別紙〕

- 學校醫ハ學校醫職務規程ニ依リ執務スヘキハ勿論ナルモ特ニ執  
務上心得ヘキ事項左ノ如シ
- 一 毎日所定ノ學校ニ出勤スルコト但在校時間ハ學校ノ始業時  
刻前三十分行修業時刻迄トス
- 二 各教室ヲ巡回シ各兒童ヲ望診スルコト
- 三 出席兒童中疾病ノ疑アルモノヲ診査スルコト
- 四 出席兒童中傷病者アルトキハ應急ノ措置ヲナスコト
- 五 視察ノ要領ハ當日視察簿ニ記入ノ上學校長ニ示スコト
- 六 學校傳染病豫防及消毒方法ノ實施ニ關與スルコト
- 七 學校清潔方法實施ニ關與スルコト
- 八 兒童身體検査ノ結果ヲ前後比較對照シ意見ヲ付シテ學校長  
ニ示スコト
- 九 兒童入學ノ際ハ身體検査ヲ爲シ意見ヲ付シテ學校長ニ示ス  
コト
- 十 學校ニテ催ス兒童保護者會者クハ父兄懇話會等ニ出席シ兒  
童衛生上ノ注意ヲナスコト

- 二 職員候補者ノ身體検査ヲ行フコト
- 三 生徒ノ傳染性疾患ノ取扱ハ本市所定ノ小學校傳染病豫防及  
消毒方法ニ準スルコト

### ●市立女子技藝學校醫ノ職務

#### 下谷區專任學校醫ニ於テ執

#### 行方

明治四十四年五月十二日  
判決三發第六百三十六號

- 市立女子技藝學校學校醫ノ職務ニ關シ次ノ如ク決定シ左案區長ヘ  
通牒スルモノトス〔本規定中「第一女子技藝學校」トアルハ明治  
四十五年三月市告示第二十五號ヲ以テ「第一  
一實科高等女學校」ト改稱セリ〕
- 一 第一女子技藝學校學校醫ノ職務ハ三十九年十二月市訓令甲  
第三十六號學校醫費用補助ニ關スル規程第七條ニ依リ下谷  
區內專任學校醫ヲシテ執ラシムルモノトス
- 二 右ノ學校醫ハ下谷區內專任學校醫中一人ヲシテ專擔セシム  
ルモ二人ヲシテ期間ヲ定メテ交互之ニ當ラシムルモ差支ナ  
シト認ムルカ故ニ區長ヲシテ之ヲ定メシメ報告セシムルモ  
ノトス
- 三 (略ス)
- 四 (略ス)
- (左案略ス)



● 學校醫視察簿樣式

明治四十三年四月二十六日(各區長宛)  
 助役通牒三發第千二百三十五號  
 小學校ニ備付クヘキ學校醫視察簿樣式別紙ノ通り改正相成候條此  
 段及通牒候也(同年同月同文ノ趣旨特  
 殊小學校校長ヘモ通牒)

(別紙)

明治	年	月	日	視察
換氣ノ良否				
採光ノ適否				
机腰掛ノ適否				
前列及最後列ノ机 黑板下ノ距離				
煖爐ノ有無及煖爐 最近兒童下ノ距離				
室内ノ温度				
圖書掛圖黑板ノ 衛生上ノ適否				
室内諸設備ノ 衛生上ノ適否				
廊下階段 降口ノ適否				
便所及手洗器 設備ノ適否				

● 検査標準

明治四十三年二月十八日(各學校醫宛)  
 助役通牒三發第四百十二號

市立小學校教員候補者身體検査標準別紙ノ通り相定ラレ候條此段  
 及通牒候也

追而教員候補者身體検査書ヲ直ニ其候補者ニ交付セララルル向往  
 往有之様聞及候處爾今當該校長ヘ交付相成度若シ他ニ託送セラ  
 ルル節ハ親展書トシテ嚴封相成度此段申添候

東京市教員候補者身體検査標準

- 一 血行器病
  - 心臟辨膜病ノ著シキ者、高度ノ心悸亢進症、心  
 囊ノ疾患、動靜脈瘤、壞血症、紫斑病、白血病  
 及脾臟ノ慢性疾患ヲ有スル者、進行性惡性貧血  
 症等
- 二 呼吸器病
  - 肺結核、咯血ノ反覆スル者、喉頭結核及梅毒、  
 高度ノ喘息症、肺「チストマ」、肺肋膜ノ著大ナ  
 ル慢性疾患、低聲又ハ言語不明ナル者、中等度  
 以上ノ咽吃等
- 三 消化器病
  - 咽頭痛及梅毒、十二指腸虫、食道、胃、腸及腹  
 膜肝臟ノ結核及癌、梅毒、肝臟「チストマ」、慢  
 性直腸脱及著大ノ痔瘻及痔核、齒牙若クハ唇舌  
 及口蓋ニ疾病缺損アリテ著シク言語ヲ妨クル者  
 等

湯呑所ノ適否	
小使室並物置ノ情況	
運動場ノ適否	
舍傍ノ地並芥 穢場ノ情況	
下水ノ適否	
飲料水ノ良否	
在籍兒童數	
缺席兒童數及其情況	
應急手當ノ情況	
傳染病豫防方法並消 毒方法實行ノ情況	
清潔方法實行ノ情況	
兒童ノ姿勢	
職員小使等 ノ健康狀態	
其他衛生上 ノ事項	

● 市立小學校教員候補者身體

- 四 泌尿器及生殖器病
  - 腎臟及膀胱、睪丸ノ痛及梅毒、其他慢  
 性ノ疾患アル者、淋病、下疳、梅毒性ノ疾患ア  
 ル者、子宮ノ卵巢ノ著シキ疾患アル者等
- 五 運動器病
  - 重症慢性痲痺質斯、癱瘓又ハ畸形ニシテ運動ニ  
 妨ケアル者等
- 六 神経系病
  - 癲癇、諸神經麻痺ノ中等度以上ノ症狀ヲ  
 有スル者、失語症、重症ノ脚氣、脊髓及延髓、  
 腦髓ニ慢性疾患アル者、舞蹈病、「アテトーゼ」  
 病、「ハセト」氏病、高度ノ比斯的里及神經衰弱  
 症、比ト昆埜里脊髓癆等
- 七 眼疾患
  - 「トラホーム」及高度ノ膿胞性結膜炎、色盲、斜視  
 又ハ片眼視力ヲ有セサル者、近視、遠視、亂視ニ  
 シテ眼鏡ヲ用キ六分ノ六ノ視力ヲ有セサル者、  
 角膜、虹彩網膜、脈絡膜等ノ疾病ニシテ著シク  
 視力ヲ妨クル者、眼瞼内外翻轉ノ著シキ者等
- 八 耳及鼻ノ疾患
  - 片耳若クハ兩耳ノ聾、中等度以上ノ重聽、  
 高度ノ鼻茸及肥厚性鼻炎、中耳炎及内耳迷路ノ  
 疾患、耳漏ノ臭氣甚シキ者、鼻鼻症、馬鼻疽、  
 ハイモル氏寶猪膿症、耳殼ノ缺損、鼻ノ缺損、結  
 核癩病梅毒ニ因ル耳及鼻ノ疾病等
- 九 皮膚病
  - 火傷等ニ因ル癩痕ノ著シキ醜形アル者、高度ノ



皮膚瘰疽及潰瘍アル者、象皮病、肉腫、癌腫、狼瘡、皮膚結核及梅毒、白癬、黃癬、疥癬、寄生性匍行疹、鬼疔頭癩病放線狀菌病等

十 傳染性病 諸種ノ傳染性疾患ヲ有スル者

十一 全身病 全身發育高度ノ不全ナル者、全身ノ畸形著シキ者、高度ノ肥滿症、筋肉ノ薄弱ノ甚シキ者、骨若クハ軟部ノ悪性腫瘍及潰瘍、骨ノ慢性炎、腐骨疽、進行性筋萎縮、甲状腺ノ過大ナル者、斜頸、脊柱彎曲ノ高度ニシテ運動ニ障害アルモノ及其慢性ノ疾病ヲ有スル者、骨盤ノ著シキ畸形高度ノ腋臭アル者、陰囊水腫、四肢ノ短縮彎曲強直ノ著シキ者、四肢麻痺アルモノ、關節脫臼シ易キ者、指若クハ趾ノ交互ノ癒著、指趾ノ缺損ヲ有スルモノ内臓足若クハ馬蹄足ノ著シキ者、指趾ノ屈曲著シキ者等

●教員候補者内申書ニ身體検査書添付方

明治四十年十一月十三日(各區長宛)  
市長通達教發第四百十六號

市立小學校ニ於テ教員ノ新任若クハ復職ヲ要スルトキ及市外學校ノ現職者又ハ休職者ノ轉任ヲ要スルトキハ學校醫ノ作成シタル別紙書式ニ依レル身體検査書ヲ其ノ内申書ニ添付可相成此段及通達候也(同日同號ヲ以テ本文ノ趣旨助)  
(別紙)

身體検査書

何 某 生 年 月 日

- 一體 格
- 二 身 長
- 三 體 重
- 四 胸 圍
- 五 脊 柱
- 六 四肢運動障害ノ有無
- 七 中心視力
- 八 色 盲
- 九 眼 疾
- 十 聽 力
- 十一 耳 疾
- 十二 鼻 疾
- 十三 呼吸器
- 十四 神 經 系

載スヘシ

●教員候補者内申書ニ添付スヘキ身體検査書記載事項注意

明治四十一年五月二十五日(各區長宛)  
助役通牒教發第三百七十號 (各特殊學校長宛)

客年十一月教發第四一六號通達教員候補者ノ身體検査書ハ往往不備ノモノ有之取扱上支障不尠ニ付記載方注意セシメラレ度尙左記ノ事項ハ必ラス附記セシメラレ度此段及通牒候也

- 一 眼疾、耳疾其他現症ハ其程度及就職從事ノ適否
- 一 近視眼ニ關シテハ眼鏡ノ度数及就職從事ノ適否
- 一 前任地ニ於ケル休職及退職ノ事由カ疾病ナルトキハ其病名ヲ記シ之ニ對照シタル診按ノ狀況及就職從事ノ適否

●教員候補者身體検査ノ結果採用内申ヲ見合セタル場合報告方

- 十五 皮膚
  - 十六 言語
  - 十七 既往現在ノ疾病又ハ畸形
- 右検査候處相違無之候也
- 年 月 日 検査

何區何町何丁目何番地  
何學校醫 氏 名印

(別記)

身體検査書記載方心得

- 一 検査ノ表記及身長、體重、胸圍、聽力等ノ検査方法ハ明治三十三年文部省令第四號學生生徒身體検査規程ニ準スヘシ
- 一 中心視力ハスネルレン氏ノ試視力表ニ依リテ其記載方ハ20,000ト記スヘシ但シ遠視若クハ近視ニアリテハ二十尺ノ距離ニ於テ二十號ヲ明視シ得ル眼鏡ノ度ヲ記スヘシ
- 一 色盲ハ其ノ有無若シ其ノ患アル者ハ何色盲ト記載スヘシ
- 一 呼吸器ハ理學的診斷ノ成績ヲ記載スヘシ
- 一 神經系ハ中樞若ハ末梢神經ニ障害ノ有無ヲ記載スヘシ
- 一 皮膚ハ主トシテ傳染性皮膚病ノ有無ヲ記載スヘシ若シ顔面等ニ現ハレタル皮膚病アルトキハ之ヲモ記載スヘシ
- 一 言語ハ明朗、吃、啞聲等ヲ記載スヘシ
- 一 既往現在ノ疾病又ハ畸形ハ腦病、肺病、肋膜炎、脚氣等ノ舊患、肺病、心臟病、胃腸病等ノ現在及顯著ナル畸形ヲ記



明治四十三年二月九日(各區長宛)  
助役通牒三發第三百四十六號

市立小學校教員候補者中學校醫ノ身體検査ノ結果職務ニ從事シ能ハサル廉アリト認めラレ爲ニ採用方内申ヲ見合ハセラレタル者不  
又甲學校ニ於ケル検査ト乙學校ニ於ケル検査ノ成績ニ顯著ナル  
差異アルコトモ有之哉ニ相聞ヘ候處斯ノ如キハ教員採用上支障ヲ  
生スル虞アルニ付自今身體検査ノ結果採用方内申ヲ見合セタルト  
キハ其族籍氏名生年月日並ニ事由ヲ詳記シ速ニ報告相成度尙ホ本  
文ノ趣旨市立小學校長ニ御示達相成度此段及通牒候也(同日同號  
ヲ以テ本文ノ趣旨各  
特殊小學校ヘモ通牒)

### ●東京府教員免許狀受領前ノ者任用内申見合方

明治四十四年四月十九日助役通牒三  
乙第九百(各區小學校長宛)  
四十九號(各特殊小學校長宛)

從來本府免許狀受領前ノ者ヲ任用内申相成候場合往有之候處本人出願ノ教員無試験檢定不合格ノ爲メ任用證議相成ラサルコトモ有之候ノミナラス取扱上不都合不尠候條自今免許狀受領前ノ者ハ御内申無之様致度旨其筋ヨリ通牒ノ次第モ有之候條此段申進候也

### ●豫後備軍人教員在職中制服著用方

明治三十五年一月十三日(各區長宛)  
助役通牒總甲第四號ノ二

豫備後備將校並在郷下士等ニシテ公私立學校教員ノ職ニ在ル者其職務ニ從事スル際制服ヲ著用スルハ差支無之旨其筋ヨリ通牒有之候條爲御參考此段及通牒候也

### ●師範學校卒業後規定ノ年限内同一學校ニ勤務方

明治三十四年十一月十二日(各區長宛)  
助役通牒總甲第二百八十四號ノ二

明治二十五年七月文部省令第十號師範學校卒業生服務規則第二條ハ師範學校卒業生ヲシテ少クモ規定ノ年限内ハ同一學校ニ勤務セシムル趣旨ニ有之然ルニ近來該年限内ニモ拘ハラズ其甚シキニ於テハ就職後一箇年ヲモ經過セサルニ轉任方内申セラルヘキ尙モ有之右等ハ同省令規定ノ趣旨ニモ反シ教育上不都合尠カラサル儀ニ付自今現任學校ニ冗員ヲ生スルカ若クハ其他特別ノ事情アル場合ノ外ハ轉任ノ儀ハ證議難及旨其筋ヨリ通牒ノ次第モ有之候條爲御心得此段申進候也

### ●市立小學校長服務ニ關スル事項報告方

明治四十一年八月二十二日(各區役所)  
市訓令甲第四十一號

明治四十一年八月告示第六十六號區長委任事項中『第七十二條乃至第七十七條』並出張命令及除服達ノ件ハ學校長ニ關スル分ニ限リ遲滞ナク市長ニ報告スヘシ(明治四十一年八月告示第六十六月四日市告示第九十二號ヲ以テ改正)

### ●市立學校教員看護缺勤願書提出方

明治四十二年九月二十七日  
助役通牒三發第九百二十三號

學校長及教員ニシテ父母看護ノ爲メ缺勤若クハ歸省セントスルトキハ其願書ニ病狀ヲ證シタル醫師ノ診斷書ヲ添付スヘキ儀ト御了知ノ上右教員ハ御示達相成度此段及通牒候也  
追テ急速歸省ヲ要シ診斷書ヲ徵スルコト能ハサル場合ハ先以テ電報又ハ之ヲ證スヘキ書類ヲ添付シ後ニ診斷書ヲ提出相成度此段申進候也

### ●市立小學校教員身體檢查報

#### 告樣式

明治三十六年八月二十七日(各區役所)  
市訓令乙第二百三十號

市立小學校ニ於テ明治三十三年文部省令第四號ニ依リ生徒ノ身體検査ヲ行フトキハ同時ニ左記項目ニ就キ同令第五條ニ準シ教員ノ身體検査ヲ施行シ學校長ニ於テ別紙様式ニ依リ検査書ヲ製シ生徒検査統計表ト同時ニ東京府知事ニ報告スヘキ旨各校長ニ通達方取計フヘシ

記

- 一體格
- 一視力
- 一聽力
- 一疾病

(別紙様式)

何何小學校教員身體検査書

明治	年	月	日	検査	學校醫	氏名
----	---	---	---	----	-----	----







ノ承認ヲ經ヘキ義ト御承知相成度且ツ此旨關係學校長へ週知セシメ置カレ度及通牒候也(實業夜學校中「商業補習夜學校」ハ明治四十五年四月六日市告示第三十一號ヲ以テ「市立商業學校」ト改正セリ)

### ●市立小學校職員ニシテ市立實業夜學校又ハ市立特殊夜學校ノ校長、教員兼務者忌引、賜暇、旅行等ノ場合處理方

明治四十二年五月七日(各區長宛) 助役通牒發第三十三號

市立實業夜學校又ハ市立特殊夜學校ノ校長教員ニシテ市立小學校ヨリ兼務スルモノノ忌引賜暇旅行等ニ關スル事項ハ其本務ニ從屬シ貴職ニ於テ處理シ遲滞ナク市長へ報告セラルヘク此段及通牒候也(實業夜學校中「商業補習夜學校」ハ明治四十五年四月六日市告示第三十一號ヲ以テ「市立商業學校」ト改稱セリ) 追テ本文該當ノ各學校ヘモ其旨御傳示相成度此段申添候也

### ●市立小學校長等教育會ノ囑託ニ依リ地方學事ノ視察ヲ爲サントスル者アル場合出

ヲ見込ミ置クコトニ關シ先般市長ヨリ訓示相成候通り四十年年度ヨリ右實行相成候様致度此段及通牒候也 追テ本文ノ趣旨各市立小學校長へ内示相成候様致度爲念此段申添候也(特殊小學校長へハ便宜通達スルモノトス)

### ●代用教員採用ニ關シ學校長ニ於テ履歷書調査内申方

明治四十四年六月一日(各區長宛) 助役通牒發第九百七十九號

代用教員採用方ニ關シテハ本年一月三發第一六〇號ヲ以テ通達ノ通り處理候處往履歷ヲ僞リ就職セル者有之徒ニ進退事務ヲ繁雜ナラシメ加之教育ノ効果ニ至大ノ惡影響ヲ及ボスヘクト被存候就テハ自今右御内申ノ際ハ校長ニ於テ調査捺印セル履歷書御添付相成度又貴區内各小學校長ニハ其候補者ノ履歷中學歴、職務等ニ關スル事項ニシテ免狀辭令書等苟モ其眞僞ヲ證シ得ヘキ材料アリト認メラルル事項ニ就テハ盡ク精査候様夫夫御傳達相成度此段及通牒候也(同年同月同日同號ヲ以テ本文ノ趣旨特殊小學校長へモ通牒)

### ●小學校教員學級擔任並代用教員採用選擇方

第二篇 規類 第一類 學事 第三節 職員 附屬制

### 張内申方

明治四十一年十月五日(各區長宛) 助役通牒發第六百二十五號

市立小學校長教員幼稚園保母ニシテ教育品展覽會又ハ聯合教育會等開設ノ機會ニ於テ教育會ノ囑託等ニ依リ其ノ地方ノ學事視察ヲ爲サントスル者ニ對シテハ詮議ノ上出張ヲ命セラルヘキニ付左記事項ヲ具シ其旨内申セラルヘク此段及通牒候也 追テ歸任後十日以内ニ報告書ヲ提出セシメラルヘキ義ニ候條爲念申添候也

記

- 一 目的地(府郡市名)
- 一 出張ノ主要ナル目的及視察スヘキ事項
- 一 出發及歸任ノ年月日
- 一 區ヨリ旅費ノ給否(市ヨリハ旅費ヲ支給セス)

### ●女教員妊娠中ノ者病氣缺勤トシテ取扱方

明治四十年三月二十七日(各區長宛) 助役通牒發第八十號

市立小學校女教員ノ妊娠中ノモノハ分娩期ノ前後ニ執務シ得サル事情アルヘキニヨリ其前後ヲ通シテ三箇月以内病氣缺席トシテ扱ヒ休養セシメ其間定員外代用教員ヲ採用シ得ル様俸給豫算ニ餘裕

明治四十三年十一月四日(各區長宛) 助役通牒發第三百二十一號(各特殊小學校長宛) 小學校教員ノ學級擔任方並ニ代用教員ノ人物選擇方等ノ件ニ關シ其筋ヨリ左記ノ通り通牒有之候條貴區内各小學校長へ夫夫御示達相成度此段及通牒候也(特殊小學校長へハ貴區内各小學校長へ夫夫御示達相成度此段及通牒候也) 追テ本文該當ノ各學校ヘモ其旨御傳示相成度此段申添候也

記

(明治四十三年十月二十七日東京府内務部長) 通牒發學甲第五千二百四十八號ノ二市長宛

小學校ニ於ケル准教員及代用教員ハ本科正教員ノ職務ヲ助ケヘキモノニシテ單獨ニ兒童ノ教育ヲ擔任スヘキモノニアラサルハ勿論ノ義ニ有之候處近時數學級ニ對シテ正教員ト准教員又ハ代用教員ヲ配置スル場合ニ在リテモ往往獨立シテ一學級ヲ擔任セシムル向有之哉ニ相聞エ教員上遺憾不尠候ニ付准教員及代用教員ハ自今必ス本科正教員ヲシテ指導セシムル様特ニ御注意相成度又代用教員ノ人選方ニ就テハ從來相當御注意相成居候儀ト被存候得共此際一層其人選方ニ留意シ志操堅實ニシテ品行方正ナル者ヲ選擇セラレ將又學校長首席訓導等ハ學級ヲ擔任スヘキモノナルニ實際授業ヲ爲サス又專科正教員ヲシテ學級ヲ擔任セシムル向有之哉ニ相聞エ候處自今學校長首席訓導ハ必實際授業ヲナシ專科正教員ニハ學級ヲ擔任セシメサル様各小學校長へ御指示相成度其筋ヨリ通牒ノ次第モ有之依命此段及通牒候也







自何年何月 至何年何月	〔前諸項ニ記載シ難キ事項ハ此部ニ記載スヘシ〕
何々々	、、、
以上	

### ● 小學校教員住宅建設費補助

#### 金交付期

明治四十二年六月三日 (各區長宛)  
助役通牒教甲第九十八號

小學校教員住宅費補助實施規程ニ依リ教員住宅建設費ノ補助ヲ受ケタルトキハ該補助金ノ半額ハ起工ノ際他ノ半額ハ竣工ノ際ニ交付スル旨其筋ヨリ通牒有之候條御了知相成度此段及通牒候也

### ● 特殊小學校校長住宅

#### 貸付規程

明治三十七年三月八日 (市參事會議決) 第五百七十七號  
第一條 特殊小學校校長住宅ハ校長在職中ニ限り貸付クルモノトス

第二條 借宅者ハ住宅ノ内外ヲ清潔ニシ夜間ハ一回以上校舍ノ内外ヲ巡視スヘシ

- 一 住宅料ハ代用教員ニモ給與ス
- 一 住宅料ハ就職ノ翌月ヨリ給與ス但其日附ニ據リ斟酌チナスコトアルヘシ
- 一 住宅料ハ退職休職轉任等ノ場合ニハ全月分ヲ給與ス但其日附ニ據リ斟酌チナスコトアルヘシ
- 一 住宅料ハ俸給支拂日ニ支給ス

### ● 市立小學校教員加俸令ニ該當スル者取調内申時期

明治四十二年十月二十一日助各區長、各宛  
役通牒三發第千八百八十八號 特殊小學校長

市立小學校教員加俸給與上申ニ關シ必要ニ付毎年一回加俸令第三條第一項又ハ第二項但書ノ年數ニ達シ(其成績ノ如何ヲ問ハス)未タ相當加俸ヲ受ケサル者ヲ調査シ四月末日限リ左ノ調書ヲ具シ内申相成度此段及通牒候也

- 一 調書ハ本年十月府令第四十九號市町村立小學校教員加俸ニ關スル細則第七條ノ規定ニ準シ作製シ加俸令第三條第一項ニ依ルモノト同第二項但書ニ依ルモノトハ各別紙トスルコト
- 二 勤續年數ハ五月迄ヲ計上スルコト

第二篇 類規 第一類 學事 第三節 職員 附屬制

- 第三條 學校授業時間中ハ必要アル場合ノ外諸商人ヲシテ住宅ニ出入セシムヘカラス
- 第四條 住宅ヲ他人ニ貸付シ又ハ他人ヲ同居セシムルコトヲ得ス
- 第五條 猥リニ住宅ノ模様替チナシ又ハ造作等ヲ施スヘカラス
- 第六條 住宅ニ備ヘ付ケアル物件ハ借宅者自費ヲ以テ之ヲ修理スヘシ
- 第七條 借宅者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ依リテ住宅ニ損害ヲ生シタルトキハ相當ノ賠償ヲナサシムルコトアルヘシ
- 第八條 借宅者轉任退職休職等ヲ命セラレタルトキハ一週間以内ニ住宅ヲ引拂フヘシ

### ● 特殊小學校教員住宅料

#### 支給要項

明治四十二年四月十三日 (市參事會議決) 第六百五十五號  
從來特殊小學校教員ニハ住宅料補助ニ充ツル特別手當トシテ壹人月額金貳圓ノ割合ヲ以テ支給シ來リタル處本年度豫算編制ノ結果ニ基キ本月(四月)ヨリ前述ノ特別手當ニ代フルニ住宅料トシテ壹人月額金五圓ヲ左記要項ニ據リ別ニ辭令ヲ用ヒス毎月支給スルモノトス(明治四十四年四月四日市參事會議決第六百三十四號)ヲ以テ本文中「金參圓」トアリシヲ「金五圓」ニ改ム

- 一 住宅料ハ住宅ヲ給セラルル校長ニハ給與セス

- 三 缺勤日數ハ三月末日迄ノ日數ヲ計算シ事由別(病氣出產其他)ニ内譯掲記スルコト但シ四月分ハ五月十五日迄ニ追申スルコト

### ● 年功加俸受領者休退職ノ際現住所届出方

明治四十四年三月十六日(各區長宛)  
助役通牒三發第千六百四十四號 特殊小學校長

貴區内市立小學校教員ニシテ年功加俸ヲ受ケル者休職退職又ハ其ノ他ノ事由ニヨリ加俸ヲ罷メラレタルトキハ其都度本人ヨリ現住所ヲ知事宛ニテ届出候條御取計相成度其筋ヨリ通牒有之候條此段及移牒候也

### ● 市立小學校教員特別手當

#### 支給方注意

明治三十七年九月三十日(各區長宛)  
助役通牒教發第百八十八號  
市立小學校教員ニシテ一週教授時數三十時ヲ超エサルモ外國語等ノ教授ヲ擔任スルモノニ對シ特別手當ヲ支給スル向モ有之哉ニ聞



及候處石ハ然ルヘカラサル儀ニ付小學校令及同施行規則實施規程  
第二百一十一條ニ據ルノ外特別ノ手當ヲ支給セサル様御注意相成度  
尙本文ノ趣旨各小學校長ニ傳達相成度此段及通牒候也

### 講師兼任ノ視學ニ對シ手當金支給方

明治四十二年四月二十日  
〔市參事會議決〕第七百八十一號  
本市視學ニシテ講習所講師兼任ノモノ教授ニ從事シタルトキハ一  
時間壹圓四拾錢以下ノ手當金ヲ支給スルコトヲ得ルモノトス

### 視學市内出張ノ場合特別手當支給方

明治四十五年二月二十九日  
市長判決三發第七百八號  
市視學專事視察ノ爲市内出張ヲナストキハ特別手當トシテ一日金  
參拾錢ヲ支給スルモノトス但一箇月ヲ通シテ金七圓ヲ超ユルコト  
ヲ得ス  
右手當ハ市役所費特別手當ヨリ支出スルモノトス  
本案決定ノ上ハ本年三月一日ヨリ支給スルモノトス

### 市立幼稚園長及保姆旅費額區別

明治四十一年三月三十一日  
市訓令第四號(各區役所)  
〔明治四十一年三月三十一日東京府令第二十一號第四百十條〕ニ依リ市立幼稚  
園長保姆ノ旅費額ニ付其區別左ノ通り定ム  
一 正教員ノ旅費額ヲ給スヘキモノ  
園長  
二 准教員ノ旅費額ヲ給スヘキモノ  
小學校ノ本科正教員タルヘキ資格ヲ有スル保姆  
小學校ノ本科正教員タルヘキ資格ヲ有セサル保姆

### 第四節 兒童及生徒

#### 兒童入學期日及希望學校等保護者へ通知方

明治三十八年一月十七日(各區長宛)  
市長通達教發第十二號  
〔小學校令及同施行規則實施ニ關スル規程第四十二條〕ニ依リ其年  
四月ニ於テ就學セシムヘキ兒童ノ入學スヘキ期日及學校ヲ定メテ  
保護者ヘ通知スルノ方法ハ從來各區其探テ一ニセス處理上不便少  
カラサルヲ以テ自今左ノ方法ニ依リ取扱ハルヘク此段及通達候也  
一 其年四月ニ於テ就學セシムヘキ兒童ノ保護者ニ對シテハ其  
年一月二十日迄ニ其兒童ヲ入學セシメント希望スル學校ヲ  
申出サシメ成ルヘク希望ノ學校ヘ入學セシムルコト  
二 一月二十日迄ニ保護者ヨリ希望申出アルモノニシテ設備上  
其學校ニ入學セシムルコト能ハサルモノニ對シテハ相當學  
校ヲ指定シテ其旨ヲ保護者ニ通知スルコト  
三 保護者ヨリ前時期間内ニ希望申出ナキトキハ相當學校ヲ指  
定シテ就學セシムヘキ旨ヲ通知スルコト  
四 指定後他ヨリ轉來ノ學齡兒童ニ對シテモ成ルヘク保護者ノ  
希望スル學校ヘ入學セシムコト

#### 學齡未滿兒入學禁止取締方

明治三十二年十月三十一日(各區役所)  
市訓令甲第四十二號  
學齡未滿兒ヲ小學校ニ就學セシムルハ兒童身神ノ發育上其害鈔カ  
ラサルノミナラス學校管理上ニ於テ不都合ナルニ依リ之ヲ嚴禁ス  
ヘキ旨豫テ夫夫令達セララルル處アリト雖モ往往之ヲ就學セシムル  
モノナキヲ保セサルニ依リ右取締方法トシテ自今各小學校ニ於テ  
ハ學齡兒童就學届書又ハ入學届書等ニ其兒童ノ學齡ニ達シタル事  
實ヲ認ムヘキ區長ノ證明ヲ得タルモノニアラサルハ一切入學セシ  
メサルコトトシ一層深ク注意スヘキ旨各小學校ニ通達スヘシ

#### 兒童就學上冗費等ナカラシムル様注意方 (其一)

明治三十六年二月二十七日(各區長宛)  
市長通達總甲第四十三號  
市内學齡兒童ヲシテ普ネク就學セシメンニハ各小學校長ニ於テ先  
以左記條項ニ依リ平素兒童及其保護者ニ對シ充分ノ注意ヲ與ヘ就  
學上冗費ナカラシムル様深ク留意スヘキ旨府知事ヨリ通達ノ次第  
モ有之候條市立小學校長及代用私立小學校長ヘ通達方取計ハルヘ  
ク此段及傳達候也(本文中「代用私立小學校」トアルハ明治四  
十年三月文部省令第六號發令ノ結果消滅)



- 一 衣服ハ質素ヲ旨トシ平素相當ノ注意ヲ加フヘキハ勿論儀式運動會等ニ於テモ決シテ衣服ヲ著飾ル等ノコトナカラシムルコト
- 二 算術及綴リ方ノ參考用書其他教育上ニ必要ナラサル圖書ハ學校ニ携帶セシメサルコト
- 三 學用品及其ノ購求費見込額ヲ保護者ニ示シ置クコト
- 四 女兒ノ裝飾品ハ成ルヘク之ヲ用ヒシメサルコト

### ● 兒童就學上兀費等ナカラシムル様注意方 (其二)

明治三十六年十二月十六日 (各區長宛)

市長通達教甲第二十七號二

市町村立尋常小學校ハ國民ノ義務教育ヲ施ス所ナレハ成ルヘク手數ヲ簡ニシ費用ヲ輕減シ保護者ヲシテ容易ニ其ノ兒童ヲ就學シ得セシムヘキ道ヲ講スルハ學校長タルモノノ常ニ怠ルヘカラサル所ナリ然ルニ從來東京市立小學校ニ於テハ往往資產乏シカラサル一部ノ兒童ヲ標準トスル嫌アルモノ有之依テ本年二月特ニ通達ノ次第モ有之ニ拘ハラシ今尙兒童ヲシテ一定ノ徽章アル帽子ヲ冠ラシメ又ハ著袴穿靴ヲ強フルモノアル趣右ハ就學ノ普及ヲ阻礙スルモノニシテ最モ不可然儀ニ付自今右等ノ儀斷シテ無之樣深ク注意スヘク且ツ左記事項ノ如キモ亦注意スヘキ旨東京府知事ヨリ通達有

之候條各市立小學校長及代用私立尋常小學校長ニ示達方取計ハルヘク此段及傳達候也(本文中「代用私立小學校」トアルハ明治四十年三月文部省令第六號發令ノ結果消滅)

記

- 一 入學ノ際兒童保護者ヨリ入學證ヲ差出サシムル等ノコトナカラシムルコト
- 一 私立小學校ヨリ轉學シ來ルモノヲ疎外スル等ノコトナカラシムルコト
- 一 教授用品履物等ノ一定ヲ強フルコトナカラシムルコト
- 一 辨當ノ携帶ハ之ヲ任意ナラシメ決シテ之ヲ強ヒサルコト
- 一 習字用罫紙、筆入、羽箒等必シモ入用ナラサルモノハ成ルヘク購入セシメルコト
- 一 通告簿ヲ用フル場合ニモ之ヲ購入セシメシテ學校ヨリ交付スルコト
- 一 校長及教員等ニ於テ兒童保護者ヨリ寄附金等ヲ募集シ若ハ領取セサルコト

### ● 兒童保護者會父兄懇話會等ニ對スル教員心得方

明治四十四年七月三日 (各區長宛)

市長通達三發第二千五百八號

學校ト保護者トノ關係ヲ親密ナラシメ相互協力シテ兒童教育ノ効

果ヲ擧クルニ努ムルハ固ヨリ緊要ノ事項ニ屬スルモ近時其方法トシテ組織セラレタル保護者會或ハ父兄懇話會ニ於テ兒童又ハ學校職員ヲ介シ會費又ハ寄附ヲ要請受領スルノミナラス學校長ハ同會ニ對シ備品其他ノ寄附ヲ促ス等ノ事往往有之爲ニ保護者中迷惑ヲ感スル尙尠ナカラサルヲ聞ク斯ノ如キハ明治二十六年七月府訓令第二十三號並同三十六年二月總甲第四十三號及同年十二月教甲第二十七號通達ノ趣旨ニモ悖リ教育普及ノ妨害タルコト尠ナラサル儀ニ候條自今右様ノ弊害無之樣其區内各市立小學校ヘ篤ト御注意可相成此段及傳達候也

### ● 學生生徒身體檢査方法並標準

明治三十四年四月十日 (各區長宛)

助役通達總甲第六號ノ二  
明治三十三年文部省令第四號學生生徒身體檢査規程第五條第六號及第七號ノ事項ハ別記ノ方法並標準ニ依リ檢査スヘキ旨其筋ヨリ通牒有之候條各小學校ヘ通達相成度此段申進候也

(別記)

- 一 脊柱ニ於ケル左右ノ彎曲ハ背面ヨリ屈曲ハ側面ヨリ檢査スヘシ
- ムヘシ

左彎右彎及後屈ノ名稱ハ胛椎部位凸側ノ方向ニヨリテ定ムヘシ

第二篇 類規

第一類 學事

第四節

兒童及生徒

- 一 體格ニ於ケル強健、中等、薄弱ハ概ネ左ノ標準ニ依ルヘシ
  - 強健ハ發育營養共ニ佳良ニシテ強壯ナル者
  - 中等ハ少クモ發育、營養中等ニシテ持久性ノ疾患ナキ者
  - 薄弱ハ前二項ニ該當セサル者
- 學生生徒ノ中等發育ハ別表ノ如シ(別表略)

### ● 學生生徒身體檢査ノ場合「メートル」式度衡器使用ニ關スル注意

明治四十五年二月七日 (各區長宛)

助役通達三發第二十一號

今般文部省令第一號ヲ以テ學生生徒身體檢査規程中ニ改正チ加ヘラレ候處其第五條第一號ヲ削除シタルハ必スシモ「メートル」式度衡器ノ使用ヲ禁スルノ趣旨ニ無之檢査表ノ表記上貫尺ニ換算スルニ於テハ從來ノ器械ヲ其儘使用スルモ勿論差支ナキ儀ニ有之候條貴區内各學校ヘ右御示達相成度此段及通牒候也

### ● 就學兒童轉學ノ際學籍簿寫轉送方

一八九



明治三十六年二月二十七日(各區長宛及本文ノ趣旨)市長通達總甲第四十一號(特殊小學校長ヘモ通達)小學校兒童ノ轉學ニ際シ其ノ學籍簿寫ヲ轉送スルハ相互ノ便利ナ

- 一 府立兩師範學校附屬小學校(高等科兒童トモ)
一 市町村立小學校(高等科兒童トモ)
一 市町村立代用私立尋常小學校

就學通知學齡其他帳簿教員勤務日數表樣式及一覽表調製時期

明治三十五年十二月一日(各區長宛)助役通牒總甲第三百二十四號ノ二(各區長宛)左記事項ノ樣式並編製記入方等從來區區ニ相成居候處右ハ大凡別紙ノ通ニテ可然其筋ヨリ申越候次第モ有之候條此段及通牒候也

追テ學齡簿學籍簿及出席簿ノ件中學齡簿學籍簿ノ用紙一人一葉ヲ用ユルト云ヘル項ハ明治三十六年度ヨリ實施シ可然又學齡兒童就學通知等ニ關スル件ハ已ニ其ノ樣式ヲ一定セサルモノ若クハ直接毎戸ニ就キ勸誘スル等是ト同様ノ效果ヲ收メ得ヘキ方法ヲ取レルモノニ在テハ從來ノ慣行通ニテ可然尙ホ出勤日數表ノ件ハ已ニ其樣式ヲ一定セルモノハ從來ノ通ニテ可然併テ通牒有之候條此段申添候也

- 一 學齡兒童就學通知等ニ關スル件
一 學齡簿學籍簿及出席簿ノ件
一 教員出勤日數表ノ件
一 小學校一覽表調製時期ノ件

學齡兒童就學通知等ニ關スル樣式

Table with columns for child name, residence, birth date, school, and guardian information.

此欄ニハ市(東京市)町村長ニ於テ保護者ヨリ丙號ノ領知書ヲ受取リタル力又ハ乙號但書事項ノ申立ヲ聽キタル等ノ場合ニ其概要ヲ記入ス

右明治 年 月 日兒童保護者ニ通知ス 何市(東京市、區)役所町村役場

就學通知書 學齡兒童 氏 名 明治 年 月 日生

右本年四月 日何何小學校ヘ入學セシメラルヘシ御領知ノ上ハ別紙丙號領知書ニ記名調印ノ上來ル二月十日マテニ差出サルヘシ但シ左記ノ場合ニ於テハ來ル二月十日マテニ市(東京市)町村長ニ申立テラルヘシ

明治 年 月 日 市(東京市)町村長 氏 名 住所 保護者氏 名 殿 一本市(東京市)町村内ニ於ケル指定以外ノ市町村立小學校若

ハ代用私立小學校ニ入學セシメントスルトキ 一本市(東京市)町村外ノ市町村ハ一小學校若ハ代用私立小學校ニ入學セシメントスルトキ此場合ニハ其ノ市(東京市)町村長ノ承認書ヲ添フルコト 一官立府立學校ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修メシメントスルトキ此場合ニハ其ノ學校長ノ承認書ヲ添フルコト 一家庭又ハ私立小學校ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修メシメントスルトキ 一保護者貧窮ノ爲メ其ノ兒童ヲ就學セシムルコト能ハサルトキ 一病弱又ハ發育不完全ノ爲メ就學セシムルコト能ハサルトキ 此場合ニハ醫師ノ證明書ヲ添フルコト 一瘋癲白痴又ハ不具癱疾ノ爲メ就學セシムルコト能ハサルトキ此場合ニハ醫師ノ證明書ヲ添フルコト

領知書 兒童 氏 名 明治 年 月 日生 右來ル四月 日御指定ノ小學校ヘ入學セシムヘク候也 明治 年 月 日 住所 保護者氏 名 印 何市(東京市)町村長氏名殿



備考

- 一 甲號ハ學齡兒童就學調査書ニシテ兼テ其兒童ヲ入學セシムヘキ學校長ヘノ通知書並學校長ヨリ入學ノ期日等ヲ市(東京市ハ區)町村長ヘノ報告書トモナルヘキモノナリ故ニ市(東京市ハ區)町村長ニ於テ末欄上部ニ記入濟ノ上三月二十日マテニ同一學校ノ分チ一綴トナシ之ヲ當該學校長ニ送達シ學校長ハ其入學シタル者ハ之ニ入學月日ヲ記入シ且ツ之ニ依リテ學籍簿ヲ編製シ然ル後之ヲ市(東京市ハ區)町村長ニ返送スヘキモノトス
- 一 乙號ハ市(東京市ハ區)町村長ヨリ兒童ヲ入學セシムヘキコトヲ保護者ニ通知スル様式ニシテ丙號ハ右通知ヲ保護者ニ於テ領知シタルコトヲ市(東京市ハ區)町村長ニ申出ツヘキ様式ナリ故ニ市(東京市ハ區)町村長ニ於テ兒童ノ氏名其他ヲ記入ノ上乙、丙兩號ハ甲號ト切斷シテ之ヲ保護者ニ送達シ保護者ニ於テ乙號通知通入學セシメントスル場合ニハ丙號自己氏名ノ下ニ調印シ且月日ヲ記入シ乙號ト切斷シテ之ヲ市(東京市ハ區)町村長ニ差出スヘキモノトス
- 一 學齡兒童就學通知方等ニ關スル手續
  - 一 管理者ハ學齡簿ニ依リテ其ノ年四月ニ於テ就學ノ始期ニ達スヘキ兒童及從來ノ就學猶豫兒童ノ氏名其ノ他ヲ學齡兒童就學等ニ關スル用紙ノ各號ニ記入シ一月三十日マテニ乙丙ノ兩號ヲ兒童保護者ニ送達スルコト但シ保護者ト同住セサ

- 一 ル兒童ニ在テハ其ノ委託者ニ送達スルモ妨ケナシ
- 一 保護者ヨリ丙號領知書ヲ差出シタルトキ又ハ乙號但書ノ事項ヲ申立テタルトキハ管理者ハ甲號上部ノ空欄内ニ「領知」「疾病猶豫」「貧窮猶豫」「免除」指定以外ノ何何學校ニ入學」等ノ如ク其ノ要領ヲ記入スルコト
- 一 前項中保護者領知ノ旨記入シタル甲號用紙ヲ取纏メ之ヲ各學校ニ區別シテ一綴トナシ三月二十日マテニ當該學校長ニ送致スルコト
- 一 學校長ハ指定期日ヨリ一週日以内ニ入學セシ者ノ入學シタル月日ヲ右甲號用紙ノ相當欄ニ記入シ且ツ之ニ依リテ學籍簿ヲ編製スルコト
- 一 一週日以内ニ入學セサル者ハ學校長ニ於テ「一週日以内ニ入學セス」ト甲號用紙下部空欄ニ記入シ直ニ管理者ニ回送スルコト
- 一 管理者ハ前項回送ニ接シタルトキハ直ニ其保護者ニ對シテ就學ヲ督促シ保護者ニ於テ之ヲ承諾シタルトキハ復タ甲號用紙上部空欄中ニ何月何日ヨリ入學承諾ト記入シ再ヒ學校長ニ送付スルコト
- 一 前項送付ノ者ニシテ猶期日通入學セサル場合ニハ學校長ハ甲號用紙下部空欄ニ「期日通入學セス」ト記入シ更ニ管理者ニ回送スルコト
- 一 管理者ハ二回ノ督促ヲ爲スモ猶入學セシメサル者アルトキ

- 一 ハ其旨監督官廳ニ報告スルコト
- 一 學校長ニ於テ學籍簿ノ編製ヲ了シタルトキハ遲滞ナク甲號用紙ヲ纏メテ之ヲ管理者ニ返送スルコト
- 一 管理者ハ前項返送ノ甲號用紙ニ依リ學校名及就學年月日ヲ學齡簿ニ記入スルコト
- 一 以上ハ學年ノ始メニ於テ就學スル者ニ關スル手續ノ要領ナリ臨時ニ入學スル者ニ對スル手續モ亦之ニ準ス

- 一 第一 學齡簿
  - 一 學齡簿ハ年度毎ニ分册(總テ某年五月生ヨリ翌年四月生)トナシ猶男女別トナスコト但シ一市(東京市)町村ニ數校アル場合ニハ更ニ之ヲ分册シ又學齡兒童ノ小數ナル町村ニ在テハ年度毎ニ區別シテ之ヲ合册トナスモ妨ナキコト
  - 一 學齡簿用紙ハ一人一葉ノモノヲ用フルコト
  - 一 學齡簿表紙ノ裏面ニ左ノ通り一覽表ヲ掲グルコト

何年度學齡兒童調査表

調 査	學 齡 兒 童		就 學		學 童		不 就 學 兒 童		合 計
	年 月 日	男 女 計	現 在 就 學 兒 童	卒 業 兒 童	就 學 百 分 比	猶 豫 兒 童	免 除 兒 童		
明治 四月三十日調									
	男	女	男	女	男	女	男	女	男
	計	計	計	計	計	計	計	計	計

- 一 空欄ニハ居所不明ノ兒童等ヲ記入スルコト
- 一 氏名欄 兒童ノ氏名ヲ記入スルコト
- 一 住所欄 區町村名、大字名、番地ヲ記入スルコト但シ單身寄留者ニ在テハ番地ノ次ニ「何誰方寄留」ト記入スルコト
- 一 生年月日欄 「明治何年何月日生」ト記入スルコト(明治三十二年九月日總甲第二十六號ノ二ヲ以テ本欄「生年月」トアリシヲ「生年月日」ト改ム)
- 一 學齡ヲ終ル年月欄 「明治何年何月」ト記入ス

- 一 保護者欄
  - 一 氏名 該區町村内ニ現住スル者現住セサル者又ハ戶主非戶主ニ關ラズ父、母又ハ後見人ノ氏名ヲ記入スルコト
  - 一 住所 區町村名、大字名、番地ヲ記入スルコト但シ父母又ハ後見人區町村内ニ現住セサルトキハ其ノ現住ノ道廳府縣郡市町村大字番地ヲ記入シ又其ノ住所兒童ノ住所ト同一ナルトキハ同上ト記入スルモ妨ナキコト
  - 一 職業 各職業ノ種別ヲ記入スルコト







備考

此欄ニハ出張賜暇ノ理由及轉任、新任ノ年月日等ヲ記スルコト

右報告候也

年月日

何郡(市)町(區)何小學校長 氏 名印

何郡(市)長 氏 名殿

小學校一覽表調製時期ノ件

小學校一覽表ニハ毎年四月三十日調査ノ員數ヲ登載スルヲ要ス但シ本文ニ依リ難キ事項ハ其ノ最近調査ニ依ル

### 私立尋常小學校及家庭修學

#### 認可書書式

明治三十六年六月四日(各區役所) 市長通達總甲第百三十七號

貴職ニ於テ自今小學校令第三十六條但書ニ依リ認可ヲ與フル場合ニハ左式ノ認可書ヲ交付シ又區内各私立尋常小學校ニ於テ兒童ノ入學ヲ許可スル場合ニハ保護者ヲシテ右認可書ヲ持參セシメ點檢ノ上其認可ノ年月日ヲ學籍簿ノ備考欄ニ記載シ置カシメラルヘシ尙本學年入學ノ分ハ此際其ノ認可年月日ヲ取調來ル六月三十日限り之ヲ記載セシメラルヘキ旨府知事ヨリ通達ノ次第モ有之候條此段及通達候也

(書式)

何區 何町 何番地

誰男女弟妹等

何

誰

年月日生

右私立何何學校(家庭)ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修ムルコトヲ認可ス

年月日

何何區長

何ノ誰印

### 小學校生徒ノ家ニ傳染病患者發生ノ場合昇校禁止方

明治三十二年九月十六日(各區役所) 市訓令甲第三十四號

學校傳染病豫防及消毒方法ハ明治三十一年九月文部省令第二十號ニ規定セリト雖モ赤痢及虎列刺病ノ如キハ一層嚴密ノ注意ヲ要スヘキモノナルニ依リ小學校生徒ノ家ニ於テ該病患者アリタルトキハ特ニ五日間生徒ノ昇校ヲ禁スル様取計フヘシ

### 小學校生徒喫煙竝煙器夾帶

### 禁止實行方注意

明治三十三年三月十九日(各區役所) 市訓令甲第十三號

小學校生徒喫煙竝煙器夾帶ノ義ハ明治二十七年文部省令第六號ヲ以テ禁止セラレ候處尙今般法律第三十三號ヲ以テ未丁年者喫煙禁止法發布相成來ル四月一日ヨリ實施セラルヘキニ就テハ小學校生徒ニシテ右ノ禁制ニ抵觸スル方如キコトアルニ於テハ甚々不都合ニ付學校ニ於テモ自今一層意ヲ茲ニ用ヒ平素生徒ニ訓戒ヲ意ラサルト共ニ又一方ニ於テハ生徒ノ父兄若クハ保護者ニ注意ヲ加ヘ家庭教育ト相待ツテ此法令ノ精神ヲ貫徹セシムル様厚ク留意スヘキ旨各小學校ニ通達セラルヘシ

### 私立小學校生徒入退學ニ關

#### スル手續方注意

明治三十七年四月五日(各區長宛) 市長通達教甲第二十五號

市内私立小學校ニ於テ從來屢々注意ヲ與ヘタルニモ拘ラス兒童入退學ニ關シ今尙左記事項ノ取扱ヲナスモノ有之哉ノ趣右ハ規程ニ違ヒ不都合ノ次第ニ付自今右等ノ儀無之様各私立小學校設立者ヘ嚴達セラルヘク尙轉學ノ場合ニ於テモ入退學ト同一ノ手續ヲ踏ムヘキ儀ニ候條爲念夫各公私立小學校校長及設立者ヘ傳達可相成

此段及通達候也

追テ兒童ヲ甲學校ヨリ乙學校ニ轉學セシメンコトヲ區役所ニ申出タル場合ニ兒童カ甲學校ニ於テ修メタル課程若シ相當年齡以上ノモノナルトキハ區役所ニ於テハ一面其注意ヲ付シテ乙學校ニ入學ノ通知ヲナシ一面甲學校ニ就キ詳細ニ其理由ヲ取糺シテ其結果ヲ東京府知事ニ報告シ又乙學校長ニ於テハ右通知ニ係ル兒童ノ心身ノ發育甲學校ニ於テ修メタル課程ヲ繼承教授シ得ヘシト認メタルトキハ其學年ニ編入シ否ラサル場合ニハ保護者ニ注意シテ年齡相當ノ學年ニ編入シ且何レニ決定スルモ其旨區役所ニ通知スルト同時ニ學籍簿ニ記入シ置カシメラルヘク尙他府縣ヨリ轉籍ノ者ニシテ右ニ該當スルモノアル場合ハ從前入學ノ學校ニ就キ理由ヲ取糺スノ手續ヲ省ク外總テ之ニ準シテ取扱ハルヘク此段申添候

記

- 一 兒童ノ入學轉學及退學ハ都テ區長ノ通知ニ基クヘキ筈ナルニ右通知ニ依ラスシテ入學轉學者クハ退學セシムルモノアルコト
- 一 學齡未滿ノ幼兒ヲ入學セシムルモノアルコト
- 一 代用ニアラサル私立小學校ニ在テ區長ノ認可ヲ受ケサル學齡兒童ヲ入學セシムルモノアルコト



### 他區ノ學齡兒童就學承認方

明治四十一年一月二十三日(各區役所) 市訓令第一號

他區ノ學齡兒童ニシテ其區市立尋常小學校ニ就學セントスル者アルトキハ當該小學校編制上差支ナキ限リ之ニ承認ヲ與フヘシ其高等小學校ニ入學セントスル者ニ對シテモ亦同様取計フヘシ

### 小學兒童ノ出席ヲ停止シ又ハ解除シタル場合報告方

明治四十年五月二十日(各區長宛) 助役通牒發第百七十九號

小學校令第三十八條ニ依リ兒童ノ出席ヲ停止シタルトキハ左ノ事項ヲ具シ即日市長ヘ報告候様各市立小學校長ヘ通知相成度此段及通牒候也(同年同月同號ヲ以テ特殊小學校長ヘハ報告候様) (以下ヲ報告セラルヘク)ト改メ本文ノ趣旨通牒

- 一 兒童ノ氏名並學年
- 二 事由(病氣ナルトキハ學校醫ノ意見書添付ヲ要ス)
- 三 期間(期間ヲ定メサルモノハ之ヲ除ケ)

### 市立學校學生生徒ノ風紀振肅ニ關スル注意

明治四十年七月二十二日(各區長宛) 助役通牒發第百九十五號

學生生徒ノ風紀振肅ニ就テハ客年六月文部省訓令第一號ノ次第モ有之候處教員又ハ生徒ニシテ男女打混シ舞踏又ハ活人畫等青年ヲ誤リ易キ舉動ヲ爲スカ如キコト有之候テハ教育上弊害ヲ生スルノ虞尠カラスト被認候ニ付學校ノ内外ヲ問ハス右様ノ行爲無之様一層注意スヘキ旨ヲ以テ其筋ヨリ通牒ノ次第モ有之候條各市立學校ヘ御示達相成度此段及通牒候也 追テ市立營學校ヘモ本文ノ趣旨御示達相成度爲念申添候也

### 市立小學校兒童褒賞內規

明治四十四年三月十日(各區長宛) 助役通牒發第百四十九號

今般本市小學校兒童教育獎勵ノ爲メ市立小學校兒童褒賞內規別紙ノ通り被定候ニ付貴區内小學校長ヘ無洩御傳達相成度尙本年ニ限リ第四條中市長ニ申告日限ヲ三月二十日迄ニ延期候條是亦御了承相成度此段及通牒候也 芝、麻布、四谷、小石川、下谷、淺草、本所及ヒ深川ノ八區長ヘハ左ノ追書ヲ附スルモノトス

追テ特殊小學校長ヘモ同様御取計被相成度申添候

#### 市立小學校兒童褒賞內規

第一條 本市ハ本市小學校兒童教育獎勵ノ目的ヲ以テ毎年三月市立尋常小學校及高等小學校卒業兒童ニ對シテ褒賞ヲ行フ

第二條 褒賞スヘキ兒童ハ左ノ各項ニ該當シ本市小學校兒童ノ模範タルヘキモノトス

- 一 操行善良
- 二 學力優秀
- 三 身體強健
- 四 勉勵拔群

第三條 褒賞スヘキ兒童ノ員數ハ三月一日現在ニヨリ各小學校ニ(様式)美濃紙半分大

何々尋常(高等)小學校兒童調查書

學年	學科		國語	算術	日本歷史	地理	理科	圖畫	唱歌	體操	裁縫	手工	商業	英語	合計	平均	缺席日數
	修身	讀方															
第一學年																	
第二學年																	
第三學年																	
第四學年																	

於テ四十人毎ニ一人ヲ選出スヘシ但端數十人以上アルトキハ更ニ一人ヲ選出ス

第四條 市立小學校長ハ第二條乃至第三條ノ規定ニヨリ褒賞スヘキ兒童ヲ選定シ毎年三月十五日迄ニ左ノ事項ヲ調査(別紙様式ニヨル)シ市長ニ申告スヘシ

- 一 操行
- 二 學業成績
- 三 身體ノ狀況
- 四 勉勵ノ狀況

但シ參考トナルヘキ成績物ヲ添付スルコトヲ得



者	保護		氏名	操行	總平均	第六學年	等五學年
	職業	住所					
兒童ノ關係	備考	家庭ノ情況	身體ノ情況	操行			

褒 狀

東京市 小學校卒業生

氏 名

東京市 小學校長

氏 名 印

右薦告ニヨリ之ヲ褒賞ス

明治 年 月 日

東京市長 氏

名 印

尋常(高等)小學校在學中勉勵衆ニ超ヘ學業操行共ニ優秀ニシテ一般兒童ノ模範タルヲ認メ之ヲ推薦ス

### 第五節 管理監督附雜

#### ●市學務委員條例

大正元年十一月十八日 市條例第三號

第一條 學務委員ハ市會議員四人、名譽職參事會員三人市公民中

選舉權ヲ有スル者四人及市立小學校男教員二人ヲ以テ組織ス

第二條 委員長ハ委員中名譽職參事會員ヨリ出ツル者ニ就キ市長

之ヲ選定ス

附 則

第三條 東京市學務委員定員ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

第四條 本條例ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

#### ●區學務委員條例

明治二十四年五月十九日 市條例第一號

第一條 教育事務ノ爲メ本市每區ニ學務委員ヲ置ク

第二條 委員ノ數ハ每區四人以上トシ其員數ハ區會之ヲ定ム

第三條 委員ハ區會議員ト其區居住ノ市公民中選舉權ヲ有スル者

及其所在ノ市立小學校男教員トヲ以テ之ヲ組織シ委員中互選ヲ

以テ一名ヲ委員長トス但委員ハ名譽職トス

第二篇 類規 第一類 學事 第五節 管理監督 附雜

第四條 委員中區會議員ヨリ出ツル者及選舉權ヲ有スル市公民ヨリ出ツル者ハ區會之ヲ選舉シ教員ヨリ出ツルモノハ東京市長之ヲ任免ス但區會議員ノ任ニアル者ハ市公民タルノ資格ヲ以テ委員ニ選舉セララルコトヲ得ス又市公民ヨリ出タル委員ニシテ區會議員トナリタルトキハ委員ノ任ハ消滅スルモノトス(明治六年五月一日市條例第一號ヲ以テ但書追加同三十八年五月六日市條例第一號ヲ以テ東京府知事「東京市長」ト改ム)

第五條 委員中選舉權ヲ有スル市公民ヨリ出ツル者ハ其任期ヲ四年トス但任期滿限ノ後再選セララルコトヲ得(明治二十六年五月一號ヲ以テ本條中改正同四十年三月二十五日文部省令第一號小學校令施行規則百八十四條ニ依リ本條自然消滅)

#### ●區學務委員費用負擔方

明治二十四年五月十九日 市告示第二十二號

小學校令第五十條但書ニ據リ區ノ學務委員ニ於テ國ノ教育事務ヲ執行スルカ爲メニ要スル費用ハ其區ノ負擔トス(本文中第五十條十年三月二十日勅令第五十二號第五十五條參看)

#### ●小學校令施行規則第百八十二條但書ニ區ヲ包含セサル件



明治三十三年八月三十一日(各區長宛)  
市長通達總發第千六百五十五號

本年八月文部省令第十四號小學校令施行規則第百八十二條但書ノ  
東京市トアルハ區ヲ包含セサル義ト心得ラルヘク經伺ノ上右ニ通  
達候也

### 市立商業學校商議員會規程

明治四十四年二月六日  
市長判決三發第百六十四號

- 第一條 本校ニ關スル重要ナル事項ヲ商議スル爲メ商議員若干名ヲ置キ市長之ヲ囑託ス
- 第二條 商議員ノ囑託期限ハ三年トス但期滿ツルノ後更ニ囑託スルコトアルヘシ
- 第三條 商議員會ハ市長ノ召集ニヨリ開會ス
- 第四條 商議員會ハ每會互選ヲ以テ會長ヲ定ム
- 第五條 商議員會ノ商議シタル事項ハ會長ヨリ市長ニ報告スルモノトス

### 市立商業學校ニ於テ商議員會ヲ開催スル場合校長ニ於

### テ取計方

明治四十四年二月二十一日  
助役通牒三乙第四百七號

(市立商業、夜學校長宛)

客年九月申請相成候貴校商議員會開催ノ件貴職ニ委任相成候條御  
承知相成度最其都度市長ノ承認ヲ經ヘク且其費用ハ定額ノ範圍内  
ニ於テ措置セララルヘク此段及通牒候也  
(申請書略ス)

### 市立工業補習夜學校商議員會規程

明治四十五年三月十三日  
市長判決三發第七百四十六號

- 第一條 本校ニ關スル重要ナル事項ヲ商議スル爲メ商議員若干名ヲ置キ市長之ヲ囑託ス、但特殊ノ教科ニ關シテハ別ニ商議員ヲ囑託スルコトアルヘシ
- 第二條 商議員ノ囑託期限ハ三年トス、但期滿ツルノ後更ニ囑託スルコトアルヘシ
- 第三條 商議員會ハ市長ノ召集ニヨリ開會ス
- 第四條 商議員會ハ每回互選ヲ以テ會長ヲ定ム
- 第五條 商議員會ノ商議シタル事項ハ會長ヨリ市長ニ報告スルモノトス

### 市教育研究所評議員規程

大正二年三月十七日  
市訓令甲第十三號

東京市教育研究所評議員規程ヲ左ノ通定メ本年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

市教育研究所評議員規程

- 第一條 教育研究所事業ニ關スル重要事項協議ノ爲メ評議員若干名ヲ置ク
- 第二條 評議員ノ任期ハ二箇年トス
- 第三條 評議員會ハ市長之ヲ召集ス
- 第四條 評議員會會長ハ評議員中ヨリ市長之ヲ囑託ス
- 第五條 評議員會ノ議事細則ハ評議員會之ヲ定ム

### 市立小學校宿直設置

明治三十二年十二月二十七日  
市訓令甲第四十九號(各區役所)

市立小學校ニ宿直ヲ置キ  
御眞影ノ保護重要品及書類保管其他校舍一般ノ保全ヲ期セシメ非常ノ事變アリタル場合ニ於テ應急ノ處置ヲナサシムルコトハ最モ緊要ナリト認ムルニ依リ明治三十三年度ヨリ之ヲ實行スル様取計ハルヘシ但宿直ニ關スル細則ハ學校長ヲシテ之ヲ定メシメ區長ノ許可ヲ受ケシメラルヘシ

### 市立特殊尋常小學校事務掛事務章程

明治四十四年四月二十一日  
〔市參事會議決〕第千九百六十二號

第一條 本市立特殊尋常小學校ニ事務掛ヲ置ク

- 第二條 事務掛ハ上司ノ指揮ヲ承ケ當該學校ノ庶務會計ニ關スル事務ニ従事ス
- 第三條 事務掛ハ左記公簿ヲ保管整理ス
  - 一 物品請求及受領明細簿
  - 一 物品受拂簿
  - 一 備品原簿
  - 一 備品貸出簿
  - 一 通信費支出明細簿
  - 一 電車乘用券支出明細簿
  - 一 臨時給與品始末簿
  - 一 藥品其他明細簿
  - 一 被寄贈物品及金圓明細簿

### 市立特殊小學校公簿制定

明治四十三年三月四日  
市長判決三發第六百五十四號



從來市立特殊小學校ニ於テ使用ノ帳簿(兒童ノ教授訓練ニ關スルモノヲ除ク)ハ大體ニ於テ各校一致スト雖モ事務ノ整理統一上今  
回別冊様式ニ則リ左記名稱ノ公簿ヲ制定シ明治四十三年度ヨリ市  
立特殊小學校公簿トシテ使用セシメ之ニ抵觸スル名稱及様式ノ諸  
帳簿ハ四十二年度限り廢止スルモノトス

尙四十二年度迄使用ノ諸帳簿ニテ新制定ノ公簿ニ繼續シ保存ノ  
必要アルモノハ右公簿ニ從ヒ速ニ改正セシメ置クモノトス

(左記)

- 一 兒童ニ關スル公簿(教授訓練ニ關スルモノヲ除ク)
  - イ 入學及編入者名簿
  - ロ 除籍者名簿
  - ニ 修了者名簿
  - ホ 卒業者名簿
  - ヘ 兒童(又ハ生徒)出席簿
  - ト 兒童(又ハ生徒)住所移動明細簿
  - チ 兒童(又ハ生徒)種痘臺帳
  - リ 兒童(又ハ生徒)身體檢査簿
  - ヌ 疾病兒童(又ハ生徒)診察治療簿
  - ル 兒童(又ハ生徒)月末統計簿
  - ヲ 診察及治療兒童(又ハ生徒)月末統計簿
  - ワ 沐浴兒童(又ハ生徒)月末統計簿
  - カ 家庭訪問簿

- 二 職員ニ關スル公簿
  - イ 職員出勤簿
  - ロ 職員遲參早退簿
  - ハ 職員名簿
- 三 物品會計ニ關スル公簿
  - イ 物品請求及受領明細簿
  - ロ 物品受拂簿
  - ハ 備品原簿
  - ニ 備品貸出簿
  - ホ 通信費支出明細簿
  - ヘ 電車乘用券支出明細簿
  - ト 學級別物品受渡簿
  - チ 臨時給與品始末簿
  - リ 藥品及其他明細簿
  - ヌ 被寄贈物品及金圓明細簿

- 四 其他
  - イ 來訪者名簿
  - ロ 出張簿
  - 以上

(簿式略ス)

### ●學事年報差出方注意

明治四十五年五月二十四日  
助役通牒三第四百四十三號(各區長宛)

學事年報ハ翌年度五月十五日及同九月三十日限り其筋へ進達可致  
儀ニ付其前相當調査期間ヲ見込ミ御差出可相成筈ノ處往往右期限  
經過後數回督促ノ上差出サレ候向有之尙調査方不備誤謬等ノ廉不  
尠爲メ再度往復ニ時日ヲ費シ自然其筋へ進達方延引致シ差支候條  
本年度以降ハ御差出ノ期限ヲ誤ラサル様御注意相成度且調査ノ際  
左記ノ廉廉特ニ御注意相成度此段及通牒候也

左記

- 一 一般ニ關スルモノ
  - 一 用紙ハ整理上可成美濃紙形白紙ヲ用ヒ一表ニシテ二枚以上  
ニ涉ルモノアル時ハ之ニ番號ヲ付スルコト
  - 一 各表ノ初メニハ必ス島郡區名ヲ記入スヘキコト
  - 一 各表ハ報告例ニ定メラレタル様式ヲ變更セサルコト假令ハ  
記載事項ナキ欄ト雖モ決シテ之ヲ省カス(一線)テ引置ク事  
數字ハ總テ墨書シ規定ノ箇所ニ限り朱書シインク等ハ使用  
セサルコト
  - 一 各欄中區別シテ掲止スヘキ計數ハ凡テ外書ニスヘキ事  
計算ヲ正確ニスヘキコト
- 一 甲號二表ニ關スルモノ

- 一 本校合計及分教場合計ハ必ス各別ニ計上スヘキコト
- 一 本校中補習科ノ設ケアルモノハ(補)ノ字ヲ附シ區別シテ掲  
上スヘキ事
- 一 本表中ノ正教員數ハ乙號四表並ニハノ一表ト符合スヘキコ  
ト

甲號五表乃至十七表ニ關スルモノ

- 一 學事統計年度ト學年度トヲ謬ラサル事
- 一 表中記入ノ計數ニシテ取調條項中ノ之ニ關係アル計數トハ  
相互符合スヘキ事假令ハ教員數生徒數等ノ如シ
- 一 學級ノ下學級數ヲ掲上スヘキ處ニ人員數ヲ謬記セサル事
- 一 教員欄ニ兼務者ヲ區別掲上スヘキコト尙外國人ヲ國名別並  
ニ資格別專門學校ニ在リテハ學科別ニ掲上スル事
- 一 生徒中外國人ハ總テ區別掲上スヘキ事但シ本邦人中ニ在リ  
テモ臺灣人琉球人並ニ朝鮮人等ハ特ニ區別掲上スヘキ事
- 一 生徒中專門學校ノ本科豫備生ハ入學當時ノ資格別ニ掲上ス  
ル事
- 一 入學志願者ハ本科ノ部ニ豫科卒業ヨリ進入シタルモノノ數  
ヲ計上セサルコト並ニ第二學年以上ニ係ルモノハ區別掲上  
スル事
- 一 學年生徒數ハ其年度ニ入學シタル生徒數ヨリ退學者ヲ減シ  
タルモノニ等シキカ又ハ近似數ナルヘキ事
- 一 第一學年入學者年齡最大並ニ最少數中規定上實際入學シ得



サルモノト認ムル不足年齢ノ者ヲ掲上セサル事尙入學者數ニ平均年齢ヲ乘シタル計數ハ備考總數ニ概ネ符合スヘキ事  
 卒業者年齢最大最少數中規定上實際卒業シ得サルモノト認ムル不足年齢ノ者ヲ掲上セサル事尙卒業者數ニ平均年齢ヲ乘シタル計數ハ備考總數ニ概ネ符合スヘキ事  
 一 學年成績各學年及第落第者ノ合計ハ三月一日現在生徒ニ等シキカ若クハ之ヨリ少數ナルヘキ事  
 一 最高學年及第者數ノ卒業者數ト符合スヘキ事  
 一 前年度本科卒業者ノ本年度末ノ狀況ノ生徒數合計ハ前年度卒業者數ト符合スヘキ事  
 一 備考欄ニ表中ノ符號ノ說明並ニ記載例中特ニ掲上スヘキ様規定セラレタルモノハ必ス掲上スヘキ事假令ハ專攻科卒業者ノ學科別舊校在學者ニシテ組織變更ノ際本欄ニ編入シタルモノノ學科別並ニ學年別等ノ如シ

始業時刻

四月一日ヨリ九月三十日ニ至ル 午前八時  
 十月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル 午前九時  
 但シ夏季休業前後各々二十日間ハ午前七時乃至八時トシ冬季休業後五十日間ハ尋常小學校ニ在リテハ午前九時乃至十時トシ區長ニ於テ之ヲ定メ市長ニ報告スヘシ

終業時刻

毎日教授時數ノ多少ニ依リ始業時刻後三時乃至七時トス但シ毎日教授時數ハ尋常小學校第三學年以下ニ在リテハ五時以內其他ハ六時以內トシ土曜日ハ通シテ三時トス

市立小學校夏季休業前後授業時數

明治四十年七月十五日(各區長宛) 助役通牒教發第二百五十四號

今般市立小學校長會ニ於テ夏季休業前後教授時間短縮ニ關シ左記ノ通協議決定相成候ニ付右ニ準據候様致度各小學校長へ御通知相成度此段及通牒候也 (左記)

市立小學校 終始時刻

明治四十一年三月二十六日 市告示第二十三號

明治四十一年三月東京府令第二十一號第二十二條ニ基キ市立小學校(市費支辨ニ係ル)毎日ノ教授終始ノ時刻ヲ定ムルコト左ノ如シ(モ)ノヲ除ク

時 期	尋 三 以 上 高 等		尋 二 以 下	
	一週教授時數	一日教授時數	一週教授時數	一日教授時數
至自 七月十日	二三	四(土)三	一八	三
至自 七月二十一日	一八	三	一一	二
至自 九月十一日	一八	三	一一	二
至自 九月二十一日	二三	四(土)三	一八	三

市立小學校ノ校舍及體操場等公開使用方

明治三十八年六月二十四日(各區長宛) 市長通達教發第百六十五號ノ三

市立小學校ノ體操場ヲ學齡兒童ノ爲メニ開放シ及校舍等ヲ公益上使用スル件ニ關シテハ是迄訓令及通達ノ次第モ有之候處自今一層此ノ趣旨ヲ擴メ汎ク公衆體育ノ爲メ體操場ヲ公開シ及公ノ集會ニ校地校舍等ヲ使用セシムルノ機會ヲ多カラシムルコトノ切要ナルヲ認メ本職ニ於テ便宜措置方其筋ノ許可ヲ得候ニ付左ノ例ニ依リ取扱ヒ右趣旨ノ貫徹ヲ期セラルヘク此段及通達候也

- 一 教育會、教育講談會、教育幻燈會、學術講談會、教員講習會、衛生講談會、婦人會、同窓會、教育品展覽會、繪畫展

第二篇 類規 第一類 學事 第五節 管理監督 附錄

覽會等教育、衛生、矯風、學藝ヲ目的トスル集會ノ會場ニ充ツル爲メ使用セシメントスル場合ニ於テハ教育上障害ヲ來スノ虞ナキ様相當ノ取締ノ下ニ貴職ニ於テ取計ハレ使用前其旨報告セラルヘシ(明治四十年九月十六日教發第三百充ツル爲メ使用セシメントスル場合ニ於テハ其舉行事項ノ目錄書等ヲ添ヘ市長ノ指揮ヲ受クヘキ旨通達)前號ニ掲ケタルモノノ外政治又ハ宗教ノ目的ヲ含マス且教育上障害ヲ來スノ虞ナキ公ノ集會ノ會場ニ充ツル爲メ使用セシメントスル場合ニ於テハ其都度本職ノ指揮ヲ受ケラルヘシ

三 夜學校、補習學校ノ類ノ教場等ニ充ツル爲メ使用セシメントスル場合ニ於テハ第一號ヲ準用ス

四 體操場ヲ公開シ公衆ニ使用セシムル場合ニ於テハ貴職ニ於テ取計ハレ校名其他必要ノ事項ヲ具シ報告セラルヘシ但シ



- 左ノ要件ニ照ラシ相當取締セラレシ
- イ 運動及遊戲ハ善良ノ風俗ニ反セサルモノニ限ル
  - ロ 運動及遊戲ニ關スル器具器械ハ適宜使用セシムルコトヲ得
  - ハ 使用時間ハ休業日ハ日出ヨリ日没マテトシ其他ノ日ハ放課後ヨリ日没マテトス但特別ノ取締ノ下ニ此ノ時間外ニ使用セシムルコトヲ得
  - 五 凡テ校舍體操場等ヲ使用セシムルトキノ要件左ノ如シ
    - イ 當該學校ノ授業管理ニ妨ケナキコト
    - ロ 歌舞飲酒ヲ禁スルコト
    - ハ 當該學校ニ於テ定メタル規定ヲ守ラシムルコト
- 以上

### 種痘施行ノ爲市立小學校校舍使用ノ場合報告方

明治三十七年三月十二日(各區長宛)  
 助役通牒教乙第二百九十四號

種痘施行ノ爲市立小學校校舍ノ一部使用方出願スルモノアル場合ニ於テハ授業上差支ナキ限り區長限使用差許シ差支無之候條其旨了知可相成尙右等使用ヲ許シタルトキハ其日時校名報告セラレヘク此段及通達候也

### 教育獎勵金支給方

明治三十五年五月十三日  
 市會議決第二十七號

本市ハ明治三十五年度ヨリ 皇太子殿下御慶事恩賜金其他ヨリ生スル利子ノ内ヲ以テ左ノ方法ニ依リ小學校教育獎勵ノ資ニ充テ東京市教育獎勵基金トシテ特別ニ整理スルモノトス

### 御下賜金保存方法

明治三十三年五月二十五日  
 市會議決第五十七號

御下賜金  
 一金八萬圓

皇太子殿下御慶事ニ付  
 聖上 皇后兩陛下ヨリ思召ヲ以テ本市教育資トシテ下賜セラレタルニ依リ左記ノ方法ヲ以テ永遠ニ之ヲ保存シ深キ御趣旨ヲ貫徹スルヲ期スルモノトス

- 一 御下賜金ハ東京市教育基金トシ永遠保存スルモノトス
- 二 御下賜金ヨリ生スル利子ハ漸次元金ニ組込ミ利殖ヲ爲スモノトス但左ノ場合ニ於テハ之ヲ使用スルコトヲ得
- 一 本市教育事業獎勵ノ資ニ充ツルトキ

### 實際報告方

明治三十八年六月二十六日(各區長宛)  
 市長通達教發第二百十號

自今市立小學校兒童運動會等ヲ舉行セントスル場合ニ於テハ豫メ貴職ヲ經由左記ノ事項ヲ詳記シ學校長ヲシテ報告セシメラルヘク此段及通達候也

- 一 舉行ノ日時、終始時刻並ニ場所
  - 二 舉行ノ方法並ニ費用支辨方法
  - 三 學年別兒童
  - 四 其他舉行上必要ナル事項
  - 五 舉行ノ翌日臨時休業ノ有無
- 以上

### 小學校一定休業日

明治三十四年三月六日(各區役所)  
 市訓令甲第十三號

「明治三十三年十一月東京府令第八十六號小學校令及小學校令施行規則實施ニ關スル規程第二十三條」ニ依リ左記ノ日ヲ以テ毎年一定ノ休業日ト定メ候條其旨各小學校ヘ通達スヘシ

- 一 五月二十八日 皇后陛下御誕辰

### 小學校運動會舉行ニ關スル注意

明治三十七年四月五日(各區長宛)  
 市長通達教甲第二十三號

小學校ニ於ケル運動會ハ自今左記ノ事項ニ注意シ弊害ナカラシムル様各學校長ヘ傳達可相成此段及通達候也(以テ本文ノ趣旨持殊ヘモ通達)

- 一 校外ニ於テ運動會ヲ舉行スル場合ハ雜沓ノ場所及遠隔ノ地ヲ避ケ殊ニ年少兒童ニ在テハ校内若クハ學校附近ニ於テ舉行スルトキノ外之ヲ行ハサルコト
- 一 直接間接ヲ問ハス運動會ノ爲ニ父兄ノ出費ヲ要スルカ如キコトナカラシムヘキコト

### 市立小學校運動會等舉行ノ



- 一 靖國神社祭日
- 一 鎮守神社祭日
- 一 學校記念日

(備考)

明治三十四年三月六日助役通牒總乙第七千二百二十四號五ニ依リ靖國神社祭日中小學校一定休業日ハ勅使參候ノ日鎮守神社祭日ハ例祭當日一日ニ限リ休業スルコトニ定ム(明治四十四日助役通牒三發第九百六十七號ヲ以テ靖國神社祭日中小學校休業日ハ其例祭日即チ五月六日及十一月六日ノ兩日ト決定ノ結果本文中勅使參向ノ日トス)

ルハ自然消滅ニ歸スルモノトス)

### ●小學校運動會ノ翌日休業取

計方

明治三十四年十月三十日(各區長宛)  
市長通達總乙第七千三百三十七號ノ四

本市各小學校ニ於テ運動會舉行ノ翌日臨時休業ニ關スル件本月二十三日總乙第七千三百三十七號ノ三ヲ以テ通達相成候處右ハ實際ノ情況ヲ調査シ臨時休業ヲ必要トスル場合ニハ貴職ニ於テ便宜休業方取計差支無之儀ト決定候條此段更ニ及通牒候也

追テ本文ノ場合ニハ其旨直ニ開申相成度候也

(參照)

本市各小學校ニ於テ運動會舉行ノ翌日ハ生徒ノ缺席スルモス

甚々多ク自然授業上差支ヲ生シ臨時休業ヲ必要トスル儀モ可有之是等ノ場合ニ於テハ右一日限リ便宜本職ニ於テ休業方取計ヒ差支ナキ旨府知事ヨリ通達ノ次第モ有之候條右等ノ場合ニ於テハ其旨申立テラレ度及通達候也(明治三十四年十月二第七千三百三十七號ノ三各區長宛)

### ●市立第一實科高等女學校長

ニ於テ給仕及小使任免取計

方

明治四十五年四月八日  
市長判決三發第千四百七十號

市立第一實科高等女學校給仕及小使ノ任免ハ當該學校長ヲシテ取扱ハシメ其都度報告セシムルモノトス

### ●市立實業夜學校小使任免取

計方

明治三十九年六月十五日  
市長判決發第百三十號

市立實業補習夜學校小使ノ任免ハ當該學校長ヲシテ取扱ハシメ其都度報告セシムルモノトス(市立實業補習夜學校中「商業補習夜學校」ハ明治四十五年四月六日市告示第三十一號ヲ以テ市立商業學校ト改稱セリ)

### ●市立特殊小學校小使任免取

計方

明治三十六年一月二十一日  
市長判決總發第百二十八號

市立特殊夜學校小使ノ任免ハ當該學校長ニ於テ取計ハシムルモノトス

### ●市立特殊夜學校小使任免取

計方

明治四十二年六月十四日  
市長判決三發第七十一號

市立特殊夜學校小使ノ任免ハ當該學校長ヲシテ取扱ハシメ其都度報告セシムルモノトス

### ●小學校校長會ノ議決ニ係ル

#### 教授研究會及教員退散時刻

#### 制限實行方

明治三十七年四月五日  
市長通達教甲第二十二號

(各區長宛)「本文ノ趣旨特殊小學校長ヘモ通達」

今般本市立小學校長會ニ於テ左記ノ條件決議候條自今右ニ據リ夫

夫實行候條區内各市立小學校長ヘ傳達可相成此段及通達候也

記

- 一 市立小學校ニ於テハ毎月一回以上教授研究會ヲ開クコト
- 一 教授ノ準備成績物修正等ノ爲メ教員ノ退散時限ニ制限ヲ付シ其制限ヲ修業後一時間(土曜日ハ此限リニ非ス)トナスコト

### ●市立小學校記念式舉行方

明治四十年七月十六日(各區長宛)  
助役通牒教發第百五十二號

明治三十四年三月市訓令甲第十三號ヲ以テ學校記念日ハ市立小學校ノ休業日ト定メ候處自今當日ハ記念式舉行候條各小學校ヘ通達相成度此段及通牒候也(同日同號ヲ以テ本文ノ趣旨特殊小學校長ヘモ通達)

追テ記念式舉行ニ關シ別紙參考ノ爲メ御通知相成度候也

學校記念日舉行式ニ關スル參考書

- 一 記念式ニハ學校ニ關シ特ニ盡力セシ者ヲ招待スルコト
- 二 當日ハ兒童ヲシテ最モ愉快ヲ感セシムヘキ方法ヲ執ルコト
- 其例左ノ如シ
  - イ 運動(體操、遊戯、綱引、角力、旗行列等)
  - ロ 兒童ノ談話、唱歌、朗讀、理化學ノ實驗等ヲ爲サシムルコト
  - ハ 兒童ヲシテ飾物ヲ爲サシムルコト



- ニ 記念帖ヲ作ラシムルコト
- ホ 記念樹ヲ植エシムルコト
- ヘ 記念品ヲ與フルコト(菓子類及繪畫等)
- 三 其校出身者中特ニ模範タルヘキモノアルトキハ之ヲ在校兒童ニ紹介スルコト

**●陸海軍記念日當日市直營學校ニ於テ戰役ニ關スル講話演行方**

明治四十三年四月二十八日(市直營學校長宛)  
 助役通牒三甲第百三號

毎年三月十日陸軍記念日及五月二十七日海軍記念日ハ獨リ陸海軍ノ記念日タルニ止マラス一般國民ノ記念スヘキ日ナレハ當日學校ニ於テハ全校生徒ニ戰役ニ關スル講話ヲ聽聞セシメ以テ義勇奉公ノ精神ヲ鼓舞シ忠君愛國ノ志操ヲ涵養スル様致度其筋ヨリ通牒ノ次第モ有之此段及通牒候也

追テ右講話當日ハ全ク授業ヲ休止スルカ如キコト無之様其筋ヨリ通牒有之候ニ付申添候也

**●師範學校第一種入學志願者區役所經由願書差出方**

明治三十九年十二月十四日  
 市告示第七十四號

東京府師範學校東京府女子師範學校生徒募集ニ關スル細則ニ依リ本職ノ薦學ヲ乞ハントスル第一種志願者ハ當該區役所ヲ經由シテ出願スヘシ

**●中學校高等女學校等火災報告方注意**

明治四十一年一月十日  
 助役通牒教甲第百六十九號  
 (各區長宛)

中學校、高等女學校、實業學校等ノ火災ニ付報告ノ際ハ當該學校ニ於ケル豫防、消防及生徒避難ニ關スル規定實行ノ情況及之ニ關スル意見等ヲ具シ可成詳細ニ報告スヘキ旨其筋ヨリ通牒ノ次第モ有之候條貴區内各學校ヘモ夫夫御示達相成度此段及通牒候也

**●市立實業學校ニ屬スル調査事項報告方立様式**

明治四十四年十月十一日  
 助役通牒三甲第(市立)商業學校校長宛  
 二百七十二號(市立第一實科高等女學校校長宛)

調査上ノ必要有之別紙様式ニヨリ貴校ニ關スル件毎年十月末日限

**●學校清潔方法施行ニ關スル注意**

明治三十九年七月十四日(各區長宛)  
 助役通牒教甲第七十號

學校ノ清潔方法施行ニ關シ別紙寫之通其筋ヨリ通牒有之候ニ付テハ夫夫可然御取計相成度此段及通牒候也

四谷、淺草、下谷、本所、深川ノ各區長ニハ左ノ追書ヲ要ス追テ特殊小學校長ヘモ御示達相成度候也

(別紙)

官普第七十四號(明治三十九年七月二日付文部次官心得文)  
 部省專門學務局長通牒東京府知事宛

學校ノ清潔方法施行ニ關シテハ明治三十年一月文部省訓令ノ次第モ有之候處右日常施行ノ實況ニ於テハ校舍内牀板及階段ヲ潤ホサス又濕布ヲモ使用セスシテ掃除ヲ行フ向尠ナカラサルヤノ趣斯クテハ常ニ塵埃飛散甚シクシテ爲メニ「トラホーム」皮膚病肺結核等蔓延ノ素因ヲ醸成スル虞有之ト被認候條自今訓令ノ趣旨貫徹候様嚴重勸行方御取計相成度此段及通牒候也

追テ學校生徒ニシテ本文ノ掃除ニ從事セシムルニ當リテハ體格年齡等ニ依リ斟酌ヲ加フヘキハ勿論ノ議ニ有之候條身體薄弱ノ者又ハ十歳未滿ノ兒童ニ就キテハ特ニ御注意相成度此段申添候也

リ報告可有之旨其筋ヨリ通牒有之候條取調ノ上報告相成度(正副二通ヲ要ス)此段及傳達候也

備考 右二校豫算ニ關スル調査ハ本市教育課ニ於テ調査報告スヘキヲ以テ當該校長ヨリ其調査ヲ徵セサルモノトス

(様式)  
 甲 號

學校名稱生徒調		區分		現在數	平均年齡	學級數	本學年入學志願者	本學年入學者	前學年入學者	中途退學者	前學年卒業者	本學年卒業者
高等小學校卒業者												
同三學年卒業者												
同二學年卒業者												

明治何年十月一日調



前	前年學途退學者							年入學生徒								
	私立諸學校ニ入學ノ者	其他ノ官公立學校ニ入學ノ者	高等學校ニ入學ノ者	其他ノ者	死亡シタル者	除名放校シタル者	實業ニ就キタル者	私立學校へ入學ノ者	他ノ官公立學校へ入學ノ者	高等學校入學ノ者	合計	其他	中學校卒業ノ者	中學校ヨリ轉學ノ者	尋常小學校卒業ノ者	同一學年卒業ノ者

乙 號

(注意) 用紙ハ美濃紙トス

乙 號	年學卒業生徒						
	官廳へ奉職ノ者	學校教員トナリタル者	實業ニ就キタル者	一年志願兵トナリタル者	士官候補生トナリタル者	死亡ノ者	其他ノ者

乙 號

學校名稱職員調 明治何年十月一日調

乙 號	學校名稱	職員	職名	俸給	就職年月	卒業學年	業務所	何府縣士族平民	氏名	月年生

丙 號

(注意) 用紙ハ美濃紙トス

丙 號	學校名稱	預算調	明治何年度	收入ノ部		備考
				本年度	前年度	

科目	本年度	前年度	比較	備考
府縣費又ハ郡費又ハ町村費				
補助金				國庫補助金何程等
寄附金				何某寄附獎學金何程何某寄附書籍費何程
財産ヨリ生スレ收入				整理公債證書何月利子何程等
授業料				生徒一人何程何人分何程
雑收入				入學料何程不用品賣却代何程等

科目	本年度	前年度	比較	備考
俸給				校長給 月俸何程何人等
校長給				
教員給				同
書記給				
雜給				校長旅費汽車何程陸路何里何日分何程等
旅費				舍監手當何程學校醫手當何程等
手當				備何人何程使丁何人分何程等
諸備給				
國庫納				
金退職給				
校費				
備品費				
消耗品費				
圖書費				
器械費				
標本費				







第二篇 類規 第二類 學事 第六節 圖書館

自七月一日至九月三十日 午前八時ヨリ午後九時マテ  
自十月一日至三月三十一日 午前九時ヨリ午後六時マテ  
其他ノ圖書館

自四月一日至九月三十日 午後二時半ヨリ午後九時マテ  
自十月一日至三月三十一日 午後三時半ヨリ午後九時マテ  
但土曜日ハ午後一時ヨリ午後九時マテ

第三條 定期休館日ハ左ノ如シ但臨時休館日ハ其都度之レヲ定ム

歲首 自一月一日至一月五日  
元節 二月十一日  
天長節 八月三十一日  
市役所開廳日 十月一日

館内掃除日 毎月十四日  
曝書期 九月、十月、中五日乃至十日間  
歲末 自十二月二十七日至十二月三十一日

第四條 七歲未満ノ兒童ニ對シテハ圖書ノ閱覽ヲ許サス  
第五條 左ノ圖書館ハ閱覽料ヲ徵收ス

日比谷圖書館

特別閱覽人	一回分 金四錢	有効期間六十日
普通閱覽人	一回分 金貳錢	有効期間六十日
兒童	一回分 金壹錢	有効期間六十日

東京市立圖書館圖書閱覽規程 左ノ通相定メ四月二十日ヨリ施行ス  
明治四十一年九月東京市告示第五十一號、明治四十二年六月東京市告示第三十六號、明治四十二年七月東京市告示第四十二號ハ之ヲ廢止ス

東京市立圖書館圖書閱覽規程

第一條 館内ニ於テ圖書ヲ閱覽セムトスル者ハ閱覽票交付所ニ於テ閱覽料ヲ徵スル圖書館ニ在リテハ閱覽料ヲ引換ニ閱覽票ヲ受取ルヘシ、但閱覽票ヲ用キサル圖書館ニ在リテハ掛員ノ指示ニ從フヘシ  
館外帶出閱覽ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第二條 優待券、閱覽券又ハ圖書帶出券ヲ携帶スル者ハ該券ヲ閱覽票交付所ノ掛員ニ示シテ閱覽票ヲ受取ルヘシ

第三條 閱覽票ヲ受取リタル者ハ必ス其指定欄ニ氏名、住所及職業ヲ記入スヘシ

第四條 圖書ハ必ス所定ノ閱覽室ニ於テ閱覽スヘシ

第五條 特ニ指定シタル圖書ハ特別閱覽人ノ外閱覽スルコトヲ得ス

第六條 同時ニ閱覽スルコトヲ得ヘキ圖書數ハ左ノ定限内トス  
日比谷圖書館

第二篇 類規 第一類 學事 第六節 圖書館

二一八

新聞雜誌閱覽人

甲	一回分 金壹錢	有効期間六十日
乙	種 金貳圓	有効期間一箇年
丙	種 金貳拾錢	有効期間一箇月
丁	種 金貳拾錢	有効期間十日

深川圖書館

普通閱覽人	一回分 金壹錢	有効期間六十日
兒童	一回分 金九錢	有効期間六十日
帶出閱覽人	甲 種 金貳圓 有効期間一箇年 乙 種 金壹圓 有効期間一箇月 丙 種 金貳拾錢 有効期間一箇月 丁 種 金拾錢 有効期間十日	

第六條 功勞アリト認ムル者又ハ特別ノ事情アル者ニ對シテハ優待券若クハ閱覽券ヲ交付スルコトアルヘシ

第七條 圖書ヲ紛失汚損又ハ毀棄シタル者ニ對シテハ同一ノ圖書若クハ相當ノ金額ヲ以テ之レヲ賠償セシム

第八條 規程並ニ閱覽ニ關スル揭示ニ違背シ若クハ掛員ノ指示ニ從ハサル者ハ退館セシメ其情狀ニ依リ一箇年以内圖書ノ閱覽ヲ謝絶スルコトアルヘシ

市立圖書館圖書閱覽規程

大正二年四月十七日 市告示第五十四號

特別閱覽人	六種	八冊
普通閱覽人	三種	四冊
兒童	一種	一冊
新聞雜誌閱覽人	二種	二冊
深川圖書館		
普通閱覽人	二種	三冊
兒童	一種	一冊
自由ノ圖書館		
普通閱覽人	一種	二冊
兒童	一種	一冊

第七條 圖書ヲ返却シタルトキハ更ニ他ノ圖書ヲ閱覽スルコトヲ得  
第八條 退館セムトスル者ハ圖書ヲ返却シテ閱覽票ニ掛員ノ檢印ヲ受ケ之ヲ閱覽票交付所ニ差出スヘシ  
第九條 閱覽人ハ館内揭示ヲ遵守スヘキハ勿論掛員ノ指示ニ從フヘシ

市立圖書館圖書帶出規程

大正二年四月十七日 市告示第五十五號



東京市立圖書館圖書帶出規程左ノ通相定メ四月二十日ヨリ施行ス  
明治四十三年四月東京市告示第三十三號、明治四十五年四月東京  
市告示第三十六號ハ之ヲ廢止ス

東京市立圖書館圖書帶出規程

- 第一條 館外ニ圖書ヲ帶出シテ閱覽セムトスル者ハ定式ノ用紙ニ  
氏名、住所、職業ヲ記入シ之ニ調印ノ上規定ノ閱覽料ト共ニ  
自由圖書館ニ在リテ  
ハ閱覽料ヲ要セス 之ヲ掛員ニ差出シ圖書帶出券ヲ受取ルヘシ
- 第二條 自由圖書館ニ在リテハ保證トシテ指定銀行ニ拂込ミタル  
金貳圓ノ預金證券ヲ提供スヘシ但左記各號ノ一ニ該當スル者ニ  
ハ預金證券ノ提供ヲ免除スルコトアルヘシ
  - 一 館ノ附近ニ住居スル市區名譽職員並特別ノ關係アル者
  - 二 學校長、又ハ官廳、銀行會社等ノ要職ニ在ル者
  - 三 以上ノ者ノ保證アル者
  - 四 優待券ヲ所持スル者並身元確實ト認ムル者
- 第三條 圖書ヲ帶出セントスルトキハ所定ノ圖書帶出票ニ其圖書  
名、函號、番號等ヲ記入シ圖書帶出券ト共ニ之ヲ掛員ニ差出ス  
ヘシ
- 第四條 特ニ指定スル圖書ハ帶出スルコトヲ得ス

第五條 同時ニ帶出シ得ヘキ圖書ノ冊數ハ左ノ如シ

帶出券ノ種類	日比谷圖書館	深川圖書館	自由圖書館
甲 種	三種	三冊	二種
乙 種	三種	三冊	二種
丙 種	二種	二冊	一種
丁 種	二種	二冊	一種
別 種	二種	二冊	一種
			一種

甲種乃至丙種圖書帶出券ノ價額ヲ超過シタル圖書ヲ帶出セント  
スルトキハ相當ノ金額ヲ其帶出期間預ケ置クヘシ、但身元確實  
ト認メタル者ニハ預ケ金ヲ免除スルコトアルヘシ

第六條 圖書ノ帶出期間ハ十日トス

前項ノ期間中他ニ同一圖書ノ帶出ヲ要求スル者ナキトキハ期間  
滿了後引續キ閱覽スルコトヲ得但此場合ニ於テモ一時圖書ヲ返  
却シテ更ニ帶出ノ手續ヲナスヘシ

第七條 帶出シタル圖書ノ返却ヲ怠リタルトキハ爾後圖書帶出券  
ノ効力ヲ制限シ若クハ無効トスルコトアルヘシ

前項ノ場合受取人ヲ派出シテ圖書ヲ返却セシメタルトキハ之カ  
費用ヲ閱覽人ナシテ負擔セシム

第八條 圖書帶出券ヲ紛失シタルトキハ直チニ其旨ヲ申出テ再渡  
ヲ請求スヘシ

前項ノ手續ヲ怠リタルカ爲本市ニ損害ヲ與ヘタルトキハ帶出閱

覽人若クハ保證人ナシテ賠償ノ責ニ任セシム  
第九條 帶出閱覽人又ハ保證人住所ヲ變更シタルトキハ速カニ其  
新舊住所ヲ申出スヘシ

市立圖書館圖書取扱規程

大正元年十月十四日(各圖書館)  
市訓令甲第八號(各部)

- 第一條 本規程ニ於テ圖書ト稱スルハ公衆ノ閱覽ニ供スル目的ヲ  
以テ取扱フ書籍、繪畫ヲ謂フ
- 第二條 新聞雜誌ハ圖書ニ準ス
- 第三條 圖書館ニ管吏ヲ置ク
- 第四條 管吏ハ其圖書館ノ首席吏員ヲ以テ之ニ充ツ
- 第五條 管吏ハ圖書ノ出納ヲ命令ス
- 第六條 圖書館ニ圖書主任ヲ置ク
- 第七條 圖書主任ハ圖書ノ取扱及保管ノ責ニ任ス
- 第八條 圖書主任ハ圖書ノ種別並ニ分類ヲ定メ整理スヘシ閱覽ニ  
供スヘキ圖書ハ之ヲ原簿ニ調査スヘキ圖書ハ之ヲ保留簿ニ登記  
スヘシ
- 第九條 圖書主任ハ閱覽ニ適セサル圖書及修理シ難キ圖書ヲ精査  
シ廢棄ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第十條 新聞雜誌其他之ニ準スヘキ小冊子類ハ新ニ保存スヘキモノヲ除  
キ原簿登記ノ日ヨリ三箇月簡易圖書館ニアチ經過シタルトキハ  
之ヲ廢棄スルコトヲ得 (大正二年四月四日市告示第五十號ニ  
基キ本項中「簡易圖書館」トアルハ自  
由圖書館ノ義)  
前項ノ廢棄圖書ハ手工其他ノ材料トシテ市立學校ヘ交付スルコ  
トヲ得
- 第十一條 管吏ハ前條ノ手續ヲ了リタルトキ遲滞ナク之ヲ市長ニ報  
告スヘシ
- 第十二條 圖書主任圖書ノ保管換ヲ爲スニハ受送圖書館ニ對シ書目  
ト共ニ當該圖書ヲ送付スヘシ
- 第十三條 圖書主任ハ圖書ノ亡失ヲ發見シタルトキハ直ニ其事由ヲ  
調査シテ管吏ニ申出ツヘシ
- 第十四條 管吏ハ遲滞ナク之ヲ市長ニ報告スヘシ
- 第十五條 圖書主任ハ左ノ帳簿ヲ備フヘシ但必要ニ應シ補助簿ヲ設  
クルコトヲ得
  - 一 圖書原簿 (第一號樣式)
  - 一 新聞雜誌原簿 (第二號樣式)
  - 一 保留簿 (第三號樣式)
  - 一 製本簿 (第四號樣式)
  - 一 廢棄圖書簿 (第五號樣式)
  - 一 亡失圖書簿 (第六號樣式)



第一號樣式 圖書原簿

納本月日	書名	著者名	部	冊	版	出版年月	出版地	發行所	代價	函號	番號	大小	表裝	枚頁	圖書	受入先	備	考	
月																			
日																			

第二號樣式 新聞雜誌原簿

新聞雜誌名 (發行所)

日	次	番	號	發行月	受入日	價額	受入先	廢棄日	交付先	受付日	備	考
					月							
					日							

第三號樣式 保留簿

年	月	日	摘	要	數	量	現	在	數	量

第四號樣式 製本簿

製	本	圖	名	函	番	冊	製	送	還	付	備	考
月								月	月	日		
日								日	日			

第五號樣式 廢棄圖書簿

管	吏	印	廢	棄	圖	書	名	數	受	廢	受	付	備	考
			月	日					月	理	月	日		
										由				

第六號樣式 亡失圖書簿

管	吏	圖	書	取	亡	失	圖	書	名	數	受	亡	備	考
				報	月	日					入	月		
				主							日			
				任										
				印										



### 市立圖書館講演會、兒童日

#### 開催認可申請書様式並費用

支出方 明治四十四年五月六日(各館主事) 助役通牒三發第千三百八號(主幹宛)

市立圖書館ニ於テ講演會並兒童日ヲ開催セントスルトキハ自今其都度左記様式ニ據リ認可申請相成度又之ニ要スル費用ハ講演會ニ在リテハ一回金拾五圓以內兒童日ニ在リテハ一回金拾圓以內ヲ其館需用費雜用ヨリ支出差支ナキコトニ決定相成候條此段及通牒候也(明治四十五年四月十一日助役通牒三發第千五百四十七號ヲ以テ講演會兒童日開催費用金額改正) 追テ開催後五日以內ニ後記様式ニヨリ狀況報告相成度此段申添候

(日比谷圖書館ヘノ追書ハ左ノ如ク改ムルコト)

追而講師ニ贈呈スル記念品ハ本文費用以外ニ於テ從來通り取扱ハレ度尙開催後ノ狀況報告ハ後記様式ニヨリ從前通り提出相成度候

何圖書館講演會開催認可申請

開催日時	講演者ノ題目	講演者ノ氏名	豫定費用	備考
------	--------	--------	------	----

右御認可相成度及申請候也

年月日

市長宛

(注意) 餘興ヲ加フルトキハ相當欄ニ其旨ヲ記スルコト費用ノ豫定ハ各種目ニツキ可成詳細ニ記スルコト何圖書館兒童日開催認可申請

開催日時	催ノ次第	豫定費用	備考
------	------	------	----

右御認可相成度申請候也

年月日

市長宛

(注意) 催ノ次第ハ催ノ内容ヲ知り得ラルル程度ニ記スルコト費用ノ豫定ハ前表注意ニ同シ

何圖書館講演會狀況報告

開催日時	講演者ノ氏名	講演要領	入館者數	備考
------	--------	------	------	----

右報告候也

年月日

市長宛

(注意) 講演ノ要領ハ可成簡單ニ記スルコト何圖書館兒童日狀況報告

開催日時	催ノ次第	豫定費用	備考
------	------	------	----

右報告候也

年月日

市長宛

(注意) 催ノ要領ハ如何ナルコトヲ催シタルヤヲ知り得ラルル程度ニ記スルコト

### 市立圖書館圖書閱覽料取扱方

明治四十二年六月二十一日 市會議決第百二十五號

本市立圖書館圖書閱覽料ハ其圖書館ニ於ケル首席吏員ヲ經テ市收

主事主幹

入役ニ納付セシムルコトヲ得

### 市立圖書館優待券及無料閱覽券様式

明治四十二年十一月十二日 市長判決三發第千三百五十八號

本市立圖書館則ニ據リ交付スヘキ優待券及無料閱覽券ノ形式ヲ別紙ノ通相定左記ノ者ニ交付スルモノトス(下略)

(左記略ス) 別紙

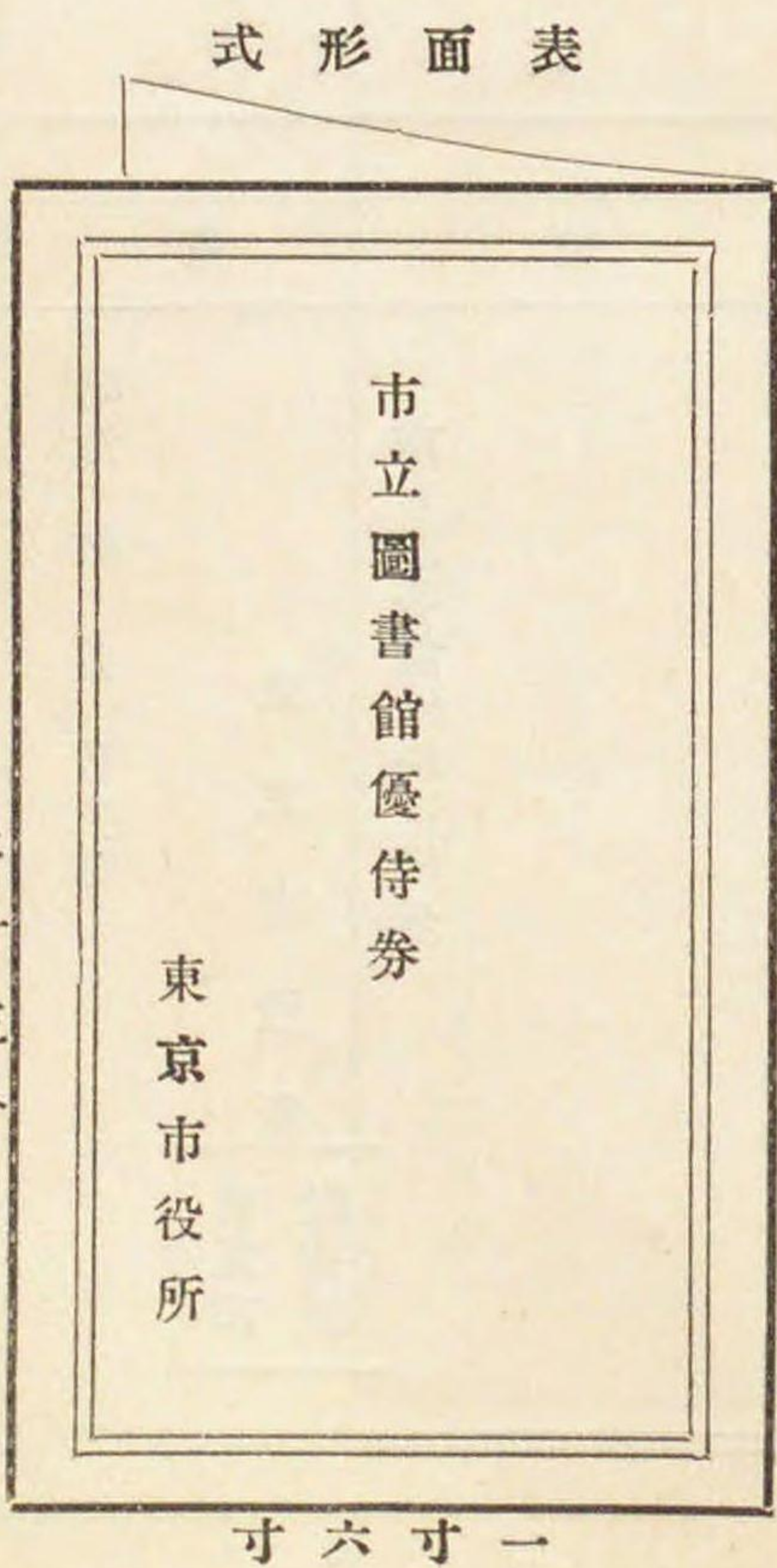


表 面 形 式

二寸五分



式 形 面 内

第 號

明治 年 月 日 交付

東京市役所  
教育課

市立圖書館優待券

殿

注 意

一 本券ハ各市立圖書館ニ共通ノ效力チ有ス  
 一 本券ノ有効期間ハ交付ノ日ヨリ 間トス  
 一 本券ノ使用ハ記名ノ者ニ限ル  
 一 本券ハ如何ナル理由アルモ期間中再交付セ  
 ス  
 一 本券ハ登館ノ際閱覽票交付所へ渡サルヘシ  
 一 退館ノ際圖書ヲ返納シタル後本券ヲ掛員ヨ  
 リ受取り持歸ラルヘシ

式 形 面 表

第 號

明治 年 月 日 交付

東京市役所  
教育課

市立圖書館無料閱覽券

二寸五分

分 六 寸 一

式 形 面 裏

注 意

一 本券ハ各市立圖書館ニ共通ノ效力チ有ス  
 一 本券ノ有効期間ハ交付ノ日ヨリ 間トス  
 一 本券ノ使用ハ記名ノ者ニ限ル  
 一 本券ハ如何ナル理由アルモ期間中再交付セ  
 ス  
 一 本券ハ登館ノ際閱覽票交付所へ渡サルヘシ  
 一 退館ノ際圖書ヲ返納シタル後本券ヲ掛員ヨリ受取  
 リ持歸ラルヘシ

●市立圖書館藏書每月報告方

明治 四十年十一月二十四日助役通各圖書館  
 三年十一月二十四日助役通各圖書館  
 牒三發第三千四百九十三號 主事主幹宛

(左記)

市立何々圖書館藏書月報

項 目	前月藏書數	增			減			現在高	備 考
		購 入	受 贈	他館ヨリ 保管轉換	亡 失	廢 棄	他館へ 保管轉換		
第一門									
第二門									
第、門									
、、、、									
摘 要									

注 意

- イ 雜誌ハ算入セサルコト
- ロ 保留圖書數ハ算入セサルコト
- ハ 洋書ハ△印ヲ附シ別記スルコト
- ニ 保留圖書數、依託圖書數(別扱ニ係ルモノ)巡回文庫圖書數ハ摘要欄内ニ記入スルコト

爾今貴館藏書月報左記様式ニ據リ處務規程第六條但書ニ則リ報告  
 相成度此段及通牒候也 (本文中處務規程「第六條」トアルハ大正  
 元年九月三十日市訓令甲第四號ニ基キ  
 現行處務規程「第五條」ニ  
 該當スルモノト見ルヘシ)



●市立圖書館ニ於テ圖書物品ノ寄贈ヲ受ケタル場合進達方

大正元年十月三日  
助役通牒三發第四千四百三十八號  
(各圖書館 主事主幹 宛)

貴館ニ圖書物品ノ寄贈ヲ申出テタル者アルトキハ其現品ヲ領置シ左記様式ニ據リ書類アルトキハ之ヲ添付進達相成度此段及通牒候也

圖書物品寄贈申出進達書

書名品目	數量	價格	住 所	勳位爵 氏 名

右進達候也  
年 月 日 館名 職氏 名  
市長 宛

●閱覽用圖書目錄其他ノ作成ニ關シ圖書館限リ臨時筆耕備入方

貴館圖書閱覽月報並閱覽人統計月報自今別紙様式ニ據リ御提出相成度此段及通牒候也  
(様式)

圖書閱覽月報					特別優待普通無料新聞雜誌兒童合計		和漢書洋書合計百分比					
閱 覽 人 員					特 別	優 待	普 通	無 料	新 聞 雜 誌	兒 童	合 計	百 分 比
同 上 前 年 度 比 較	一 日 平 均 人 員	人 員		減								
		計	男 女									
第 一 門	第 二 門	第 三 門	第 四 門	圖 覽								
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、

明治四十三年十一月二十五日  
市長判決三發第三千五百三十四號  
市立圖書館ニ於テ閱覽用又ハ事務用圖書目錄及カード等作成ノ爲メ臨時ニ筆耕ノ備入ヲ要スル場合ハ配付豫算額ノ範圍内ニ於テ其館主事又ハ主幹ヲシテ決行セシムルモノトス

●市立圖書館ニ於テ出納掛員用被服備置方

明治四十四年五月二日  
〔市參事會議決〕第二千五百五十八號  
市立日比谷圖書館ヲ除ク他ノ市立圖書館ニ於テハ圖書ノ出納ヲ擔任スル掛員用トシテ相當ノ被服ヲ備付クルコトヲ得ルモノトス其體裁ハ市立日比谷圖書館出納掛員被服ニ倣ヒ費用ハ教育費深川及簡易圖書館費用費備品費ヨリ支出スルモノトス (大正二年四月第五十號ニ基キ本文中「簡易圖書館」トアルハ「自由圖書館」ノ義ト知ルヘシ)

●圖書閱覽月報並閱覽人統計月報提出方及様式

明治四十三年一月十日  
助役通牒三發第九十號  
日比谷圖書館主事、深川圖書館首席、五號(事務員、日本橋、牛込簡易圖書館主幹 宛)







考 備	種 別				合 計
	開館日數	百分比	總人員 一日平均	學生生徒	
右及報告候也				實業ニ從 事スル者	官公吏 人
明治 年 月 日				新聞記者、 醫師、辯護士	教員、僧侶、 牧師、技術家
東京市長				無職業	兒童
殿					合計
				何々圖書館主事(主幹其他)……	

(注意) 記入スヘキ事項ナキ欄ニハ傾線ヲ施スコト

### 市立圖書館事務研究並協議等ノ爲會議開催方

圖書館事務ノ研究並協議等ノ爲メニ市役所ニ於テ左ノ會議ヲ開催スルモノトス  
一 館長會議

明治四十三年九月十四日 決

組織 日比谷圖書館主事、深川圖書館首席事務員、簡易圖書館主幹  
此會議ハ必要ニ應シテ開催シ其日時ハ教育課長之ヲ定ム

二 主幹會議  
組織 簡易圖書館主幹 (大正二年四月四日市告示第五十號ニ基キ「簡易圖書館」トアルハ「自由圖書館」ノ義ト知ルヘシ)

### 程

明治四十二年十月十九日 (市參事會議決) 第四千六百四十七號

場合ニ依リ日比谷圖書館主事、深川圖書館主事、事務員ヲ參與セシム  
此會議ハ毎月開催シ其日時ハ教育課長之ヲ定ム

三 事務擔當主任會議  
組織 各圖書館ノ事務擔當主任(會議ノ目的タル當該事務主任)  
此會議ハ必要ニ應シテ開催シ其日時ハ教育課長之ヲ定ム

### 市立圖書館事務研究並協議等ノ爲會議開催ノ場合賄支給方

明治四十三年九月二十日 (市參事會議決)  
圖書館事務ノ研究協議等ノ爲ニ催ス館長、主幹、事務主任會議開催ノ場合ニ於テハ其會議ノ狀況ニヨリテ出席者並ニ關係吏員ニ辨當ヲ給スルモノトス  
此辨當ハ金貳拾五錢ノ現品ヲ以テ給シ費用ハ教育費、學事諸費、學事會費ヨリ支出スルモノトス

### 市立圖書館評議員設置及規

第二篇 類規 第一類 學事 第六節 圖書館

則

市立圖書館評議員會議事細則  
明治四十二年十一月二十九日 評議員會 決 議

第一條 評議員會ハ每會座長ヲ互選シ座長ハ議事ヲ整理ス  
第二條 會議ハ相談會ノ體ヲ用ユ但評議員過半数出席スルニアラサレハ決議スルコトヲ得ス  
第三條 座長ハ書記ヲシテ議事ノ願末ヲ記錄セシム



第四條 議事錄報告等ハ出席評議員ノ回覽ニ供シ座長之レニ檢印スヘシ

●市立圖書館商議員設置

明治四十二年十一月十九日  
〔市參事會議決〕第六千八百八十一號

市立圖書館ニ經營上必要アルトキハ其館ノ商議員ヲ置クコトヲ得商議員ハ市長之ヲ囑託ス

●市立圖書館會計取扱手續

明治四十二年

七月三十一日  
市訓令甲第二十四號  
(東京市立日比谷圖書館  
東京市立深川圖書館)

第一條 圖書館ハ〔市參事會〕ヨリ令達ヲ受ケタル豫算ノ範圍内ニ於テ本手續ニ據リ毎年度ノ收支取扱ヲ爲スヘシ但左記ノ事項ニ關シテハ認可ヲ經テ施行スヘシ

- 一 豫算ノ目内各節金額ノ流用
- 二 見積價格參拾圓以上ノ圖書購入
- 三 見積價額貳拾圓以上ノ需用品ノ購入、修繕

- 四 一箇所參拾圓以上ノ修繕工事
- 五 不用品ノ賣却
- 深川圖書館
- 一 豫算ノ目内各節金額ノ流用
- 二 見積價額拾五圓以上ノ圖書購入
- 三 見積價額拾圓以上ノ需用品ノ購入、修繕
- 四 一箇所拾五圓以上ノ修繕工事
- 五 不用品ノ賣却
- 第二條 物品ノ購入、修繕及工事ヲ要スルトキハ見積書ヲ徵シ調査ノ上契約スヘシ
- 第三條 現金ノ支拂ハ債主ヨリ請求書ヲ徵シ支拂ヲ申請スヘシ
- 第四條 閱覽料ハ十日分宛ヲ取纏メ納付スヘシ
- 前項以外ノ收入金ハ納入ヨリ納付書ヲ徵シ其都度納付スヘシ
- 第五條 收支精算書及豫算調書ハ左ノ期限内ニ之ヲ提出スヘシ
  - 一 收支精算書 毎年五月三十一日限
  - 一 豫算調書 毎年八月三十一日限
- 第六條 收支ノ整理ハ歲入出豫算内譯簿ヲ設ケ之ヲ爲スヘシ但必要ニ依リ補助簿ヲ設クルコトヲ得

附 則

- 第七條 本規程ニ據ル調書及帳簿ハ左ノ様式ニ從ヒ調製スヘシ
  - 第一號様式 收支精算書
  - 第二號様式 豫算調書

第三號様式

歲入豫算内譯簿

第四號様式

歲出豫算内譯簿

(第一號様式)

何々圖書館明治何年度收支精算調書

(様式中△印ヲ附シタル文字及横線ハ朱書)

科 目	何々圖書館收入	閱 覽 料	何 々	何 々	何 々	歲 出		附 記	增 減ノ理由
						經常	費		
何々圖書館收入	△							豫算個數	
閱 覽 料								精算個數	
何 々								豫算一個當	
何 々								精算一個當	
科 目	豫算額	精算額	增	減△	附	記	增減ノ理由		
何々圖書館費	△								
第一目俸給及雜給									
(一) 主事俸給									







科 目	臨時費	(一) 備品		(二) 消耗品		(三) 何々	
		同 上	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上
何々圖書館費							
第一目何々費							
(一) 何々							
(二) 何々							
同 上							

備考 備品及消耗品明細表ハ別ニ添付スヘシ

(第三號樣式)

(樣式中△印ヲ附シタル文字及橫線ハ朱書)

明治何年度  
歳入豫算内譯簿

東京市立何々圖書館

記載例

- 一 各種目毎ニ口座ヲ設ケヘシ
- 二 豫算額欄ニハ(市參事會)令達ノ豫算金額ヲ記入スヘシ
- 三 收入額欄中受入欄ニハ一切ノ收入金額ヲ納付欄ニハ市ニ納付シタル金額ヲ記入スヘシ

年月日	摘要	豫算額	收入額		差額
			受入	納付	
何年何月何日	豫算令達高	三二四△	八〇〇〇	八〇〇〇	三二六△
何年何月何日	閱覽料		八〇〇〇	八〇〇〇	三〇六〇〇
何年何月何日	同上		一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	三〇六〇〇
何年何月何日	何々拂代		五〇〇〇	五〇〇〇	三〇〇〇
何年何月何日	豫算令達高	三五〇〇〇	△	△	△
何年何月何日	何々拂代		五〇〇〇	五〇〇〇	三〇〇〇







第二條 目錄係ハ左記ノ事務ヲ掌ル

- 一 書牌ノ調製、整理及統計ニ關スル事項
- 二 目錄ノ編製ニ關スル事項
- 三 圖書ノ解題ニ關スル事項
- 四 購求及廢棄スヘキ圖書ノ調査ニ關スル事項
- 五 主管事務ニ附屬スル物品ノ整理及保管ニ關スル事項

第三條 藏書係ハ左記ノ事務ヲ掌ル

- 一 圖書ノ收受、整理及保管ニ關スル事項
- 二 圖書原簿ノ記入及保管ニ關スル事項
- 三 圖書ノ裝釘ニ關スル事項
- 四 書庫ノ整理ニ關スル事項
- 五 藏書ノ統計ニ關スル事項
- 六 主管事務ニ附屬スル物品ノ整理及保管ニ關スル事項

第四條 出納係ハ左記ノ事務ヲ掌ル

- 一 圖書ノ出納ニ關スル事項
- 二 圖書ノ館外帶出ニ關スル事項
- 三 閱覽室ノ設備、整理及備付物品ノ保管ニ關スル事項
- 四 雜誌、講義錄及新聞紙ノ分綴ニ關スル事項
- 五 閱覽ノ案内ニ關スル事項
- 六 閱覽人及閱覽圖書ノ統計ニ關スル事項
- 七 圖書閱覽回数ノ記帳ニ關スル事項
- 八 出納手ノ監督ニ關スル事項
- 九 主管事務ニ附屬スル物品ノ整理及保管ニ關スル事項

第五條 會計係ハ左記ノ事務ヲ掌ル

- 一 豫算及決算ニ關スル事項
- 二 俸給及雜給支拂ニ關スル事項
- 三 圖書、需用品ノ購入及不用品ノ拂下ニ關スル事項
- 四 舟車馬及人夫雇入ニ關スル事項
- 五 營繕及修繕ニ關スル事項
- 六 閱覽料ノ取扱ニ關スル事項
- 七 財產(圖書及各係ノ主管事務ニ附屬スル物品ヲ除ク)ノ保管及財產目錄ノ整理ニ關スル事項
- 八 會計帳簿ノ整理及保管ニ關スル事項
- 九 會計報告ニ關スル事項
- 十 給水點火及暖房ニ關スル事項
- 十一 警備及衛生ニ關スル事項
- 十二 館丁及職工ノ監督ニ關スル事項
- 十三 主管事務ニ附屬スル物品ノ整理及保管ニ關スル事項

第六條 庶務係ハ左記ノ事務ヲ掌ル

- 一 館印及主事印ノ保管ニ關スル事項
- 二 公文ノ起案ニ關スル事項
- 三 文書ノ收受及發送ニ關スル事項
- 四 一覽及報告ニ關スル事項
- 五 命令及通牒ニ關スル事項
- 六 館ノ日誌ニ關スル事項

七 職員ノ履歷書、名簿、住所簿等ニ關スル事項

- 八 職員ノ願、伺、届等ニ關スル事項
- 九 職員ノ出勤、缺勤等ニ關スル事項
- 十 宿直ニ關スル事項
- 十一 評議員會ニ關スル事項
- 十二 外來人ニ關スル事項
- 十三 公文書類ノ整理及保管ニ關スル事項
- 十四 優待券及無料閱覽券ノ取扱ニ關スル事項
- 十五 巡視ノ監督ニ關スル事項
- 十六 主管事務ニ附屬スル物品ノ整理及保管ニ關スル事項
- 十七 所屬ノ確定セサル事務ニ關スル事項
- 第十七條 各係ノ事務ニシテ他ト關係アルモノハ合議ヲ以テ之ヲ處理ス
- 第十八條 各係ニ屬スル事務ノ取扱手續ハ一定ノ例規アルモノノ外ハ總テ主事ノ指定シタル綱領ニ據ル
- 第九條 各係ニ主任及係員ヲ置ク
- 主任ハ事務員中ヨリ主事ノヲ特選ス
- 第十條 主任ハ主事ノ命ヲ承ケ所屬事務ヲ主掌ス
- 係員ハ當該係主任ノ指揮ヲ承ケ所屬事務ヲ分擔ス
- 第二章 服務心得
- 第十一條 職員ハ一定ノ時限マテニ登館シ直ニ出勤簿ニ捺印スヘシ

第十二條 職員ニシテ病氣又ハ事故ノ爲ニ缺勤セントスルトキハ

- 出勤時限マテニ其事由ヲ詳記シタル届書ヲ差出スヘシ但病氣ノ爲ニ缺勤十五日以上ニ及フトキハ届書ニ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ
- 第十三條 職員ニシテ出勤時限ニ遅刻スルカ執務時間中ニ退出セントスルトキハ其事由ヲ申出テ主事ノ承認ヲ得ヘシ
- 第十四條 職員ニシテ喪ニ當リタルトキハ死者トノ關係ト忌服ノ日數トヲ記シタル届書ヲ差出スヘシ
- 第十五條 職員ニシテ住所氏名其他ノ異動ヲ生シタルトキハ直ニ其旨ヲ届出ツヘシ
- 第十六條 事務繁劇若クハ急施ヲ要スル事件アル場合ニ於テハ主事ノ命ニ依リ執務時間外又ハ休日ト雖モ執務スヘシ
- 第十七條 職員ハ事務分掌ノ都合ニヨリ主事ノ指定シタル特別ナル時間ニ於テ其職務ニ從事スヘシ
- 第十八條 職員退職又ハ轉勤ノトキハ擔任事務ニ關スル目錄書ヲ作り其未完結ノモノハ處理ノ願末ヲ記シテ係主任ニ差出スヘシ
- 第十九條 職員ハ其指定セラレタル職務ニ關シテ一切ノ責ニ任スヘシ
- 第二十條 身分職務又ハ請暇願ニ關シテ市長ニ提出スヘキ書面ハ總テ主事ヲ經由スヘシ
- 第三章 宿直心得



- 第二十二條 職員ハ毎日一人ツツ交代ヲ以テ宿直ノ任務ニ從事スヘシ
- 第二十三條 宿直員ノ任務ハ退館時限ニ始マリ翌日出勤時限ヲ以テ終ル但休日ハ出勤時限ヨリ翌日出勤時限マテトス
- 第二十四條 宿直員ハ文書圖書ヲ收受シ館丁、巡視ヲ監督シ館ノ内外ノ取締ヲナシ非常異變ノ場合ニ於テハ臨機ノ處置ヲナスヘシ
- 第二十五條 宿直員ハ一切ノ事件ヲ當直日誌ニ記録シ收受ノ文書中至急ヲ要スト認メタルモノハ直ニ主事ニ發送スヘシ
- 第二十六條 宿直ノ順番等ニ關スル事項ハ豫メ職員ノ協議ヲ以テ之ヲ定メ主事ノ承認ヲ經テ實行スヘシ

●市立日比谷圖書館講談會講師ニ贈與スル紀念品ノ選定方主事ニ委任

明治四十三年八月二十日  
市長判決三乙第三千二百二十五號  
本年八月一日第三三五八號〔市參事會議決〕ニヨリ日比谷圖書館講談會講師ニ贈與スル紀念品ノ選定ハ之レヲ同館主事ニ委任スルモノトス

●市立日比谷圖書館內賣店開設ノ許否主事ニ於テ取計方

明治四十四年四月十八日〔日比谷圖書館助役通牒三發第七百五十二號〕館主事宛  
日比谷圖書館ニ於テ館內圖書閱覽人ノ爲食料品並文具等ヲ各當業者ヲシテ供給セシムルコトヲ必要ト認メタル場合ハ左記事項ニ則リ主事ニ於テ許否ヲ決シ得ヘキコトニ決定相成候條此段及通牒候也

- 記
- 一 物品ノ供給者ニ對シ主事ハ其供給所トシテ新設閱覽人休憩室ノ約三分ノ一ヲ限度トシ使用セシムルコトヲ得
  - 二 建物使用及物品供給ノ許可期間ハ一箇年ヲ以テ一期トス但期間滿了ノ際ハ更新スルコトヲ得
  - 三 物品供給ヲ出願スル者ハ市内ニ土地又ハ家屋ヲ所有シ且誠實ナル保證人ヲ立ツルコトヲ要ス
  - 四 供給物品ハ之ヲ左ノ二類ニ區別ス
    - 第一類 牛乳、麵麴類
    - 第二類 文房具、煙草及第一類以外ノ飲食物
  - 五 第一類ノ物品供給者ハ左ノ諸件ヲ具備スル者タルヘシ
    - (一) 牛乳搾取場ヲ有スルコト(證明ヲ要ス)

●市立深川圖書館名稱

明治四十一年十二月二十五日  
〔市參事會議決〕第六千九百八十二號  
深川區深川公園內ニ建設スル市立圖書館ノ名稱ヲ左ノ通定ムルモノトス  
東京市立深川圖書館

●市立深川圖書館開館

明治四十二年九月三日  
市告示第四十六號  
東京市立深川圖書館本月十日ヨリ開館ス

●市立深川圖書館處務細則

明治四十三年六月三日  
市長判決三乙第二千六百五十九號

第一章 事務分掌

第一條 本館ニ第一分掌第二分掌ヲ置ク

第二條 分掌ニ主任ヲ置ク主任ハ主事ノ命ヲ受ケ其分掌事務ヲ處理シ係員ヲ監督ス

- (一) 二箇年以上官公署、病院其他ノ團體ノ牛乳請負人タリシコト(證明ヲ要ス)
- (二) 完全ナル消毒器械(特許又ハ専門家ノ證明アルモノ)ヲ供給所ニ据付ケ且分拆器械及比重計等ヲ備置クコト
- (三) 第二類ノ物品供給者ハ一箇年以上當該物品中一種以上ノ販賣ニ從事セル者タルヘシ但證明ヲ要ス
- (四) 供給物品ハ總テ確實ナル品質ヲ精撰シ其價格ハ市價ヨリモ低廉タルヘシ
- (五) 第二類ニ屬スル物品ノ種類ハ主事ニ於テ審査決定スヘシ
- (六) 物品供給者又ハ其代人トシテ圖書館ニ出張スル者ハ左ノ諸件ヲ具備スルヲ要ス
  - (一) 男子タルコト
  - (二) 確實ナル人物タルコト
  - (三) 清潔ナル服裝ヲナスコト
- (七) 物品供給者ハ毎日使用建物ノ内外ヲ掃除シ時時圖書館全構内ノ大掃除草取等ヲ爲スノ義務ヲ有ス
- (八) 物品供給者ハ閱覽人ノ圖書館構外ニ出テントスル者アルトキハ溫和ノ手段ヲ以テ之ヲ制シ必要ニ應ジテ其事情ヲ主事ニ急報スルノ義務ヲ有ス



主任ハ職員中ヨリ主事ヲ特選ス

第三條 主任ハ主事ノ命ヲ受ケ所屬事務ヲ主掌ス  
係員ハ當該主任ノ指揮ヲ受ケ所屬事務ヲ分擔ス

第四條 分掌ノ所管事務左ノ如シ

- 第一 分掌
  - 一 書牌目錄ノ作製整理ニ關スル事項
  - 二 圖書ノ解題ニ關スル事項
  - 三 購求及廢棄圖書ノ調査ニ關スル事項
  - 四 圖書ノ出納整理保管ニ關スル事項
  - 五 統計ニ關スル事項
  - 六 書庫及閱覽室ノ整理ニ關スル事項
  - 七 閱覽案内ニ關スル事項
  - 八 出納手ニ關スル事項
  - 九 書庫、閱覽室附屬物品ノ整理保管ニ關スル事項
- 第二 分掌
  - 一 職員ノ進退身分ニ關スル事項
  - 二 公印ノ管守ニ關スル事項
  - 三 公文ノ起草ニ關スル事項
  - 四 文書ノ處理及編纂保管ニ關スル事項
  - 五 館ノ日誌ニ關スル事項
  - 六 評議員會講話會ニ關スル事項
  - 七 外來人ニ關スル事項

八 優待券及無料閱覽券取扱ニ關スル事項

九 宿直ニ關スル事項

十 豫算決算及會計報告ニ關スル事項

十一 俸給及諸手當ノ支給ニ關スル事項

十二 圖書及物品ノ購買、賣却修繕ニ關スル事項

十三 閱覽料ノ取扱ニ關スル事項

十四 會計帳簿、物品出納簿ノ整理及保管ニ關スル事項

十五 圖書館所屬財產目錄整理ニ關スル事項

十六 人夫及舟車馬厩上ニ關スル事項

十七 給水、點火、暖房ニ關スル事項

十八 警備及衛生ニ關スル事項

十九 營繕ニ關スル事項

二十 館丁ニ關スル事項

二十一 第一分掌ニ屬セサル事項

第五條 一分掌ノ事務ニシテ他ノ分掌ニ關係アルモノハ合議ヲ以テ之ヲ處理ス

第六條 各分掌ニ屬スル事務ノ取扱手續ハ一定ノ例規アルモノノ外ハ總テ主事ノ指定シタル綱領ニ依ル

第二章 服務心得

第七條 職員ハ一定ノ時間迄ニ登館シ直ニ出勤簿ニ捺印スヘシ

第八條 職員病氣、事故ノ爲メ缺勤スルトキハ出勤時間迄ニ事由ヲ具シ届出ツヘシ其缺勤十五日以上ニ及フモノハ十五日毎ニ醫

師ノ診斷書ヲ添付シタル届書ヲ差出スヘシ

第九條 職員遲參又ハ早退ノ場合ハ其事由ヲ申出テ主事ノ承認ヲ受クヘシ

第十條 職員忌服ヲ受ケタルトキハ定限ノ日數ヲ記シ又ハ父母ノ祭日ニ當リ出勤セサルトキハ其旨届出ツヘシ

第十一條 職員ノ住所氏名其他身分ニ異動ヲ生シタルトキハ直ニ其旨届出ツヘシ

第十二條 事務繁劇若クハ急施ヲ要スル事件アル場合ニ於テハ主事ノ命ニヨリ執務時間外又ハ休日ト雖執務スヘシ

第十三條 事務分掌ノ都合ニ依リ主事ノ指定シタル時間ニ於テ執務セシムルコトアルヘシ

第十四條 主任退職又ハ轉動ノトキハ其擔任事務ニ關スル目錄書ヲ作り未完結ノモノニアリテハ其願末ヲ記シ主事ノ閱覽ヲ受クヘシ

第十五條 其他ノ職員ニアリテハ主任ヲ經由シテ主事ノ閱覽ヲ受クヘシ

第十六條 職員ハ其指定セラレタル職務ニ關シテ一切ノ責任ヲ負フヘシ

第十七條 身分職務又ハ請暇ニ關シテ市長ニ提出スヘキ書面ハ總テ主事ヲ經由スヘシ

第十八條 宿直ハ職員中一人ヲ以テ之ニ充ン

第十九條 宿直ノ任務ハ退館時限ニ始マリ出勤時限ヲ以テ終ル

第二章 類規 第一類 學事 第六節 圖書館

第二篇 類規 第一類 學事 第六節 圖書館

第二章 類規 第一類 學事 第六節 圖書館

第二章 類規 第一類 學事 第六節 圖書館

第二章 類規 第一類 學事 第六節 圖書館

第二章 類規 第一類 學事 第六節 圖書館

第二章 類規 第一類 學事 第六節 圖書館

第二章 類規 第一類 學事 第六節 圖書館

第二章 類規 第一類 學事 第六節 圖書館

第二章 類規 第一類 學事 第六節 圖書館

第二章 類規 第一類 學事 第六節 圖書館

第二章 類規 第一類 學事 第六節 圖書館

第二章 類規 第一類 學事 第六節 圖書館

第二章 類規 第一類 學事 第六節 圖書館

第二章 類規 第一類 學事 第六節 圖書館

第二章 類規 第一類 學事 第六節 圖書館

第二章 類規 第一類 學事 第六節 圖書館

第二章 類規 第一類 學事 第六節 圖書館

第二章 類規 第一類 學事 第六節 圖書館

第二章 類規 第一類 學事 第六節 圖書館

第二章 類規 第一類 學事 第六節 圖書館

第二章 類規 第一類 學事 第六節 圖書館

第十九條 宿直ハ文書圖書ヲ收受發送シ館丁ヲ監督シ館内及周圍ノ取締ヲナシ非常ノ場合ニ於テ臨機ノ處置ヲナスヘシ

第二十條 宿直ニ於テ取扱タル事件ハ總テ宿直日誌ニ其願末ヲ記録スヘシ

### 市立深川圖書館内賣店開設ノ許否主事ニ於テ取計方

明治四十四年八月二日  
(市參事會議決)第四百二十四號

深川圖書館ニ於テ閱覽人ニ供給スル目的ヲ以テ物品ノ販賣ヲナサシメントスルトキハ日比谷圖書館ノ例(四十四年三月第一五一九號(參事會議決))ニ徴ヒ左記ノ事項ニ則リ同館主事ヲシテ決行セシムルモノトス

- 一 物品販賣ニ關シテハ金錢上ノ義務ヲ課スルコトヲナサスシテ一定ノ勞務ニ服セシムルコト
- 二 物品販賣者ハ當該物品ノ販賣ニ經驗ヲ有スルモノニシテ確實ナル身元保證人ヲ有スルモノナルコト
- 三 物品販賣ノ許可期間ハ一箇年ヲ以テ一期トスルコト但更新ヲ妨ケス







- 一 職員ノ身分ニ關スル事項
- 一 館ノ記録ニ關スル事項
- 一 館丁ノ監督ニ關スル事項
- 一 所屬ノ確定セサル事項

第三條 圖書係ハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 書牌ノ調製整理及統計ニ關スル事項
- 一 目錄ノ編製ニ關スル事項
- 一 購入及廢棄スヘキ圖書ノ調査ニ關スル事項
- 一 圖書ノ保管並ニ整理ニ關スル事項
- 一 圖書並ニ新聞雜誌等ノ裝釘及分綴合綴ニ關スル事項
- 一 藏書ノ統計ニ關スル事項
- 一 書庫ノ整理ニ關スル事項

第四條 閱覽係ハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 閱覽人ノ案内ニ關スル事項
- 一 圖書ノ貸出ニ關スル事項
- 一 閱覽者及閱覽圖書ノ統計ニ關スル事項
- 一 閱覽室ノ整理監督ニ關スル事項

第五條 各係ハ主幹ノ命ニ依リ所管外ノ事務ト雖モ處理スルコトアルヘシ

第六條 各係ノ事務ニシテ他ト關係アルモノハ協議ノ上之ヲ處理スヘシ

第二章 服務心得

- 第七條 職員ハ一定ノ時限迄ニ登館シ直チニ出勤簿ニ捺印スヘシ
- 第八條 職員ニシテ病氣又ハ事故ノ爲ニ缺勤セントスル時ハ出勤時限マテニ其理由ヲ詳記シタル届書ヲ差出スヘシ但病氣ノタメニ缺勤十五日以上ニ及フトキハ届書ニ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ
- 第九條 職員ニシテ出勤時限ニ遅刻スルカ執務時間中ニ退館セントスルトキハ其事由ヲ申出テ主幹ノ承認ヲ得ヘシ
- 第十條 職員ニシテ喪ニ當リタルトキハ死者トノ關係ト忌服ノ日數トヲ記シタル届書ヲ差出スヘシ
- 第十一條 職員ニシテ住所氏名其他ノ異動ヲ生シタル時ハ直ニ其旨ヲ届出ツヘシ
- 第十二條 事務繁劇若クハ急施ヲ要スル事件アル場合ニ於テハ主幹ノ命ニ依リ執務時間外又ハ休日ト雖モ執務スヘシ
- 第十三條 職員ハ事務分掌ノ都合ニヨリ主幹ノ指定シタル特別ナル時間ニ於テ其職務ニ従事スヘシ
- 第十四條 職員ノ退職又ハ轉勤ノ場合ハ其擔任事務ノ目錄ヲ作リ其未完結ノモノハ處理ノ願末ヲ記シテ主幹ニ報告スヘシ
- 第十五條 職員ハ其指定セラレタル職務ニ關シテ一切ノ責ニ任スヘシ
- 第十六條 自分職務又ハ請暇願ニ關シテ市長ニ提出スヘキ書面ハ總テ主幹ヲ經由スヘシ

●市立日本橋圖書館其他二市

立圖書館帶出規程適用方

大正元年八月九日 市告示第一號

明治四十五年四月東京市告示第三十六號東京市立簡易圖書館帶出規程ヲ適用スル簡易圖書館ヲ左ノ如ク指定シ八月十日ヨリ帶出事務ヲ取扱ハシム  
(大正二年四月四日市告示第五十號ニ基キ本文中「市立簡易圖書館」トアルハ「市立自由圖書館」ノ義ト知ルヘシ)

- 一 日本橋簡易圖書館 (大正二年四月四日市告示第五十號ヲ以テ簡易圖書館名稱變更ノ結果本館以下簡易ノ字消滅)
- 一 市立京橋第一簡易圖書館 (大正元年十月二日市告示第十八號ヲ以テ本館及市立牛込圖書館ニ圖書帶出事務ヲ開始シ同年十月十日ヨリ施行ス)
- 一 市立牛込簡易圖書館 (大正二年三月三十一日市告示第四十號ヲ以テ本館ニ圖書帶出事務ヲ開始シ同年四月一日ヨリ實施ス)
- 一 市立淺草簡易圖書館 (四號ヲ以テ本館ニ圖書帶出事務ヲ開始シ同年四月一日ヨリ實施ス)
- 一 市立小石川圖書館 (大正二年五月二十三日市告示第七十一號ヲ以テ本館及市立本郷圖書館ニ圖書帶出事務ヲ開始シ同年六月一日ヨリ施行ス)

一 市立本郷圖書館

●市立自由圖書館用帳簿様式

明治四十四年五月二十九日 市長判決三發第千八百五十五號

市立簡易圖書館ニ於テ日常使用スル左記ノ帳簿ノ様式ヲ別紙ノ通り制定スルモノトス  
(大正二年四月四日市告示第五十號ニ基キ本文中「市立簡易圖書館」トアルハ「市立自由圖書館」ノ義ト知ルヘシ)  
一 文書處理簿 發送、來書ノ二種  
一 廢棄圖書物品決定簿  
一 受贈圖書簿  
以上

●市立自由圖書館員勤怠報告提出方竝注意

明治四十五年七月十六日(各簡易圖書) 助役通牒三發第千三百三十四號(館主幹宛)  
館員勤怠報告爾今別紙様式ニ據リ二通宛提出相成度尙作表ニ就キ左記ノ事項御注意相成度此段及通牒候也(大正二年四月四日市告示第五十號ニ基キ様式中「何簡易圖書館」トアルハ「何自由圖書館」ノ義ト知ルヘシ)  
一 勤務定日數ハ館則並處務規程、細則等ニ準據シテ定ムルコト  
例大ノ月ニ休館日一日アリタルトキハ三十日ヲ勤務定日數トス



















## 第二類 衛生

### 第一節 通規

#### ●市役所衛生課分科規程

明治四十二年二月二十四日  
市長判決衛發第二百十三號

第一條 衛生課ニ左ノ分科ヲ設ケ

保健掛、防疫掛、醫務掛、課長專屬員

第二條 保健掛、防疫掛、醫務掛ニハ長ヲ置キ其事務ヲ掌理セシ

第三條 保健掛ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 塵芥掃除ニ關スル事項
- 二 塵芥焼却場及塵芥取扱場ニ關スル事項
- 三 下水浚渫ニ關スル事項
- 四 河川掃除ニ關スル事項
- 五 街頭便所ニ關スル事項
- 六 撤水除雪ニ關スル事項
- 七 精神病者監護ニ關スル事項
- 八 公私立精神病院實況視察ニ關スル事項
- 九 衛生試験所ニ關スル事項
- 十 衛生講習會ニ關スル事項
- 十一 掃除巡視採用試験ニ關スル事項

第二篇 類規 第二類 衛生 第一節 通規

十二 保健統計ニ關スル事項

十三 撤水井戸竝啣筒、街頭便所、塵芥取扱場其他保健ニ屬スル建造物營繕ニ關スル事項

十四 豫算編製ニ關スル事項

十五 收支並決算ニ關スル事項附簿記

十六 公衆ノ集合スル劇場工場等ノ衛生的設備視察ニ關スル事項

十七 前各項ノ外保健ニ關スル事項

第四條 防疫掛ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 傳染病院、施療病院、消毒所ニ關スル事項

二 傳染病豫防並施療ニ關スル事項

三 癩患者救護ニ關スル事項

四 種痘ニ關スル事項

五 隔離所ニ關スル事項

六 清潔方法消毒方法ニ關スル事項

七 病毒試験及消毒藥並消毒器械等試験ニ關スル事項

八 衛生組合ニ關スル事項

九 傳染病感染者及死亡者手當給與ニ關スル事項

十 防疫統計ニ關スル事項

十一 防疫ニ屬スル物品出納保管ニ關スル事項

十二 豫算編製ニ關スル事項

十三 收支並決算ニ關スル事項附簿記



十四 前各項ノ外防疫ニ關スル事項

第五條 醫務掛ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 傳染病地方病ニ對スル豫防救治ニ關スル事項
  - 二 傳染病患者隱蔽ノ有無調査ニ關スル事項
  - 三 傳染病ノ疑アル者ニ對スル診斷又ハ檢按執行ニ關スル事項
  - 四 傳染病患者發生ニ際シ健康診斷執行ニ關スル事項
  - 五 種痘普及ノ方法及無資力者ニ對スル種痘施行ニ關スル事項
  - 六 應急治療ニ關スル事項
  - 七 主治醫又ハ產婆ノ手ヲ經サル無資力者ノ死産兒及死體檢按ニ關スル事項
  - 八 恤救規則該當者ノ診斷及徵兵ニ關スル無資力者ノ診斷ニ關スル事項
  - 九 市吏員ノ身分ニ關シ必要ナル診斷執行ニ關スル事項
  - 十 掃除巡視水道検査員其他吏員採用上必要ナル體格検査執行ニ關スル事項
  - 十一 前各項ノ外醫務ニ關スル事項
- 第六條 課長專屬員ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 公印ノ管守ニ關スル事項
  - 二 課員ノ進退身分ニ關スル事項
  - 三 文書ノ收受發送並淨寫ニ關スル事項
  - 四 文書ノ處理延滞督促ニ關スル事項
  - 五 物品出納保管ニ關スル事項

六 前各項ノ外他係ノ主管ニ屬セサル事項

### 市醫職務章程

明治四十二年十二月二十四日  
〔市參事會議決〕第六千八百九十五號

- 第一條 本市ニ醫員若干名ヲ置キ内一名ヲ以テ醫員長ニ充ツ
- 第二條 醫員長ハ醫員ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理ス
- 第三條 醫員ハ衛生課ニ屬シ其擔任スル事項左ノ如シ
- 一 傳染病地方病ニ對スル豫防救治ニ關スル事項
- 二 傳染病患者隱蔽ノ有無調査ニ關スル事項
- 三 傳染病ノ疑アル者ニ對スル診斷又ハ檢按執行ニ關スル事項
- 四 傳染病患者發生ニ際シ健康診斷執行ニ關スル事項
- 五 種痘施行及其普及方法ニ關スル事項
- 六 應急治療ニ關スル事項
- 七 主治醫又ハ產婆ノ手ヲ經サル無資力者ノ死産兒及死體檢按ニ關スル事項
- 八 恤救規則該當者ノ診斷及徵兵ニ關スル無資力者ノ診斷ニ關スル事項
- 九 市吏員ノ身分ニ關シ必要ナル診斷執行ニ關スル事項
- 十 掃除巡視水道検査員其他吏員採用上必要ナル體格検査執行ニ關スル事項
- 十一 前各項ノ外醫務ニ關スル事項

第四條 毎月執行シタル事項ハ翌月十日限り之ヲ〔市參事會〕ニ報告スルモノトス

第五條 〔市參事會〕ニ於テ必要アリト認ムルトキハ臨時醫員ヲ任用シ又ハ醫員ノ職務ノ一部ヲ普通開業醫ニ囑託スルコトヲ得

### 區衛生掛員服制市告示 第三十六號

本市各區衛生掛員服制別紙圖例ノ通り之ヲ改正ス  
 告示第五十二號ヲ以テ圖例中帽徽章及上衣製式ノ關改正  
 大正二年三月二十九日市告示第四十三號ヲ以テ圖例中改正

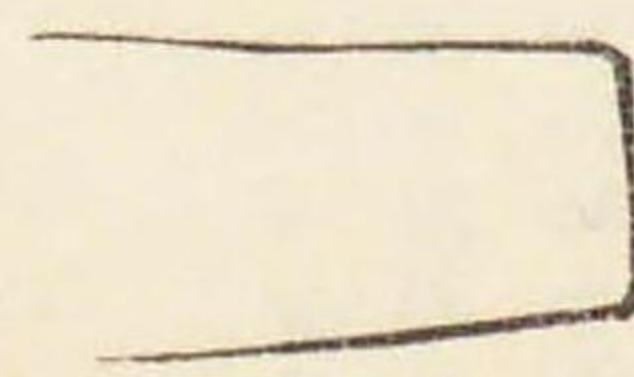
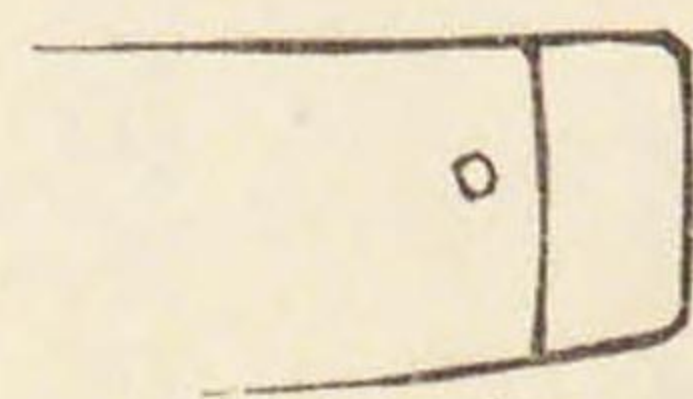
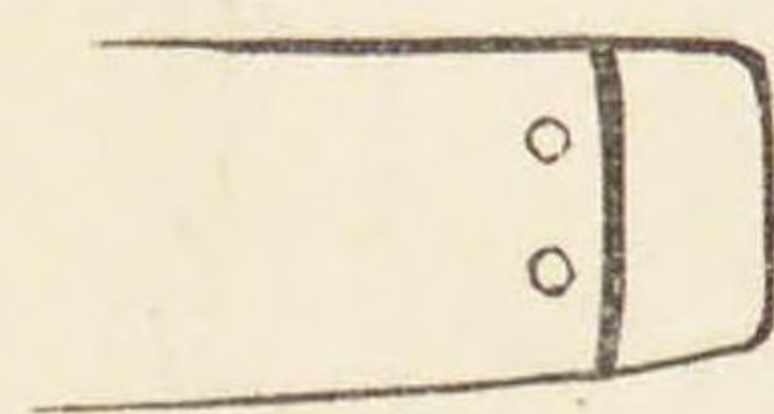
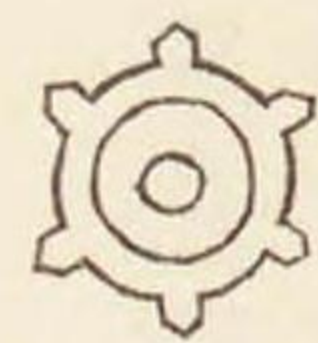
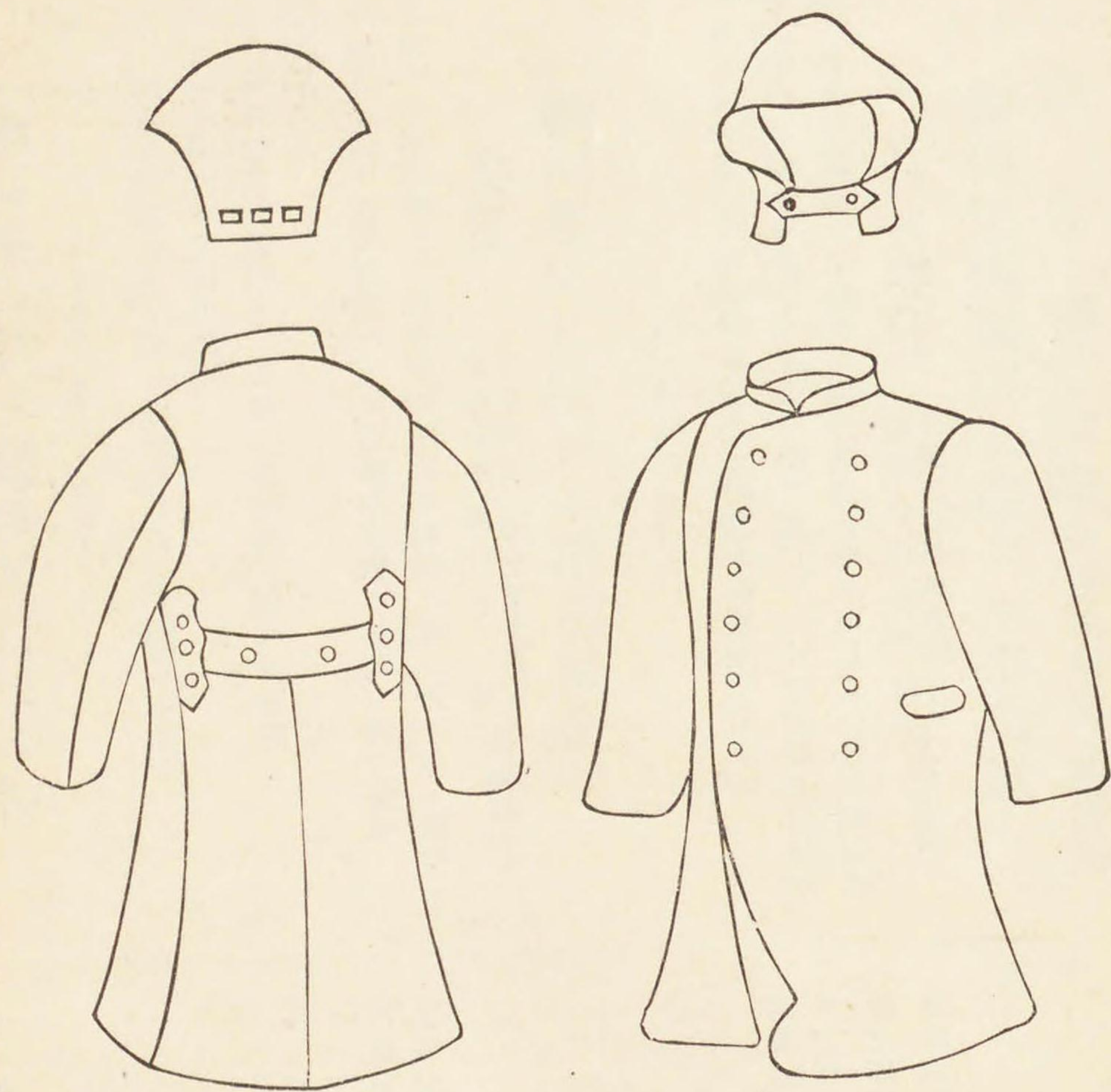
掛長	書記	掛員書記	書記補	附屬員
地質 黑羅紗	同上	同上	同上	同上
製式 圓形ニシテ黑色ノ前底及支革ノ兩端ハ帽ノ兩側ニ於テ各一個鈕ヲ以テ留ム形狀ノ如シ	同上	同上	同上	同上
徽章 桐葉五枚花五輪枝ノ下部ニテ結ヒ以テ抱擁ス其縱徑八分横徑一寸三分トシ帽ノ周圍ニ幅二	同上但黑線三條トス	同上但黑線二條トス	同上但黑線三條トス	同上但黑線一分ノ幅

夏服	套	外	袴	衣	上
地質 市徽章入胸六個ニシテ後部ニ八個ヲ附ス	地質 市徽章入胸六個ニシテ後部ニ八個ヲ附ス	地質 市徽章入胸六個ニシテ後部ニ八個ヲ附ス	地質 市徽章入胸六個ニシテ後部ニ八個ヲ附ス	地質 市徽章入胸六個ニシテ後部ニ八個ヲ附ス	地質 市徽章入胸六個ニシテ後部ニ八個ヲ附ス
鈕釦 市徽章入胸六個ニシテ後部ニ八個ヲ附ス	鈕釦 市徽章入胸六個ニシテ後部ニ八個ヲ附ス	鈕釦 市徽章入胸六個ニシテ後部ニ八個ヲ附ス	鈕釦 市徽章入胸六個ニシテ後部ニ八個ヲ附ス	鈕釦 市徽章入胸六個ニシテ後部ニ八個ヲ附ス	鈕釦 市徽章入胸六個ニシテ後部ニ八個ヲ附ス
袖章 市徽章入胸六個ニシテ後部ニ八個ヲ附ス	袖章 市徽章入胸六個ニシテ後部ニ八個ヲ附ス	袖章 市徽章入胸六個ニシテ後部ニ八個ヲ附ス	袖章 市徽章入胸六個ニシテ後部ニ八個ヲ附ス	袖章 市徽章入胸六個ニシテ後部ニ八個ヲ附ス	袖章 市徽章入胸六個ニシテ後部ニ八個ヲ附ス
製式 折襟胸ニ重後部ノ裾ヲ割キ又後部腰帶ニ帶緒ヲ各一個ノ物ヲ入チ附ス	製式 折襟胸ニ重後部ノ裾ヲ割キ又後部腰帶ニ帶緒ヲ各一個ノ物ヲ入チ附ス	製式 折襟胸ニ重後部ノ裾ヲ割キ又後部腰帶ニ帶緒ヲ各一個ノ物ヲ入チ附ス	製式 折襟胸ニ重後部ノ裾ヲ割キ又後部腰帶ニ帶緒ヲ各一個ノ物ヲ入チ附ス	製式 折襟胸ニ重後部ノ裾ヲ割キ又後部腰帶ニ帶緒ヲ各一個ノ物ヲ入チ附ス	製式 折襟胸ニ重後部ノ裾ヲ割キ又後部腰帶ニ帶緒ヲ各一個ノ物ヲ入チ附ス
地質 市徽章入胸六個ニシテ後部ニ八個ヲ附ス	地質 市徽章入胸六個ニシテ後部ニ八個ヲ附ス	地質 市徽章入胸六個ニシテ後部ニ八個ヲ附ス	地質 市徽章入胸六個ニシテ後部ニ八個ヲ附ス	地質 市徽章入胸六個ニシテ後部ニ八個ヲ附ス	地質 市徽章入胸六個ニシテ後部ニ八個ヲ附ス
鈕釦 市徽章入胸六個ニシテ後部ニ八個ヲ附ス	鈕釦 市徽章入胸六個ニシテ後部ニ八個ヲ附ス	鈕釦 市徽章入胸六個ニシテ後部ニ八個ヲ附ス	鈕釦 市徽章入胸六個ニシテ後部ニ八個ヲ附ス	鈕釦 市徽章入胸六個ニシテ後部ニ八個ヲ附ス	鈕釦 市徽章入胸六個ニシテ後部ニ八個ヲ附ス
袖章 市徽章入胸六個ニシテ後部ニ八個ヲ附ス	袖章 市徽章入胸六個ニシテ後部ニ八個ヲ附ス	袖章 市徽章入胸六個ニシテ後部ニ八個ヲ附ス	袖章 市徽章入胸六個ニシテ後部ニ八個ヲ附ス	袖章 市徽章入胸六個ニシテ後部ニ八個ヲ附ス	袖章 市徽章入胸六個ニシテ後部ニ八個ヲ附ス
製式 折襟胸ニ重後部ノ裾ヲ割キ又後部腰帶ニ帶緒ヲ各一個ノ物ヲ入チ附ス	製式 折襟胸ニ重後部ノ裾ヲ割キ又後部腰帶ニ帶緒ヲ各一個ノ物ヲ入チ附ス	製式 折襟胸ニ重後部ノ裾ヲ割キ又後部腰帶ニ帶緒ヲ各一個ノ物ヲ入チ附ス	製式 折襟胸ニ重後部ノ裾ヲ割キ又後部腰帶ニ帶緒ヲ各一個ノ物ヲ入チ附ス	製式 折襟胸ニ重後部ノ裾ヲ割キ又後部腰帶ニ帶緒ヲ各一個ノ物ヲ入チ附ス	製式 折襟胸ニ重後部ノ裾ヲ割キ又後部腰帶ニ帶緒ヲ各一個ノ物ヲ入チ附ス
地質 市徽章入胸六個ニシテ後部ニ八個ヲ附ス	地質 市徽章入胸六個ニシテ後部ニ八個ヲ附ス	地質 市徽章入胸六個ニシテ後部ニ八個ヲ附ス	地質 市徽章入胸六個ニシテ後部ニ八個ヲ附ス	地質 市徽章入胸六個ニシテ後部ニ八個ヲ附ス	地質 市徽章入胸六個ニシテ後部ニ八個ヲ附ス
鈕釦 市徽章入胸六個ニシテ後部ニ八個ヲ附ス	鈕釦 市徽章入胸六個ニシテ後部ニ八個ヲ附ス	鈕釦 市徽章入胸六個ニシテ後部ニ八個ヲ附ス	鈕釦 市徽章入胸六個ニシテ後部ニ八個ヲ附ス	鈕釦 市徽章入胸六個ニシテ後部ニ八個ヲ附ス	鈕釦 市徽章入胸六個ニシテ後部ニ八個ヲ附ス
袖章 市徽章入胸六個ニシテ後部ニ八個ヲ附ス	袖章 市徽章入胸六個ニシテ後部ニ八個ヲ附ス	袖章 市徽章入胸六個ニシテ後部ニ八個ヲ附ス	袖章 市徽章入胸六個ニシテ後部ニ八個ヲ附ス	袖章 市徽章入胸六個ニシテ後部ニ八個ヲ附ス	袖章 市徽章入胸六個ニシテ後部ニ八個ヲ附ス
製式 折襟胸ニ重後部ノ裾ヲ割キ又後部腰帶ニ帶緒ヲ各一個ノ物ヲ入チ附ス	製式 折襟胸ニ重後部ノ裾ヲ割キ又後部腰帶ニ帶緒ヲ各一個ノ物ヲ入チ附ス	製式 折襟胸ニ重後部ノ裾ヲ割キ又後部腰帶ニ帶緒ヲ各一個ノ物ヲ入チ附ス	製式 折襟胸ニ重後部ノ裾ヲ割キ又後部腰帶ニ帶緒ヲ各一個ノ物ヲ入チ附ス	製式 折襟胸ニ重後部ノ裾ヲ割キ又後部腰帶ニ帶緒ヲ各一個ノ物ヲ入チ附ス	製式 折襟胸ニ重後部ノ裾ヲ割キ又後部腰帶ニ帶緒ヲ各一個ノ物ヲ入チ附ス

備考  
 一 夏服ハ上衣一著袴二著ヲ支給スルコト  
 改正ハ來ル六月一日ヨリ施行スルコト

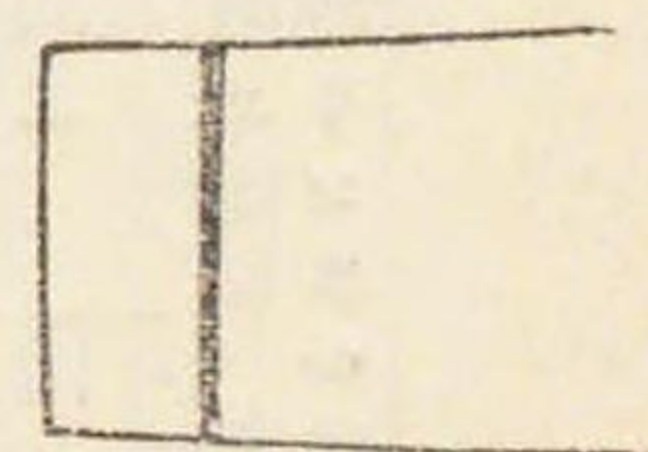
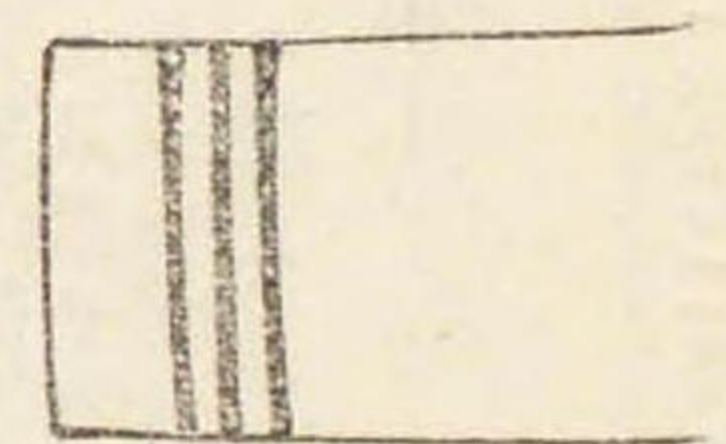
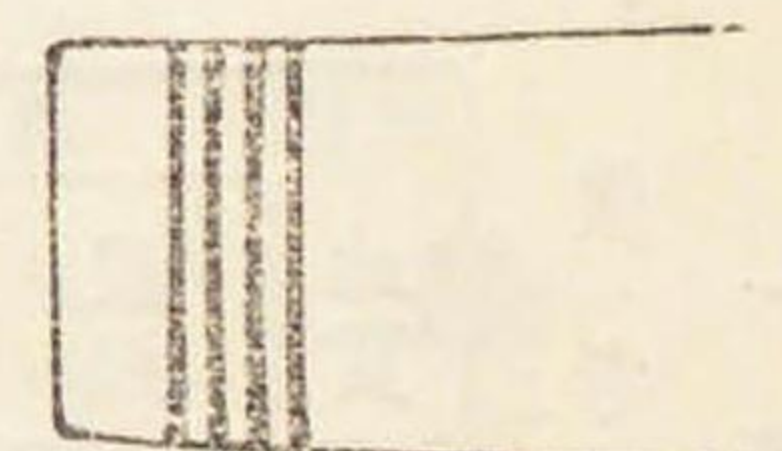
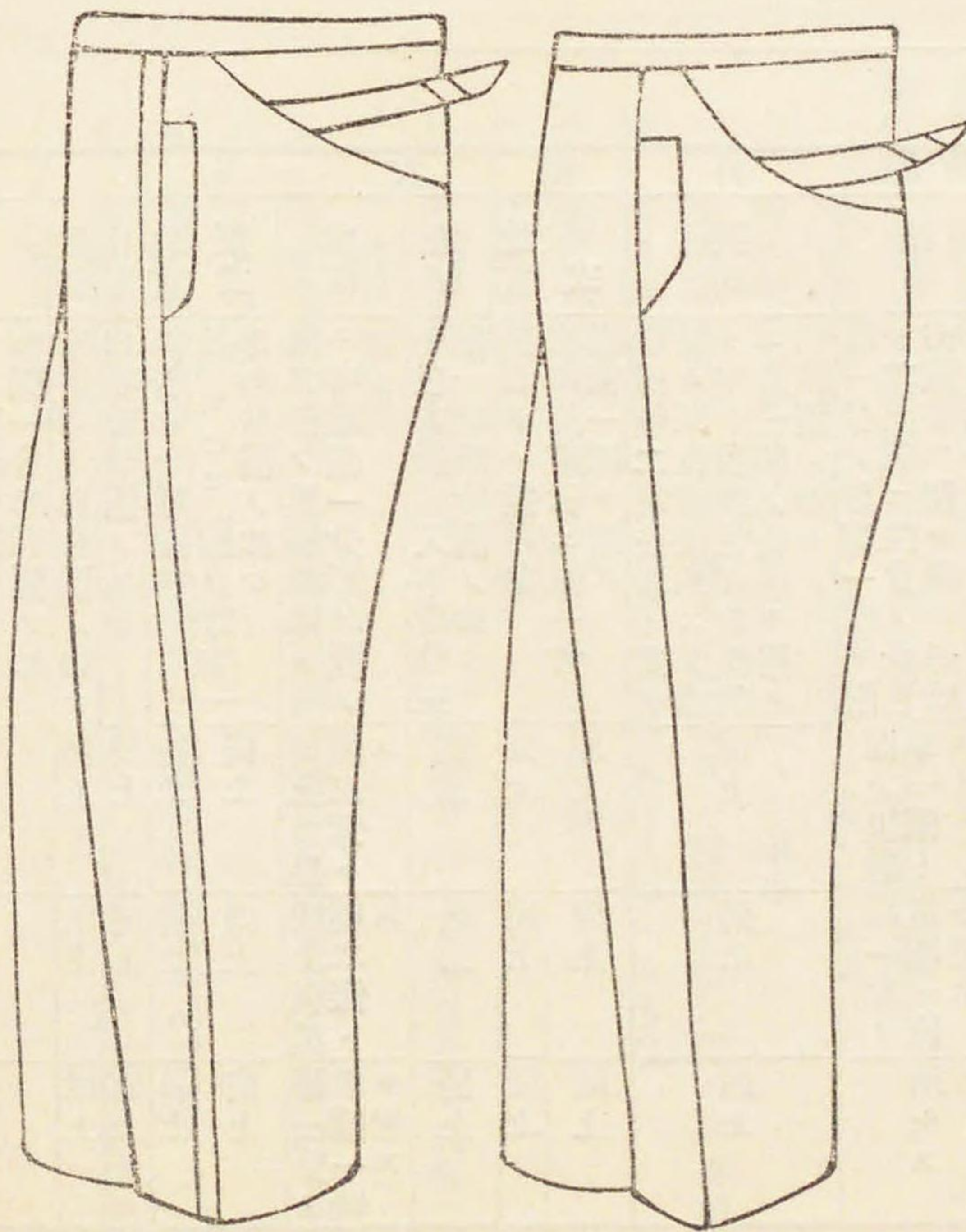
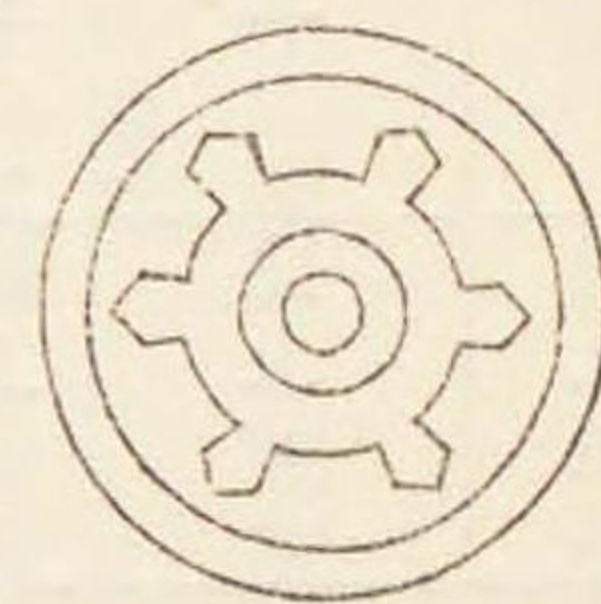
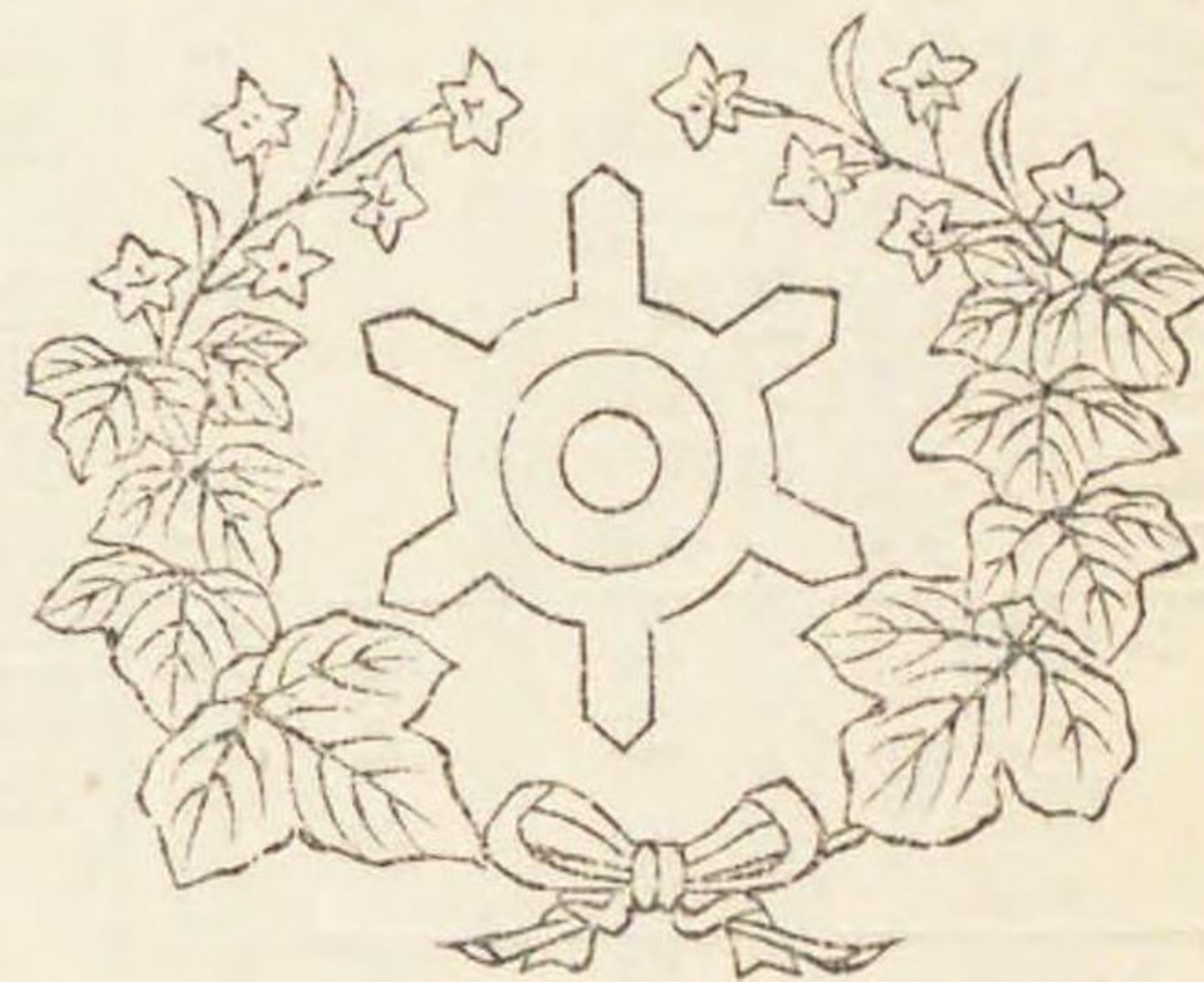
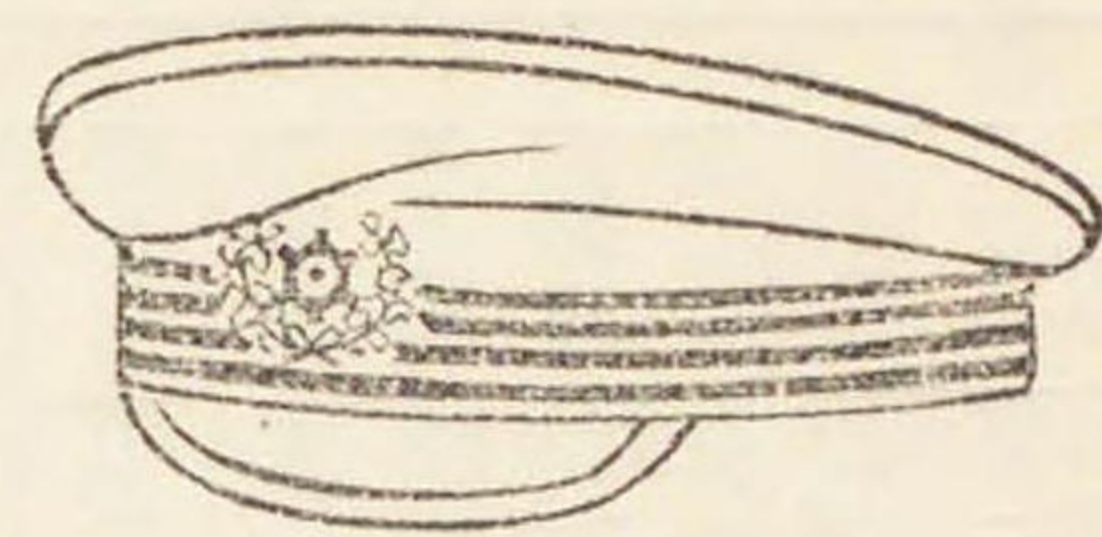
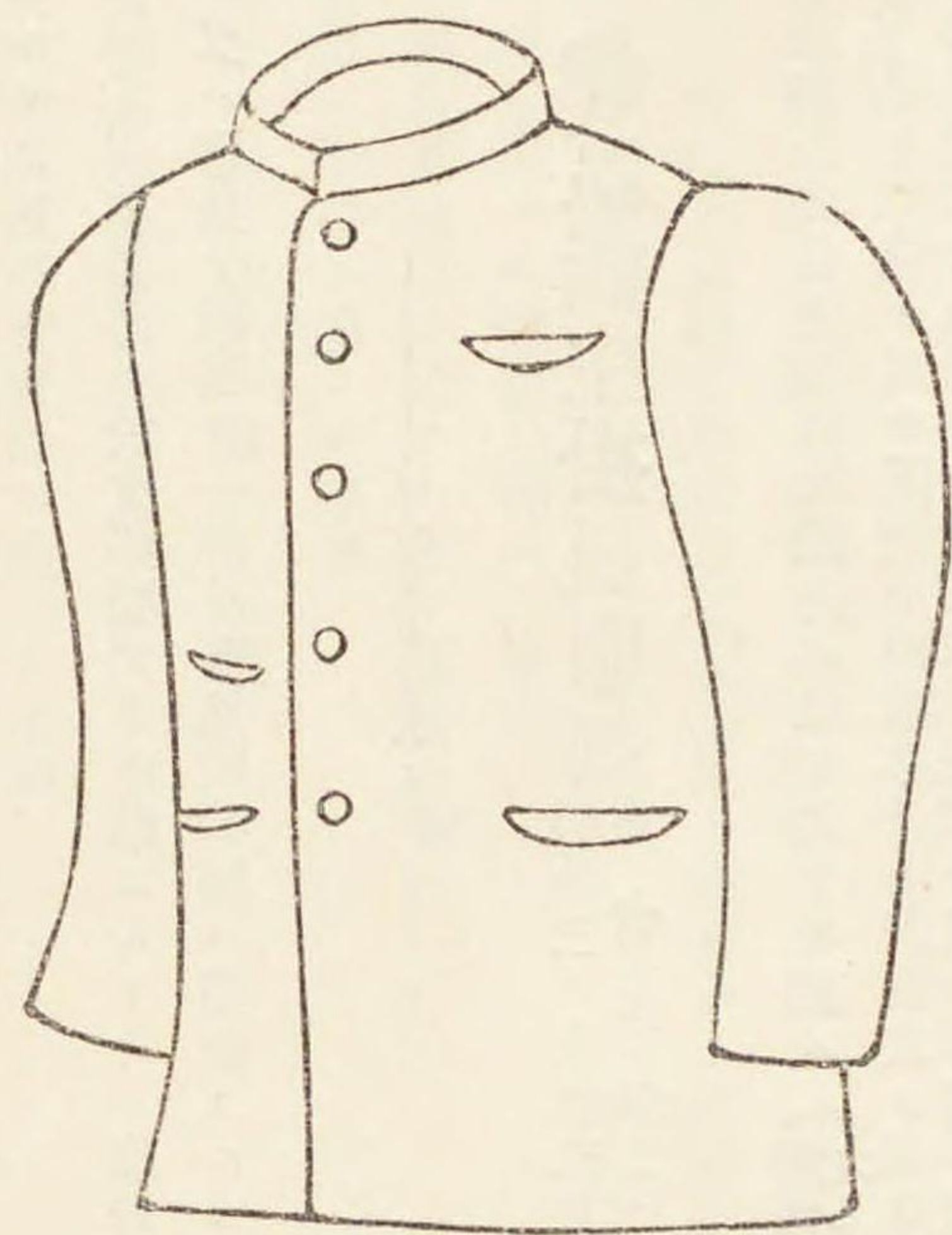


第二篇 類規  
第二類 衛生  
第一節 通規



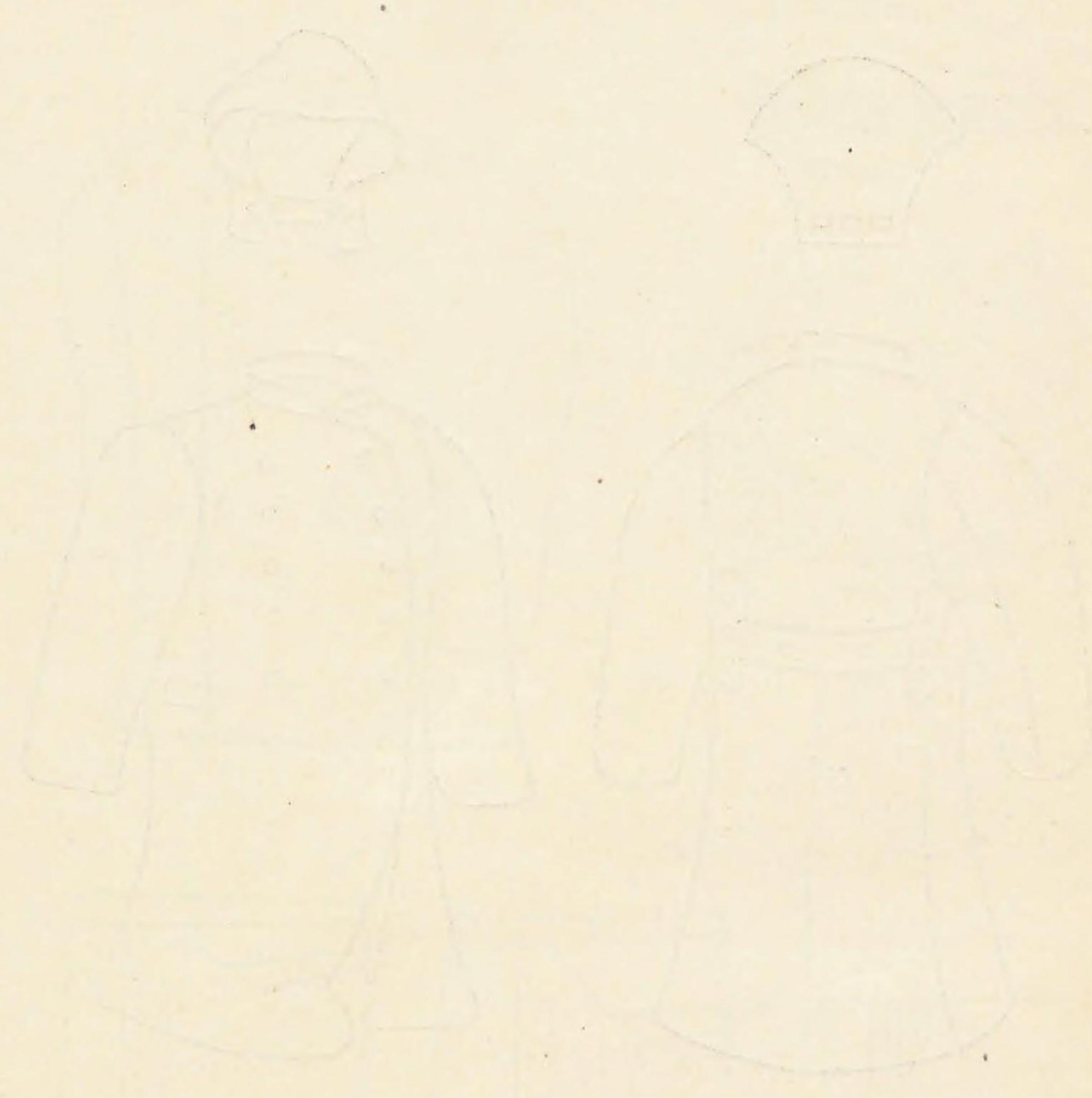
二六三

第二篇 類規  
第二類 衛生  
第一節 通規



二六二





第二節 豫防消毒附傳染病院、消毒所

●傳染病豫防ニ關スル事項區

長ニ委任 明治三十年五月四日(各區役所) 市訓令甲第八號

本年三月法律第三十六號傳染病豫防法ニ依リ來五月一日以降區内傳染病豫防ニ關スル事項ハ其區ニ於テ施行スヘシ但豫防法施行手續ハ追テ訓令候迄ハ所轄警察署長ト協議シ便宜取計フヘシ

●癩豫防ニ關スル事項區長ニ委任

明治四十二年十月十五日(各區役所) 市訓令甲第三十一號

明治四十年法律第十一號施行規則第九條第二項ニ依リ左ノ職務ハ自今區長ニ於テ補助執行スヘシ但取扱手續ハ従前ノ例ニ據ル

(左記)

- 一 癩病者及其同伴者、同居者等送致ニ關スル事項
- 二 癩ニ關スル諸報告事項
- 三 救護中死亡シタル者ノ假埋葬及告示ニ關スル事項

●區長ニ於テ補助執行セシ傳染病豫防法施行規則第十五

染病豫防法施行規則第十五

第二篇 類規 第二類 衛生 第二節 豫防消毒 附傳染病院消毒所

條第二項其他ノ事務處理方

明治四十四年十二月七日(各區長宛) 助役通牒一發第一萬二千六十七號

從來區長ニ於テ補助執行セシ傳染病豫防法施行規則第十五條第二項及癩豫防ニ關スル法施行規則第九條第二項ニ依ル事務其他ニシテ區内ニ關スルモノハ總テ従前ノ通り處理セラルヘク依命此段及通牒候也

●傳染病豫防手續警察署長ト協議處理方

明治三十年六月十五日(各區役所) 市訓令甲第十一號

東京府訓令第十六號ヲ以テ傳染病豫防手續定メラレ候就テハ其區内施行ニ關シテハ所轄警察署長又ハ警察分署長ト協議シ便宜處理スヘシ

●傳染病豫防消毒費支出手續

明治四十五年二月二十七日(各區役所) 市訓令甲第一號

第一條 傳染病患者死者ノ取扱及該病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル物件ニ對シ傳染病豫防法ニ依リ本市ニ於テ施行スヘキモノ



ハ市費ヲ以テ之ヲ處辨スヘシ

第二條 左ノ事項ハ貧困者行旅傳染病者ヲ除ク外ハ處置スルノ限ニ在ラス

一 葬具ノ供給、死體運搬、火葬

二 遮斷並隔離賄供給

第三條 第一條ニ依リ處辨スヘキモノノ中左ニ掲クル事項ハ各其制限ニ從フヘシ但此制限ニ據リ難キ場合ハ施行後直ニ事由ヲ報告スヘシ

一 患者送院人夫及死體運搬人夫ハ患者死者一人ニ付四人以内トス

二 消毒方法(消毒ニ附隨シテ施行スル清(潔)方法並消毒物運搬ヲ含ム)施行人夫ハ一月一回ニ付ハスト病ハ十八以内其他ハ五人以内トス但自宅治療ニ係ルモノノ消毒物運搬人夫ハ此制限ニ依ルノ限ニ在ラス

三 遮斷並隔離雜役人夫ハ一區域十戸迄ハ一日一人以上十戸迄ヲ増ス毎二人ヲ増スコトヲ得

四 第一號第二號ノ人夫賃ハ一人金六拾錢以内第三號ノ人夫賃ハ一人金五拾錢以内トス

五 遮斷並隔離賄ハ現金ヲ以テ支給スルモノトシ一食金六錢トス

六 葬具費ハ一人ニ付金壹圓六拾錢以内トス

第四條 備品ハ新調修繕及藥品消耗品ノ購入ニシテ見積金額拾圓ヲ超過スルトキハ認可ヲ經ヘシ

第五條 左ノ費用ハ義務者ヨリ辨償セシムヘシ但貧困者ニ對シテハ此限ニ在ラス

一 家屋消毒並燒却物運搬人夫賃

二 燒却場ニ送付シタル燒却用品代及燒却料

五 消毒所使用料

### 疑似虎列刺病患者眞症ニアラサル場合ノ消毒人夫賃市費支辨方

明治四十一年七月三十日(各區長宛) 助役通牒衛發第九百七十二號

虎列刺患者發生ノ届出ニ對シ不取敢患者ノ應急消毒ヲ行ヒ而シテ之ニ要シタル人夫賃ノ辨償方ハ後ニ細菌検査ノ結果患者ノ眞性ニ非ラサルモノト決定セシトキハ貧富ヲ論セス市費ヲ以テ負擔スルコトニ相成候條御承知有之度此段及通牒候也

### 豫防消毒費領收證書式

明治三十一年四月七日(各區長宛) 書記官通牒內五發第九十七號

豫防消毒費領收證ノ儀ハ從來一定ノ書式無之ニ依リ區區ニ相成整理上差支候條向後別紙書式ニ依リ調製セシメラレ度此段申入候

也 (別紙)

一金 何圓也 證

何月何日何病患者何町何番地

何ノ誰(長男某等)ニ係ル分

金 何程

金 何程

金 何程

金 何程

金 何程

金 何程

金 何程

金 何程

金 何程

金 何程

金 何程

右正ニ領收候也

請負人

何區何町何番地

明治 年 月 日

何 區 長 宛

何ノ 誰印

備考(一患者毎一枚ヲ要ス)

一金 何圓也 證

金 何程

金 何程

金 何程

金 何程

金 何程

金 何程

金 何程

金 何程

金 何程

金 何程

金 何程

金 何程

金 何程

金 何程

金 何程

金 何程

金 何程

金 何程

金 何程

金 何程

金 何程

金 何程

金 何程

金 何程

金 何程







醫 員  
調 藥 員  
事 務 員  
機 關 手  
看 護 婦 長  
雇 員

第二條 院長ハ市長ノ指揮監督ヲ承ケ院務ヲ掌理シ部下ヲ監督ス  
副院長ハ技師又ハ醫員ヲ以テ之ニ充テ院長ヲ補佐シ院長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

事務長ハ主事又ハ事務員ヲ以テ之ニ充テ院長ノ命ヲ承ケ庶務會計ヲ處理ス  
技師及醫員ハ院長ノ命ヲ承ケ患者ノ治療、病毒傳播ノ豫防並消毒ニ從事ス

調藥員ハ院長ノ命ヲ承ケ調劑及藥餌品ノ試験ニ從事ス  
事務員ハ院長又ハ事務長ノ命ヲ承ケ庶務、會計ニ從事ス  
機關手ハ院長ノ命ヲ承ケ蒸汽機關ノ運用ニ從事ス

看護婦長ハ院長ノ命ヲ承ケ看護婦ヲ指揮シ看護ノ事務ヲ處理ス  
雇員ハ上司ノ指揮ヲ承ケ諸般ノ事務ニ從事ス

第三條 院長、副院長事故アルトキハ首席醫員其職務ヲ代理ス

第四條 院長ハ市長ノ認可ヲ受ケ處務細則其他ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第五條 院長ハ別ニ定ムル規程ニ據ルモノヲ除クノ外左ノ事項ヲ

專行ス

一 院務ニ關シ職名又ハ院名ヲ以テ文書ノ往復ヲ爲スコト  
二 職員以下ニ除服出仕ヲ命シ及請假ヲ許スルコト

三 講師ノ任命囑託ニ關スルコト

四 助手、雇員、臨時雇員(臨時雇員ハ醫員(調藥員等ヲ含ム)看護婦、小使、雜使婦、洗濯人、火夫、消毒夫、動物飼養人等ヲ備罷又ハ臨時病院、隔離所開設ノ場合必要ニ方リ其轉勤ヲ命スルコト但給料月額(日給者ノ月額ハ一箇月)貳拾五圓以上ノ者ヲ雇備スル場合ハ市長ノ認可ヲ經ヘシ(大正元年九月二十八日市長判決ニ發第千四百十三號ヲ以テ臨時病院開設又ハ隔離施行ノ際ハ本號但書ノ事項當該)首長限リ豫算個當ノ範圍内ニ於テ專決スルコトトナレリ)

五 職工人足ヲ雇入ルルコト

六 看護婦ヲ養成スルコト

七 患者ノ收容並退院者及死者ノ引渡ヲ爲スコト

八 病室其他ノ狀況ニ依リ郡部委託患者ノ入院ヲ許スルコト

九 付添看護ヲ許スルコト

十 制規ノ手續ヲ履踐シ必要ナル死屍ノ剖檢ヲ爲スコト

十一 院務ニ關シ職員以下ニ一泊以内ノ出張ヲ命スルコト

十二 枯損及障礙木伐採處分ヲ爲スコト

十三 糞尿及下草ノ拂下ヲ爲スコト

前項第三號、第四號、第八號、第十號、第十二號ノ事項ハ其部度第七號ノ患者入退ハ毎日之ヲ市長ニ報告スヘシ

第六條 院長ハ毎年一月十五日限リ前一箇年間ノ事務成績ヲ市長

ニ報告スヘシ但臨時必要ト認ムル場合及統計ニ關スル事項等ハ其都度適宜報告スヘシ

附 則

本規程ハ明治四十二年四月一日ヨリ施行ス

本規程ニ抵觸スル從前ノ諸規程ハ本規程施行ノ日ヨリ廢止ス

(注 意) 〔本規程ハ臨時病院、隔離所開設ノ場合ニ於テモ準用スル旨同日決議ヲ經タリ〕

### 市立駒込病院處務細則

明治四十四年三月二十七日  
市長認可ニ乙第三百八十六號ノ二

- 第一章 總 則
- 第二章 醫 局
- 第三章 藥 局
- 第四章 事 務 局
- 第五章 機 關 手
- 第六章 看 護 婦 長
- 第七章 服 務 心 得
- 第八章 宿 直 心 得
- 第九章 附 則
- 第一章 總 則
- 第一條 本院ニ左ノ三局ヲ置ク

第二篇 類規 第二類 衛生 第二節 豫防消毒 附傳染病院消毒所

醫局、藥局、事務局

第二條 院務ヲ分掌スルコト左ノ如シ

醫 局

- 一 診察、治療ニ關スル事項
  - 二 病床日誌ニ關スル事項
  - 三 入退院患者ノ診定其他異變ニ關スル事項
  - 四 患者飲食物ノ指定並之カ検査ニ關スル事項
  - 五 清潔及消毒其他衛生方法ノ指示ニ關スル事項
  - 六 病舎ノ整理及試験室ノ取締ニ關スル事項
  - 七 患者配置ニ關スル事項
  - 八 看護婦雜使婦ノ養成ニ關スル事項
  - 九 病舎ノ非常準備ニ關スル事項
  - 十 解剖ニ關スル事項
  - 十一 物品受拂及保管ニ關スル事項
  - 十二 醫務ノ統計及報告材料ニ關スル事項
- 藥 局
- 一 調劑、製藥及製煉ニ關スル事項
  - 二 藥品及飲食物ノ消毒並化學的試験ニ關スル事項
  - 三 處方録保管ニ關スル事項
  - 四 藥局及附屬室ノ整理並取締ニ關スル事項
  - 五 藥品及其他物品ノ受拂並保管ニ關スル事項
  - 六 藥物ノ統計及報告材料ニ關スル事項